別添２

平成２６年度　キャリア教育優良教育委員会、学校及びＰＴＡ団体等の推薦調書　目次

＜青森県＞
青森市立東陽小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
青森県平川市立碇ヶ関小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
青森県平川市立碇ヶ関中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
あおもりで「生きる・働く」を学ぶ下北地区実行委員会・・・４
＜岩手県＞
宮古市立第二中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
岩手県立宮古工業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
＜宮城県＞
南三陸町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
村田町立村田第二中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
宮城県鹿島台商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
＜秋田県＞
大館市立長木小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
大仙市立協和中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
＜山形県＞
山形県立新庄神室産業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・１０
＜茨城県＞
取手市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
水戸市立内原中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
坂東市立岩井中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
＜栃木県＞
宇都宮市立清原中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
栃木県立足利工業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
＜群馬県＞
ぐんま国際アカデミー中高等部保護者会「ＳＨＩＰ」・・・１５
＜千葉県＞
佐倉市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
成田市立公津の杜小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
＜東京都＞
多摩市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７
東京都立秋留台高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
蒲田女子高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
東京都立永福学園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９
認定特定非営利活動法人　府中ＰＦＳ・・・・・・・・・・・２０
＜神奈川県＞
横須賀市立坂本中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
神奈川県立新城高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
＜新潟県＞
胎内市立黒川中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
直江津東地域学園運営協議会（直東学園）・・・・・・・・・２２
＜富山県＞
富山県立砺波工業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
＜石川県＞
石川県立大聖寺実業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
＜長野県＞
伊那市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
泰阜村立泰阜中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
長野県飯田高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

＜岐阜県＞
各務原市立桜丘中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
可児市立広陵中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
岐阜県立不破高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７
瑞浪市進路学習推進委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
＜静岡県＞
静岡県立稲取高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
＜愛知県＞
安城市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
稲沢市立領内小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
田原市立田原中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３０
＜三重県＞
三重県立いなべ総合学園高等学校・・・・・・・・・・・・・・３１
特定非営利活動法人　ａ　ｔｒｉｏ・・・・・・・・・・・・３２
＜滋賀県＞
竜王町教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
高島市立高島中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
＜京都府＞
京都府立洛水高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
＜大阪府＞
大阪府和泉市立幸小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・３５
＜兵庫県＞
丹波市立西小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
兵庫県立武庫荘総合高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・３６
兵庫県立高等特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
＜奈良県＞
奈良県立奈良情報商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・３８
富雄中学校区地域教育協議会・・・・・・・・・・・・・・・・３８
＜鳥取県＞
鳥取市立西中学校教育振興会・・・・・・・・・・・・・・・・３９
＜岡山県＞
岡山県立岡山東商業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・３９
岡山県立倉敷鷲羽高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
＜広島県＞
安芸太田町立殿賀小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
竹原市立吉名中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
広島県立福山北特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・４２
日本ホテル・レストランサービス技能協会
中四国地区事務局・・・・・・・・・４３
＜山口県＞
周南市立岐山小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
山口市立二島中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
山口県立大津緑洋高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・４６
＜徳島県＞
徳島県立海部高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５０
＜香川県＞
香川県立三豊工業高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・５１
香川県ＰＴＡ連絡協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
＜愛媛県＞
松山市立雄新中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
愛媛県立小松高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５２
愛媛県立みなら特別支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・５３

＜福岡県＞
朝倉市立十文字中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５４
福岡県立福岡魁誠高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
福岡県立大川樟風高等学校ＰＴＡ・・・・・・・・・・・・・・５５
＜佐賀県＞
大町町立大町小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
伊万里市立波多津小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・５７
大町町立大町中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
＜鹿児島県＞
曽於市教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５８
垂水市立協和小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
鹿児島県立野田女子高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・５９
＜沖縄県＞
沖縄県伊平屋村教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・６０
沖縄県南風原町立北丘小学校・・・・・・・・・・・・・・・・６１
沖縄県竹富町立西表小中学校・・・・・・・・・・・・・・・・６１
沖縄県立普天間高等学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
沖縄県立那覇国際高等学校ＰＴＡ・・・・・・・・・・・・・・６３
＜仙台市＞
仙台市立木町通小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
仙台市立中山中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
＜川崎市＞
川崎市立平中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
＜横浜市＞
特定非営利活動法人　Ａ.Ｓ.Ｃ.Ｃ・・・・・・・・・・・・・６５
＜京都市＞
京都市立中京中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６６
京都こどもモノづくり事業推進委員会・・・・・・・・・・・・６６
＜大阪市＞
大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校・・・・・・・・６７
＜神戸市＞
神戸市立太山寺小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
神戸市立青陽須磨支援学校・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
＜広島市＞
広島市立湯来中学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９

	種別	被表彰団体名	推薦理由
青森県	学校	青森市立東陽小学校	**１　研究指定校として** 　青森市立東陽小学校（以下「推薦校」）は，平成２３年度～２５年度の３年間青森県教育委員会の重点事業「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」の研究指定を受け，『「つくる」「つたえる」「つなぐ」キャリア教育の推進』をテーマに同地区にある青森市立野内小学校，青森市立原別小学校，青森市立東中学校，青森県立青森工業高等学校と連携しながら大変意欲的に研究を行った。 **２　地域の特色を生かした研究内容と持続可能な取組** （１）縦の連携１　「ものづくり」を基軸とした小・中・高が連携した実践 　青森工業高等高学校のリーダーシップの下,「ものづくり」を基軸とした小・中・高が連携したキャリア教育を実践することにより，児童生徒に現在の学びと社会（職業）とのつながりを自覚させたり，将来を判断する情報の一つとして，ものをつくるすばらしさ，面白さ，楽しさをつたえたりするとともに，教職員間の連携により，系統的・発展的に指導内容をつないだキャリア教育の計画を構築し，実践した。 （２）縦の連携２　既存の「小・中連携」を基軸とした小・中学校が連携した実践 　東中学校のリーダーシップの下，既存の「小・中連携」の取組を基軸とした小・中学校が連携したキャリア教育を実践することにより，互いの学校の情報をつたえあい，児童生徒相互の円滑な人間関係をつくるとともに，教職員間の連携により，系統的・発展的に指導内容をつないだキャリア教育の計画を構築し，実践した。 （３）横の連携　各学校による家庭・地域と連携した実践 　教科等の指導において，家庭・地域と連携したキャリア教育を実践することにより，児童生徒に地域・社会とのつながりを自覚させるとともに，将来の生き方や進路を考える契機をつくった。また，キャリア教育に関する情報を効果的につたえることにより，学校と家庭・地域とをつなぎ，それぞれの役割を認識しながらキャリア教育を推進した。 （４）基盤づくり　キャリア教育推進のための基盤づくり ①キャリア教育推進に係る校内組織を整備，その充実を図った。 ②自校の子供や地域の実態及び課題を把握した上で，目指すべき児童生徒の姿から課題を設定し，指導計画（全体計画，年間計画）を作成し，その改善を図った。 ③学校の教育活動の中にあるキャリア教育の「断片」を洗い出し，体系的・系統的に整理し，効果的な実践方法を確立するとともに実践を積み重ねた。 ④教育活動全体を通して，キャリア教育との関連を図った授業等を校内研修ともリンクさせながら，意図的・計画的に実践した。 （５）意識調査　キャリア教育で目指す各学校の児童生徒像の設定 ①校内での共通理解のもとに全体計画及び年間指導計画に反映させた。 ②経年比較により，児童生徒の変容を把握し，キャリア教育の成果と課題について３年間の変容を検証した。 （６）年間指導計画　　各学校による作成・活用及び修正 　青森県のキャリア教育で培いたい資質，能力，態度に合わせて作成し，加除・修正を行い，毎年改善を図った。 **３　管内のキャリア教育推進に対する貢献** 　上記研究内容を踏まえ，「平成２４年度　明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業東青地域キャリア教育推進協議会実践発表会」において実践発表した。 　また，新規事業であるあおもりで「生きる・働く」を学ぶキャリア教育実践事業における東青管内キャリア教育地区研修会においても実践発表を行い，特に青森県のキャリア教育を推進する１つの方策である「キャリアノート」の活用事例は，参加者にとって非常に参考になった。

			以上のように，推薦校は，研究指定の期間に校内及び小・中・高との連携体制を整え，着実に研究の成果を積み重ねた。また，研究指定終了後の現在も持続可能なキャリア教育の推進に創意工夫を持って取り組み，当地域のキャリア教育先進校として今後もその成果を波及させることができると考え，推薦いたします。
	学校	青森県平川市立碇ヶ関小学校	平川市立碇ヶ関小学校は，平成２３年度～平成２５年度の３年間，青森県教育委員会の重点事業「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」の研究指定を受け，同地区にある碇ヶ関中学校，隣の市にある青森県立弘前実業高校と連携しながら研究・実践を積み重ねてきた。その間の取組は，青森県教育委員会が作成した「キャリア教育の指針（実践編)」にも数多く取り上げられ，県全体のキャリア教育推進・充実に大きく寄与している。 また，研究指定が終了した後も，小中連携及び地域連携を軸に，キャリア教育推進の中核校として，市全体のキャリア教育推進・啓発への貢献が顕著である。 【具体的取組】 **１　校種間連携** （１）弘前実業高校との連携 ①「花いっぱいになあれ」 全校児童が縦割り班に分かれ，農業経営学科の生徒の指導で，花の苗の植付けを行い，給食時間等も共に過ごした。 ②「はたらく人になるために」 ５，６年生が高校を訪問し，各専門コースで体験活動に参加した。将来について考える機会となった。 ③「弘実生に学ぼう～出前授業～」 スポーツ科学科の生徒が来校し，５，６年生児童に運動の実技指導を行った。清掃・給食時も共に過ごし，高校生への親近感と尊敬の気持ちをもつ機会となった。 （２）碇ヶ関中学校との連携 ①「小中合同運動会」 準備，入場行進，選手宣誓，碇ヶ関音頭を合同で実施した。放送等の各係もそれぞれに役割を分担した。 ②「中学生になるために」シリーズ 中学校一日入学で，６年生が中学校の授業を体験した。また，小中情報交換会では中学１年生が来校し，中学校での生活を寸劇等で紹介。グループに分かれての質疑応答も実施した。 （３）碇ヶ関中央保育園との連携 ①「笑顔がキラキラ大作戦」 ６年生が保育園を訪問した。学習で作成した学校パンフレット等を手渡すとともに，園児との交流活動を行った。 ②「ようこそ碇ヶ関小学校へ」 園児が来校。１年生が学校生活について実演を盛り込んで紹介した。その後，ゲーム等で交流を深めた。 **２　地域・家庭との関わり** （１）各教科の地域教材を生かした教育活動をキャリア単元として実施 （２）地域にある老人福祉施設３施設を学年ごとに訪問 （３）学校だよりや学校行事への招待状を地域の方に直接手渡しする活動に関わる，「ＳＨＯＴメンバー（関小配達おまかせ隊)」を組織 （４）地域で活躍する方々を招いて講話や鑑賞，体験活動を行う，「はたらく人発見！～きらめきタイム～」の実施 （５）ふるさと意識を育てるために，保小連携しての地域主催行事への参加 （「クリーン作戦」「たけのこマラソン」等） （６）夏季休業，冬季休業の課題として全校児童が取り組む，各家庭での「お手伝い大作戦」の実施 （７）勤労感謝の日にあわせ「家族のお仕事インタビュー大作戦」を実施

			３　その他（ＮＰＯ法人との連携，校内での取組） （１）ＮＰＯ法人「Ｒ．ぷらっと」による出前授業の実施 （２）養護教諭及び栄養士等による「未来に生きる体をつくろう　～ＡＫＢ教室」の実施（ＡＫＢは All Kids be Best condition の頭文字） （３）縦割り班での「なかよしＨＡＴ遠足」の実施（ＨＡＴは地域を「発見しよう，遊ぼう，体験しよう」の頭文字） （４）異学年交流「なかよし班活動」の推進 （５）はたらく心の育成を目指した「清掃活動」への取組 以上のように，キャリア教育の視点で全教育活動を捉え直し，学校経営の柱にキャリア教育の推進・充実を掲げている。家庭や地域，他校種と連携した取組，すなわち，「縦の連携」「横の連携」を意識したキャリア教育を全教職員による協同指導体制の下，系統的・体系的なキャリア教育を計画的・組織的に実践している。また，その成果を平川市キャリア教育研修会や中南管内キャリア教育実践発表会等で発表し，広く中南管内に波及させた功績がある。さらに，青森県版キャリアノートに平成２５年度より取り組み，平成２６年度からは碇ヶ関中学校と連携した活用を実践し，その効果等については平成２６年度キャリア教育実践事業地区研修会において発表する予定で，更に中南管内のキャリア教育の推進に貢献できると確信している。以上のような理由で推薦いたします。
	学校	青森県平川市立碇ヶ関中学校	平川市立碇ヶ関中学校は，平成２３年度～平成２５年度の３年間，青森県教育委員会の重点事業「明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業」の研究指定を受け，同地区にある碇ヶ関小学校，隣の市にある青森県立弘前実業高校と連携しながら研究・実践を積み重ねてきた。その間の取組は，青森県教育委員会が作成した「キャリア教育の指針（実践編）」にも数多く取り上げられ，県全体のキャリア教育推進・充実に大きく寄与している。 また，研究指定が終了した後も，小中連携及び地域連携を軸に，キャリア教育推進の中核校として，平川市のみならず，中南管内のキャリア教育推進・啓発への貢献が顕著である。 【具体的取組】 **１　職場体験学習の充実** （１）「校内ハローワーク」の実施 ①受入先の求人票を掲示し，希望する理由を明確にした上で，生徒に事業所を選択させた。 ②生徒は，実際に履歴書を作成（写真添付）して事業所に提出した。 （２）事前指導の実施 ①各自が事業所に電話をし，勤務時間，持ち物，服装などの詳細を確認した。 ②学校ではマナー指導を行った。 （３）５日間の職場体験の実施 ①あえて地域の事業所ではなく，隣の市の１９事業所にお願いし，１人１事業所で実施した。 ②毎日の自己評価を５日間積み重ねたことで，１日ごとに，仕事への取組の様子や意欲に改善が見られた。 （４）事後指導の実施 ①保護者参観日に報告会を開くことを周知し，５日間の体験を個々に新聞にまとめさせた。 ②職場からの評価カードを生徒に返し，自己評価と比較させた。 （５）職場体験報告会の実施 ①キャリア教育推進・啓発の一環として，保護者参観日で報告会を実施した。 ②体験についてスライド等も活用し，堂々と発表していた。 **２　校種間連携** （１）保・小・中連携 ①「クリーン作戦」の実施

			中学生をリーダーに園児・児童・生徒で縦割り班をつくり，班ごとに割り当てられた地区の清掃活動を行った。リーダーとしての自覚をもって園児・児童の活動を支援していた。 ②「小中合同運動会」の実施 準備，入場行進，選手宣誓，碇ヶ関音頭を合同で実施した。放送等の各係もそれぞれに役割を分担した。 ③小中情報交換会「中学生に学ぼう」への生徒派遣 小中情報交換会に，中学１年生を派遣。中学校での生活を寸劇等で紹介した。グループに分かれての質疑応答も実施した。 （２）中・高連携 ①弘前実業高校農業経営学科の生徒とともに花の苗の植付け（６月） ②弘前実業高校卒業生との懇談会（７月） ③弘前実業高校における調査活動発表会への参加（１２月） ④現役高校生（碇ヶ関中卒業）による進路講話（２月） **３　その他（ＮＰＯ法人との連携，地域との連携，校内での取組）** （１）ＮＰＯ法人「Ｒ．ぷらっと」による出前講座「夢・未来講話」の実施 （２）全学年，保護者を対象とした高校説明会の実施 （３）１学年の地域調査学習，地域学習報告会の実施 （４）地域行事「たけのこマラソン」の競技参加・運営協力 以上のように，学校経営の柱にキャリア教育の推進を掲げ，全教職員による協同指導体制の下，小・中・高等学校の連携も踏まえた系統的・体系的なキャリア教育推進の在り方について実践的な研究を進めた。特に１人１事業所の５日間継続した職場体験活動は本校の特筆すべき取組である。また，本校の「縦の連携」「横の連携」を意識した取組の成果については，平川市キャリア教育研修会や中南管内キャリア教育実践発表会等で発表し，広く中南管内に波及させた功績がある。更に青森県版キャリアノートに平成２５年度より取り組み，平成２６年度から碇ヶ関小学校と連携した活用を実践し，その効果については，平成２６年度キャリア教育実践事業中南地区研修会において，発表する予定で，更に中南管内のキャリア教育の推進に貢献できると確信している。以上のような理由で推薦いたします。
PTA団体等	あおもりで「生きる・働く」を学ぶ下北地区実行委員会		当団体は，平成２２年度以前より「教育支援プラットフォーム」に関連する事業の一貫として事業委託を受けて，地域の子供たちへのキャリア教育を推進する活動を行ってきた。平成２６年度には，青森県キャリア教育推進事業において，これまでの教育支援プラットフォームの仕組みをより効果的に活用することを目的として，あおもりで「生きる・働く」を学ぶ下北地区実行委員会と組織を改めて，キャリア教育の充実に向けて取り組んでいる。その活動の概要を以下に記述する。 **１　平成２２年度** スタッフの募集と育成，企業・団体による教育支援の情報収集，企業等の実態及び学校のニーズに関する調査，関係機関との連携等，本格的な活動に向けて基盤づくりを行った。 **２　平成２３年度** （１）１１月に開催された「ユメココフェスタｉｎむつ来さまい館」では，２０以上の職業講話や展示・体験などを通して，子供たちが楽しみながら自分の将来について考えるきっかけとなるイベントの運営を行った。 （２）地元大湊高等学校で２学年対象に「夢相伝講座」という郷土出身の先輩による職業や夢についての講話会が実施され，プラットフォーム活動推進委員はボランティアで講座の支援を行った。 **３　平成２４年度** （１）ユメココ教室と題して，希望した小学校を対象に職業講話とその職業体験を実施した。下北管内４校で，それぞれ農園経営者，消防士，自衛官，放送記者，保健師，看護師，獣医師，保育士，美容師，スポーツ選手，保健師，イラストレーターなど地元で活躍する講師を招いて，実施した。児童は，学校の教室を

			それぞれの会場として自分の希望する職種に関する講話を聴き，それぞれのブースで体験活動を行った。 （２）各学校の希望にそって講師のスケジュールの連絡・調整，開催当日の運営等をプラットフォーム下北地区協議会で行った。 **４　平成２５年度** （１）昨年度に引き続き，ユメココ教室の開催を行った。管内７校の小学校で実施し，前年度同様，講師との交渉，スケジュール調整，当日の運営等を行った。学校や児童の要望から，できるだけ多くの職種に対応できるように，地元の新たな職業（クレープ屋，ケーキ職人，トリマー，介護士，警察官，森林組合，病院）の講師にも交渉を行い，実施した。 （２）地元の公共施設において，４つのブース会場で職業体験を実施した。また，午後からは「有人潜水調査船しんかい６５００」のパイロットによる職業講話が行われた。これらの運営補助を行った。 **５　平成２６年度** （１）前年度同様の規模で取組を実施予定である。児童の感想からも，これらの取組が非常に好評かつ有意義であると判断できる。実施した各学校からも高い評価を得ている。年々，実施希望の学校が増えてきている。また，活動推進委員も日頃より，この事業の実施に向けての会議を年間１０回以上開催したり，自己研鑽のために研修会も実施したりするなど積極的に取り組んでいる。 （２）ホームページを立ち上げ，これまでの活動紹介や事業登録の呼びかけなど様々分野，方面でキャリア教育の充実に向けて精力的に活動している。 以上から勘案して，あおもりで「生きる・働く」を学ぶ下北地区実行委員会を表彰の対象として推薦する。
岩手県	学校	宮古市立第二中学校	**１　教育活動の柱としてのキャリア教育** キャリアを形成していくために必要な資質や能力を育成するため，生徒の発達段階に即しながら，教育活動全体を通じて生徒のキャリア発達を支援している。 **２　３年間を見通したキャリア教育の推進** １年生は第１次産業体験，２年生は職場体験とキャリア教育講演会，３年生は社会福祉講座による事前準備のあとに福祉施設での体験学習というように，系統的・計画的・組織的な指導を行っている。 **３　各学年が連携したキャリア教育の推進** 毎週検討会を開催し学年主任が学年ごとの活動を調整し合うなど，全教員の共通理解を図りながら指導体制を整えている。 **４　進路学習講座の開催** 毎年，地域から複数名の講師を招いて講演会を開催している。全学年の生徒が自分の聞きたい講師を選択して聞くことができる。 **５　文化祭での生徒発表** １年間を通してキャリア教育で学習してきたことを，演劇やプレゼンテーションで発表する機会を設け，振り返りの場面としている。 **６　教科・領域と関連付けた総合的なキャリア教育** 総合的な学習の時間だけではなく，修学旅行でのがれき処分場訪問など復興教育とも関連付けながら，キャリア教育を推進している。
	学校	岩手県立宮古工業高等学校	本校は，昭和４８年創立で，現在は「機械科」「電気電子科」「建築設備科」の３学科から構成される工業高校である。３．１１東日本大震災では津波により校舎１階が浸水するなど大きな被害を受けたが，岩手県当局はもちろん，全国からの支援と産学官民の連携等を礎に，「地域の復興に向け，地域とともに協力し助け合い，地域貢献活動に積極的に関わり保護者及び地域に信頼される学校」を目標に掲げ，下記１及び２に記載したような地域に根ざしたキャリア教育を推進してきた。本校でのキャリア教育のねらいは，「社会人・職業人としての自立」である。そのために，地元の企業を校長や進路課長が幾度となく訪問し，しっかりとした信頼関係を築いた上で，インターンシップを一歩進めた「バイターン」，社会人基礎力育成等

			をねらいにした「商工会議所青年部による模擬面接練習」，そして地元の優れた女性技術者が講師となる「女子高生ものづくり体験実習」（学校枠無）などを通して，生徒に未知なる経験や仕事の誇りと働く喜びを体験させ，これまでの学びやこれからの学びが，将来の自分や社会に対して果たす役割などをしっかりと考えさせるとともに，生徒が体験を文章化することで自己探求を深め生徒の自己実現につなげている。さらに，産学官民が連携し「宮古・下閉伊ものづくり最前線」をテーマにしたＤＶＤ制作には本校も協力し，完成したＤＶＤを全校で視聴した後，事後指導及びアンケートの実施・集計，そしてその結果を企画元である岩手県沿岸広域振興局や宮古・下閉伊モノづくりネットワークに報告・要望することで，学年ＰＴＡと抱き合わせたシンポジウムの開催へと発展し，生徒の地域貢献に対する意欲をより一層高めることができた。このように地元の特性を活かした本校独自の特色ある取り組みを実施することにより，岩手県のキャリア教育のねらいである「総合生活力」と「人生設計力」の育成に努めている。また，各種取り組みやその成果等については，実施後速やかに，生徒・保護者をはじめ地域の皆様や関係諸機関に，「校報（山ぼうし)」として情報を発信し，御助言等を頂くことで改善に努めている。併せてマスコミによる情報発信も有効に活用している。 **１　地元産業との協働によるキャリア教育の推進** （１）宮古商工会議所青年部による模擬面接練習 （２）早期離職を防ぐ手立て～バイターンの実施～ （３）女子高生ものづくり体験実習（本校が宮古市内の全ての高校に呼びかけを行った） （４）未来への挑戦！リアスのフロンティア～宮古下閉伊ものづくり最前線～ＤＶＤ学習について （５）ものづくりＤＶＤにかかわるシンポジウムの開催 （６）地元企業経営者からの講演会開催～保護者進路説明会並びに教職員意識向上講座～ （７）宮古市産業支援センターとの連携 基礎学力の向上は普通科や工業科を問わず，岩手県の高等学校に共通する課題であり，卒業生のほぼ８０％が就職する本校もその例外ではない。そこで本校は，将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本を従来にも増して重視するとともに，義務教育段階も含めた算数・数学の基礎学力向上に努めることで，地元の期待に応え，自ら考え，課題を探求し解決する実践的な態度と能力の育成により一層つなげていきたいと考えている。その方策は，１学年を対象に，冬休みから学年末臨時時間割を活用しながら，数学検定３級の取得からスタートし，学年進行とともに上位級にチャレンジするものである。これらの取り組みと並行して，課題研究では，①比べる②分類する③結び付ける④まとめる，という４つの思考スキルを使って，「思考」，「判断」，「表現」というサイクルを生徒が実際に体験することに力点を置いている。例えば津波模型班は，この夏，徳島県からの依頼を受け，直面する課題に対して，実演内容に工夫を加え（「思考」「判断」)，現地で発表し（「表現」）地元の小･中学生及び高校生と交流会を行った。この活動の中に「思考」，「判断」，「表現」というサイクルが見事に含まれており，徳島県の各学校での取り組みと本校の取り組みを比較・結び付ける（①～④の思考スキル）ことで，生徒たちは良い意味での刺激を受け「負けられない」という意識の向上や自信につながった。発表（教える）することで理解が深まり，学び直しにもつながることは小学校や中学校での出前授業を実施する上での大きなねらいの一つであり，日頃の学校教育の中でも力を入れている活動である。 **２　小中高連携・課題研究等によるキャリア教育の推進** （１）小学校への出前授業（課題研究） （２）中学校への出前授業（課題研究） （３）有形文化財の模型による保存活動（課題研究） （４）１０年目を迎える「津波模型班」による防災教育及び啓発活動の継続実施（課題研究）

			（５）３学科による課題研究（上記（１）（２））以外：車椅子製作等） （６）復興支援（金沢北陵高校との学校間交流，豪州の基金による野球交流等）への対応 （７）中学校生徒の本校での実習体験活動 （８）鮭の町復興クリーン大作戦（小中高連携） これらの取り組みの成果として，生徒の学校に対する帰属意識が高まるとともに，各種検定試験における合格率が向上し，就職率も過去６年間早期１００％を達成している。
宮城県	教育委員会	南三陸町教育委員会	南三陸町教育委員会においては，平成２５年度・平成２６年度に宮城県教育委員会指定による「志教育支援事業」を受け，宮城県の教育基本方針・宮城県教育振興基本計画における志教育をとおして，キャリア教育の充実を重点的に推進し，復興中途にある地域において，各学校のキャリア教育の円滑な実施の支援を図った。 【具体的な取組内容】 志津川中学校区（志津川小学校・戸倉小学校・入谷小学校・志津川中学校・戸倉中学校（２６年度統合）・志津川高等学校） ねらい『小・中・高の連携を図り，１２年間のキャリア教育に系統性をもたせ，社会の中で自己を生かしていく強い意志を育てるとともに，地域社会との関わりの中で，地域の復興を目指し，将来にわたって地域に貢献することができる力を育成する。』 **１　小・中，中・高の交流授業の推進** 各校の志教育担当教員・教務主任等を構成員とする「志教育推進地区連絡協議会」を設置し，児童生徒が互いの夢や志について考えを交流したり，上級学校への期待・関心を高めたりするとともに，中・高生の自己有用感を高める教育活動の展開を推進した。小・中・高それぞれの志教育の実践を「興味・特性を生かす活動」「社会とつながる活動」「自分を見つめる活動」の視点から系統立てて支援を図ることを助言した。 **２　地域の良さ・復興への役割を自覚する「福興市」等の開催** 南三陸町の商工事業者の実行委員会による産業祭りである「福興市」では，４０店舗にわたる商店の出店に際し，販売の手伝い，ステージの進行，会場準備等を児童生徒が行い，地域貢献を果たした。町と教育委員会の共催により，職場体験・インターンシップ等，地域と学校の連携が円滑に行われる基盤作りを行った。 **３　保護者・地域の方との交流の促進** 学校で保護者・地域の方をゲストティーチャーとして招き，仕事のやりがい・働くということ，地域への思い・考えを児童・生徒と交流する機会を設定した。伝統産業である蚕細工や神楽の伝承，農業・水産業・商業等，様々な分野の地域で活躍する社会人の方の考えを知り，自己の生き方を考える一助とした。協力者である人材の取りまとめ等に尽力した。 **４　ＥＳＤの推進** 南三陸町教育委員会が進めるＥＳＤにおいては，志教育との関連を図り，児童生徒が１０年後・２０年後の社会を支えるために「今すべきこと」を考える学習を取り入れている。特にユネスコスクール加盟校の志津川中学校においては総合的な学習の時間に「森里海連環学」をテーマに大正大学の教授を招いて出前講座を開催するなど，自然・環境・文化と未来について継続的・計画的に学ぶ教育活動を推進している。 各学校がキャリア教育を重点的に推進する上での支援を図るとともに，実践発表会の開催についての助言・支援を継続的に行っている。
	学校	村田町立村田第二中学校	全校縦割りで３年間実施する職場体験は，学校の特色ある教育の一環として位置付けられ，学年段階における社会的・職業的視野の広がりをもたらしている。また，高校訪問や立志式などへの課題意識を一層育み，将来を主体的に切り開くための活動となっている。

			１　地域・産業界等との連携 　職場体験に支援・協力する事業所は多岐にわたり，農業関係やサービス業，介護・福祉関係，芸術文化関係，運輸業等，地域に根ざした様々な業種に至っている。今まで快く引き受けている事業所以外にも，生徒の興味・関心に基づいた職場の開拓も毎年行っており，教員はもちろん，生徒自身が連絡をとり，その意図を説明し，受入先の許可をもらうことは，生徒の職場体験へのねらいをより明確にする役割を果たしている。 **２　高等学校や地域支援者との連携** 　近隣の高校から講師を招いて，「社会に通用するビジネスマナー」「接遇の体験」「コミュニケーションの能力」等について出前講座を実施し，職場体験の事前の電話対応や当日の体験に役立てている。また，総合的な学習の時間（チャレンジタイム）を活用し，学校支援ボランティアや地域支援者と協働し，地域の人々とかかわることにより，生徒に社会貢献の在り方を学ばせている。 **３　小規模校の特色を生かした活動** 　学年の枠を外した縦割り活動を各種行事や総合的な学習の時間において，組織的・系統的に実施している。その中でも職場体験は，２～３名の小グループでの活動であり，異年齢で協力する大切さを学ぶ機会となっている。また，決意表明会や報告会等においては，人前で発表する機会が多く設定されており，言葉で伝える力を培う機会となっている。このことは，責任的立場となる３年生の自覚と１・２年生の今後の心構えを効果的に高めている。 **４　多面的な評価の工夫** 　事前・事後のグループ活動の取組や，就労体験中の様子，まとめの新聞，各自の自己評価に加え，各職場からの事後アンケートも活用し，多面的に評価している。また，評価の際は，職場を担当した教員と学年担当の複数の目で「課題を見いだす力」「課題を解決する力」「発表・表現する力」「生き方を考える力」の観点から評価している。職場体験では特に「生き方を考える力」がどのように変化・向上したか，３年間の成長を実感できるような，学校独自の「志シート」を作成中である。 **５　学校全体での取組として** 　事前学習から事後活動まで，見通しをもって計画されており，学校全体で組織的・系統的に実施している。時数としては，総合的な学習の時間１７時間，学級活動２時間，国語１時間で計画しており，３年間で６０時間実施することになる。 　職場体験の他に農業体験（田植や稲刈り）や高校訪問，立志式を実施し，職場体験で学んだことが将来の生き方につながっていくように系統的に教育課程を工夫し，改善を図っている。 　以上のように職場体験はキャリア教育の中心として位置付けられている。多様な職種の体験を通して，就労意欲が高まり，体験先の職業を将来，希望する生徒も少なくない。全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」と答えた生徒の割合が８割を超え，全国と比較して高いのも，この職場体験の効果の一つと考えられる。
	学校	宮城県鹿島台商業高等学校	当該校は，平成１９年度より３年間を見通した系統的なキャリア教育に取り組み，その成果が顕著であることからキャリア教育優良学校として推薦するものである。 　これまで，平成１９年度からのキャリア教育の取組をもとに，平成２２・２３年度には宮城県教育委員会の「魅力ある県立高校づくり推進事業」，平成２４・２５・２６年度には文部科学省「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」の指定校として，地元企業，産業界，県立大学教授，経済産業省，ハローワーク等の行政機関と連携しながら，地域の復興を担う志と専門性を有した人材の育成を行っている。

			【主な取組】 **１　全学年による「総合的な学習の時間（キャリアの時間）」の実施** 　学校独自教材による学習プログラムを作り，雇用問題等の現状を踏まえながら，働くことの意義，社会人としての在り方生き方等を現実的に考える機会としている。 **２　事前指導及び事後指導を重視した就業体験（インターンシップ）の実施** 　２学年全員が地元企業を中心に３日間の就業体験を行っている。事前指導として，秘書サービス接遇関係を専門とする外部講師による実技講習会を実施するほか，就業体験で学んだことをまとめ，発表するなど，事後指導を充実することで，勤労観・職業観の醸成を図っている。 **３　キャリアカウンセリングの充実** 　全学年対象の二・三者面談やハローワークによるジョブサポーター面談，生徒指導サポーター・キャリアアドバイザー面談など生徒一人一人に対して，きめ細やかな対応をしている。 **４　卒業後の状況調査をもとにしたキャリア教育の検証と改善の実施** 　全教職員及びキャリアアドバイザー等による企業訪問を実施し，卒業後３年以内の卒業生全員を対象に卒業後の状況についての実態をきめ細かく把握することで，日頃からキャリア教育の検証及び進路指導の改善を行っている。 **５　起業家教育の推進** 　地域の復興を担う専門人材として，専門性を高めるために，３年生対象の起業家教育を行っている。外部の専門家の指導助言を受けながら，地域の活性化に向けて与えられたミッションを解決するため，情報の収集や分析，ディスカッションなどをとおして起業家的資質や能力を育んでいる。
秋田県	学校	大館市立長木小学校	当該校は，本市が目指す「ふるさとキャリア教育」の趣旨を踏まえ，体験活動を通して，ふるさとへの愛着心や社会で自立して生きる基盤を培う児童の育成を目指している。特に，「エゾタンポポプロジェクト」を中心とした体験活動を推進することにより，地域の自然や環境保護への関心を高めたり，地域の人々や県内外の児童との交流を深めたりしながら，自分たちの思いを具現化していく過程で基礎的・汎用的能力の育成に努めている。 **１　エゾタンポポプロジェクトの取組** 　平成２２年，近くの里山に絶滅状態のエゾタンポポがあることを知り，エゾタンポポの群生地を生み出そうというプロジェクトがスタートした。その後，エゾタンポポの種を採る活動や育てる活動を通して，専門家や地域の人々と共に働くことの喜びや難しさを実感してきた。 　平成２５年度には，被災地である宮城県石巻市や地元の福祉施設慰問の際にエゾタンポポの種や鉢を贈るとともに，活動の様子を大館市の「きりたんぽ祭り」で紹介した。今年度は，平成２５年度の活動に加え，７月に岩手県山田町と交流を行った。「鯨と海の科学館」にエゾタンポポの「幸せの黄色い鉢」と復興を願うメッセージを届けたほか，仮設住宅を訪問したり，山田町立船越小学校の児童と交流したりした。 　また，エゾタンポポについて理解を深めようと，地元の高校教諭から「エゾタンポポを守る活動の意義」について全校児童で学んだ。また，植物をテーマにした他地域の学校におけるプロジェクトとの交流から，「ひまわりサミット」への参加やソバの栽培が始まった。ソバの栽培活動では「長いきソバ」を商品化し，地域のイベントで販売体験学習をしている。これらの活動について，６年生が修学旅行先の函館市で，一般の方々にリーフットを配付して紹介した。 **２　活動を進めるに当たって** 　ふるさとキャリア教育担当教諭を中心に，学校支援コーディネーターと連携しながら全職員で指導に当たっている。また，各教科や生活科，総合的な学習の時間との関連を図りながら，活動内容に応じて，異学年や地域の人々との交流を行っている。この中で，自分の考えを表現する力や，他者を思いやる心を育んでいる。

			３　活動の成果 　児童のアンケートの結果，自分が生まれ育った「ふるさと大館・長木」に誇りをもつ児童が，平成２３年８３％から平成２６年９０％に増えている。また，多くの人々との関わりを通して，社会参加意識や自己有用感が高まっている。これらは，言葉遣いやあいさつなどの基本的な生活習慣の改善にもつながっている。さらに，植物を育てる活動や交流を通して，自分たちの思いが具現化する達成感を実感しており，「エゾタンポポ」を守ることの意義を自分なりに考え，工夫して活動しようとする姿が見られる。
	学校	大仙市立協和中学校	平成１８年度に文部科学省指定の「キャリア教育実践プロジェクト」による５日間の職場体験活動をスタートさせ，全校のモットーを「大志行深」とし，キャリア教育を特色ある教育活動に据えて取組を重ねている。 この間，平成２２年度から２年間は，秋田県の「特色ある教育活動支援事業」の委託を受け，協和小学校との連携を深めて，９年間を見通したキャリア教育を実践している。 また，平成２５年度からは，秋田県の共通実践課題である「ふるさと教育」と大仙市の教育基本方針である「総合的な学力の育成」との融合を図り，保護者と地域住民，地域の事業所とともに実践を広げ，子どもたちの将来とふるさととの接点を求めるキャリア教育に力を注いでいる。 さらに，こうした取組について平成２３年度「秋田県キャリア教育推進フォーラム」，平成２４年度「全国進路指導研究大会」での実践発表をはじめ，宮城県加美町での講演や市内・県内で数多くの実践発表を行うなど情報発信に努めており，キャリア教育推進の役割を担っている。その主な特色を示す。 **１　職場体験活動と職場訪問及び国際交流活動** 　第１学年で秋田県内の職場訪問，第２学年で５日間の職場体験（地元地域を主とした２３事業所）と修学旅行において首都圏の職場訪問を実施した。 　さらに，第３学年では国際教養大学の学生と交流しながら，英語で協和地域のよさを紹介するなどして，グローバル社会に生きる人材育成にも取り組んでいる。 　職場体験活動では，事業所・保護者・生徒自身による評価カードを独自に作成し，望ましい職業観の育成に工夫を加えた。さらに，職場体験後には，三者（事業所・保護者・生徒）によるパネルディスカッションを実施して，家庭・地域と連携したキャリア教育を進めている。 **２　小・中連携と地域住民との連携** 　小学校との連携協議会を設置して「協和小・中学校連携による９年間のキャリア教育」という計画を作成し，計画的・系統的な指導を行っている。また，地域住民への取材学習を実施し，約４００名に及ぶ「協和中生に寄せる期待」の声を集約して，キャリアプランニング能力の育成に役立てている。 **３　地域人材や外部人材の活用** 　エジプト考古学者の吉村作治氏や戦場カメラマンの渡部陽一氏等をお招きして，子どもたちの夢を育む講話会を実施した。また，地域住民との交流活動やボランティア活動を積極的に進め，人間関係形成・社会形成能力育成の一助としている。
山形県	学校	山形県立新庄神室産業高等学校	新庄神室産業高等学校は，平成１５年度に農業と工業が一体となった新しいタイプの専門高校として開校し，翌年より文部科学省研究開発指定を受け，「目指せスペシャリスト」事業として，山形県新庄最上地域に根ざし，地域産業の活性化を担う人材の育成を図るため，以下の取組みを行ってきた。 【具体的な取組み内容】 **１　文部科学省研究開発指定　目指せスペシャリスト（平成１６～１８年度）** 　「地域に根ざし，地域産業の活性化を担う新しいタイプの専門高校」として，農業と工業を一体化した教育課程の編成と教材開発を行い，研究を通じて，地域企業や大学と連携してものづくり人材の育成を図った。 （１）産官学の連携による新規事業の創出のための支援研究

			（２）独創的技術の事業化を目指した研究（先端技術研究プログラム） ①土壌改良によるスィートソルガムの連作に関する研究 ②アルコールの生成とその活用による燃料電池に関する研究 **２　地域産業担い手育成モデル事業（平成２０～２２年度）** （１）デュアルシステムインターンシップの構築，技能検定の取得，高度技能者招へい事業，教員の技能研修，プロジェクト研究を実施し，企業と連携し，バイオマス燃料を用いた雪中イチゴの栽培に取り組んだ。 （２）社会人基礎力アンケート（ｎＥＱ）を行って，生徒の意識と成長を検証し，各取組みについて意味を持たせる学習を行い，出前授業の企画，運営を任せ，生徒自ら成長を実感できる機会を設けた。 **３　新庄神室産業高等学校パートナーシップ推進協議会（平成１５～２６年度）** 地域連携の活動を充実するため，最上地域の産学官の代表者１９名の推進協議委員と校内委員により，主に「農工一体型専門高校の特色ある学校づくり」をテーマに年２回開催し，農工コラボレーションを目指した取り組みを推進している。 **４　文翔館スイーツの商品開発と商品販売（平成２５～２６年度）** 文翔館（山形県重要文化財指定）をテーマにして，土産品菓子の研究開発を地元菓子店と協力して取組み，山形ＤＣキャンペーン期間中，文翔館における販売実習を行い，山形県を訪れる多くの観光客におもてなしの心を伝えた。 このように，農業と工業の連携を目指して地域とともに歩んできた同校は，専門的人材の育成，地域活性化，地域産業創出等により着実に成果を上げており，優れたキャリア教育を実践しております。
茨城県	教育委員会	取手市教育委員会	取手市教育委員会では，平成２３年度より「取手市小中連携（一貫）教育推進事業」を立ち上げ，９年間を見通した「キャリア教育」を実践している。 「確かな学力の育成，中学校生活への円滑な適応」と「基礎的・汎用的能力の育成」との関連に着目してキャリア教育プランを作成し，モデル学区を指定して先行研究を実施したのち，市内全中学校区に取組を広げた。 現在も各中学校区の実態に応じてキャリア教育を充実させており，継続して実践に取り組んでいる。 **１　取手市小中連携(一貫)教育推進事業の推進** 平成２３年度から平成２８年度までの年次計画を作成し，市内の６つの中学校区においてキャリア教育を基盤とした小中連携（一貫）教育の充実を図っている。キャリア教育の充実に向けた「環境整備・人的配置・予算措置」として，講師招へい，移動学習バスの増発（児童生徒間交流），小中連携（一貫）の推進に関わる補充教員の配置等をしている。 **２　「Toride・キャリアプラン」の作成** 取手市小中連携（一貫）教育推進事業を具現化するために，モデル学区での実践事例と取手市教科等研究推進委員による指導事例をまとめ「Toride・キャリアプラン」を作成した。「学習」「生活」「キャリア教育」に係る３つのプランを作成し，各学校において活用を図っている。 **３　「キャリア教育を基盤とした取手市小中連携(一貫)教育」の周知** 取手市教育委員会では，モデル学区の取組をまとめ，「キャリア教育を基盤とした小中連携（一貫）教育」の方向性を市内の各小中学校に周知して，キャリア教育が充実するよう，継続して支援している。 **４　各中学校区の実態に応じた取組** 市内の６中学校区において，キャリア教育の視点で９年間を見通した計画を立案し，計画的・継続的に学習指導や生徒指導を展開している。 また，「Toride・キャリアプラン」を活用し，それぞれの学区の特色を生かした授業を展開するとともに，キャリア教育の視点での小中学生の交流も積極的に実施している。

	学校	水戸市立内原中学校	内原中学校では，「豊かな心をもち，知性にとみ，心身ともにたくましい生徒の育成」を柱として，キャリア教育の視点で学校行事や授業を見直し，学年の「縦のつながり」を意識した事業を展開するとともに，「地域協働学校」等を通して，地域との連携（「横のつながり」）をより意識したキャリア教育を推進している。 **１　キャリア教育充実のための地域との連携事業** 「縦のつながり」，「横のつながり」を意識した実践 （１）部活動壮行会…学区内小学校の６年生と地域の方々を招待 （２）卒業生の話を聞く会…卒業生に講師依頼 （３）サンクスコンサート…公民館との連携開催，地域の方々を招待 （４）あかちゃんふれあい体験…保健センターとの連携，地域の親子との交流 （５）合同防災訓練…自治連合会，地域自警団等及び全校生徒による防災訓練の実施 （６）地域行事（敬老会，市民運動会，ふれあい祭り）での中学生ボランティア活動の実施…自治連合会，内原コミュニティ事務局との連携 （７）職場体験活動…内原ライオンズクラブとの連携による事業所の拡充 （８）職業人の話を聞く会…講師依頼 （９）出前授業…内原建築業組合による木工教室（技術・家庭科） …地域プロサッカーチームの指導者によるサッカー教室 **２　「地域協働学校」を活用したキャリア教育** 学校教育と社会教育の融合を目指して実践している事業であり，公民館で開設されている講座に中学生も参加し，地域の方々とともに学ぶ場である。 地域住民と中学生が一緒に学習・活動し，相互の教育力を共有し合うことで「基礎的・汎用的能力」の育成を目指している。 **３　キャリア教育推進に向けた周知活動** 「キャリア学習だより」を発行し，生徒の意識を高めるとともに，保護者及び地域へのキャリア教育の周知にも活用している。
	学校	坂東市立岩井中学校	岩井中学校では，「人間としての在り方や生き方を考え，自ら主体的に進路の選択ができる力を育てる」という目標のもと，各学年の発達の段階に応じて，次の施策でキャリア教育を推進している。特に，目標の実現に向け「自分で見て，体験すること」を重視し，取組の工夫・改善に努めてきており，今後も，発展した取組が期待できる。 **１　１年生での主な取組** 進路選択までのプロセス等を理解するとともに，社会生活で必要なコミュニケーション能力等の育成をねらいとして次の施策を実施している。 （１）コミュニケーション講習会 入学して１週間の時期に，宿泊を伴う『新入生オリエンテーション』の中で外部からの講師を招へいし，コミュニケーションについての研修会を行っている。キャリア教育の中で，コミュニケーション能力は社会人には欠かせないものである。また，多様な５つの小学校区から集まる新入生たちにとってこれからの中学校生活でよりよい人間関係を構築することはとても重要である。 （２）進路講習会 『新入生オリエンテーション』の中に進路学習を取り入れている。内容は，３年後に進路を選択することや進路の種類，岩井中卒業生の進路実績紹介，そして日頃の学習態度や生活態度が進路実現に大きく関わっていることなどを学習している。 （３）年２回の高校見学会 ７月に県立岩井高等学校，１０月に県立水海道第一高等学校の訪問を実施している。高等学校の先生から学校概要の説明を聞いたり授業を参観したりすることによって，進路に対する意識を早い時期から高め，進路選択に役立てることを主な目的としている。 （４）掃除に学ぶ会 ６月に岩井中学校の全トイレ（便器内を含む）を素手で磨き上げる取組であ

る。社会人になるため，働くための意義を，体験をもって感じ取ることを目的に行っている。

２　２年生での主な取組

身近な上級学校や職業についての体験等を通して，学習の必要性や勤労の意義等を理解することをねらいとして次の施策を実施している。

（１）『ハイスクールインターンシップ』（高校訪問・研修）

ねらいは，高等学校を訪問することで，進路への意識，学力向上への意欲を高めること，また，高等学校での授業を体験したり，高等学校の先生の話を聞いたりすることにより，３年生になっての進路選択に役立てることである。訪問後は，体験したことをまとめ，授業参観で発表会を行っている。保護者も生徒も高校についての話題が増え，進学に対しての関心を高めるものになっている。

（２）『バーチャル入試』（入試体験）

仮想の高等学校を設定し，実際の受験と同じ流れで受験校を選び，出願手続き，合否判定まで行い，受験の臨場感を体験させる。また，受験を希望していない生徒は，就職試験や昇級試験などを想定して行うことで意識を高めている。

入試体験の成果をもとに，事後の学習指導の充実を図るとともに，適切な進路指導に結び付ける。

（３）職場体験学習

７０か所を超える事業所で職場体験学習を行っている。市内だけではなく，近隣の市や県に広げて実施している。実施日数は，事業所の都合に合わせるが３日間以上を希望としている。

（４）立志の集い

保護者や同学年生徒の前で自分の将来の夢を代表生徒が発表をし，将来の決意や目標などを明らかにすることで，大人になる自覚を深めている。

３　３年生での主な取組

進路選択のための個人のニーズにあった情報を得るとともに，職業に関するより広い世界を理解することをねらいとして次の施策を実施している。

（１）将来を考える『キャリアセミナー』

主な訪問・研修場所として気象庁，日本銀行，東京証券取引所，東京国際フォーラム，朝日新聞社，日本テレビ，東京大学，早稲田大学，慶應義塾大学など全２９か所である。企業，大学によっては見学ツアーを組んでいただいたり，研修会を催してくださる企業もある。生徒は４，５人のグループになり，自分の行きたい訪問場所を選び，事前にルートをパソコンで調べる。東京フリーパスを使い，電車を乗り継ぎ目的地に行く。グループには，ＧＰＳ付きの携帯電話を持たせ，常に位置を確認できるようにしている。生徒それぞれが大学と企業の中から一つずつ訪問し，研修を受けることによって自分の５年，１０年後の進路を具体的に考え，進路実現に向けて，向上心をもって学習や生活をよりよくしようとする態度を育てること，大学や企業などの将来に関わる場所を実際に見ることによって，将来を見据えた進路選択を意識し，学力向上の意欲を高めることが目的である。

（２）高校説明会

本校の各教室をブースとし，近隣の１３の高校の先生に高校の説明を依頼している。聴きたい高校に親子で参加し，進路選択に役立てている。

（３）『ようこそ先輩　先輩に学ぶ会』

岩井中の著名な卒業生を招き講演会を行い，将来の夢について考える機会としている。

４　特別支援教育での主な取組

（１）キャリアガイダンスツアー

学習室利用生徒（全学年）を対象に９月末に実施している。３年間をかけて，坂東総合高校，結城特別支援学校，境特別支援学校など１０校を見学している。

			学習室（特別支援学級を含む）を利用する生徒が，上級学校を見学することで進路意識を高め，進路選択に役立てることを目的としている。 　以上のような取組を行うことによって，生徒の職業への意識や日常生活での積極性が高まるとともに，学習意欲が向上するなどの変容がみられる。
栃木県	学校	宇都宮市立清原中学校	**１　小中一貫教育・地域学校園の中で行うキャリア教育** 　本校は，平成２２年度より学区内の小学校４校と清原地域学校園を構成し，キャリア教育に重点化を図った小中一貫教育に取り組んでいる。 　今年度，地域の特性や小中のつながりを生かし，「学ぶこと」「働くこと」「生きること」を考えさせ，社会的自立を目指すキャリア教育に小中が一貫して取り組み，「人間力」の育成を図ることを学校経営計画の「特色ある取組」に位置付けている。 **２　各教科等における系統的なキャリア教育の推進** （１）清原地域学校園課題対応能力系統表の作成 　本市において各地域学校園で取り組んでいる授業力向上プロジェクト研究を進める中で，本地域学校園においては，基礎的・汎用的能力のうち，課題対応能力の育成に重点化を図ることとした。 　そのために，小中学校合同で研修会を開催し，教科部会ではリーダー校である本校職員が中心となり，小中学校の系統性を考慮しキャリア教育の視点で重点化して取り組む単元・題材を決定し，系統表を作成・活用している。また，キャリア教育の視点で取り組む研究授業，及び授業研究会を行う校内研修会を計画的に実施している。こうした取組を通して各教科等における指導の工夫や改善を図っている。 （２）「キャリア教育の視点」を明確にした授業実践 　学習指導案の中に「キャリア教育の視点」を明確に示し，授業者が常にキャリア教育の視点を意識して授業を展開することにより，各教科におけるキャリア教育の充実を図ることができた。 **３　社会体験学習「宮っ子チャレンジウィーク」の充実** 　本市では，社会体験推進事業「宮っ子チャレンジウィーク」を平成１４年度より実施しており，中学２年生全員が５日間職場体験等を実施している。本校では，社会体験学習を総合的な学習の時間に位置付け事前指導及び事後指導の充実を図るなどして，組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでいる。 　以上，本校は学区内の小学校と連携を図り，組織的・計画的に各教科等を中心に，社会体験活動等を含み教育活動全体を通してキャリア教育に取り組んでいる。 　上記の理由からここに推薦する。
	学校	栃木県立足利工業高等学校	栃木県立足利工業高等学校は，地域産業を支える人材の育成を使命とし，地域と密接に連携した様々な教育活動に取り組んでいる。特にキャリア教育の充実を図り，多様な学びや体験活動をとおして，生徒自らが進路実現に向けて考え，行動できるようにすることを目標として，次のような教育活動を実践している。 **１　職場実習及び高大連携事業** 　これらの取組は，３年次に希望する生徒が，１学期中の毎週課題研究のある授業日に企業，及び足利工業大学に出向き，一日を通して実習や研究を行うものである。学校にはない設備や環境を使って，高度熟練技能者や大学教授から直接指導を仰ぎながら，学校では体験できない高度な実習や研究などを行っている。 　職場実習は，平成５年度から始まり，平成２６年度までに７９３名の生徒が参加し，高大連携事業は，平成１９年度から始まり，平成２６年度までに９３名の生徒が参加している。これらの取組は，「足工高版デュアルシステム」として地域に認知され，定着している。 **２　５Ｓ運動** 　５Ｓ運動は，整理・清掃・整頓・清潔・しつけの頭文字がいずれも「Ｓ」であることに由来する運動であり，本校では平成１７年度から，県内の学校では初めて，この運動の理念を教育活動に導入した。５Ｓ運動を通して，生徒に職業人と

			して必要とされる具体的な素養を身につけさせることができ，キャリア教育の柱の一つとして，大きな役割を果たしている。 **３　国際交流活動** 平成１７年度よりドイツのカール・ゼヴェリンク実業高等専門学校と姉妹校を締結し，国際交流活動を行っている。この活動を通してドイツのマイスター制度や高度な技術を直接検分することにより，今後の職業人に求められる国際感覚やグローバル化への進展による変化に柔軟に対応できる人材育成に努めている。 **４　研究指定事業** 平成２５年度から３か年の計画で，栃木県教育委員会より県立高校未来創造推進事業の指定を受け，「進路実現プロジェクト」の「キャリア教育の充実」をテーマとして様々な取組を行っている。
群馬県	PTA団体等	ぐんま国際アカデミー中高等部保護者会「ＳＨＩＰ」	ぐんま国際アカデミーは，２００５年に開校したイングリッシュイマージョン校として国語・社会以外の授業は英語で行うという非常に特色ある教育を行っている小中高一貫校である。その中高等部保護者と教職員により結成された「ＳＨＩＰ」は，「子供たちの学校生活が円滑かつ安全に送れるよう支援する」ことを目的とし，２０１１年度より活動している。「ＳＨＩＰ」は，イングリッシュイマージョン校という特色ある学校に子供を通わせる保護者の不安を解消するための情報共有・学校との連携の場という役割のほか，保護者の人的ネットワークを活用した社会人出前授業「ようこそ先輩」等の事業を立ち上げ，キャリア教育に力を入れている。その活動には特筆すべき二つの特徴がある。 まず一つ目が，講師の顔ぶれの多様さである。「ようこそ先輩」では各業界の一線で活躍する方々に講師をお願いしており，これまでに上毛新聞社東毛総局長・元東京スター銀行頭取・ＪＡＸＡ准教授・立教大学教授等に講演をお願いし，生徒たちの興味・関心を高めている。ＪＡＸＡの講演後には，ロケットに興味を持った生徒がベトナムで開かれた国際水ロケット大会に日本代表として出場。韓国での国際スペースキャンプへも参加し，日本理科教育学会全国大会にて成果発表を行った。 二つ目が，保護者の積極的な関与である。講師を呼ぶだけでなく，保護者自らが仕事の経験を語るワークショップも行っている。キャリアサポートデーというイベントでは，保護者有志１２名がそれぞれの経験（おもちゃメーカー海外事業部販売戦略・元コンチネンタル航空客室乗務員・化粧品開発・建築家・医師等）を生徒たちの前で語り，放課後授業という形で保護者講師による「仕事」についての特別授業も行われている。親子で進路を考えるキャリアシンポジウムには２００名以上の親子が集まり，意見交換が行われた。 以上のように，ぐんま国際アカデミーの特色ある教育を更に補完するような形で「ＳＨＩＰ」が密接に連携し，生徒と保護者，教職員，学校，卒業生，社会をつなぐ輪として，子供たちの学校生活を支援している。中でも，キャリア教育の質の高さは，生徒のキャリアパス形成に大きな成果を上げている。
千葉県	教育委員会	佐倉市教育委員会	佐倉市では，「郷土を愛する心を育む」ことを通して社会的・人間的に自立した人材の育成を目指しており，地域社会と連携した取組や「佐倉学」を通してのキャリア教育を推進している。 **１　地域社会等と連携したキャリア教育** （１）地域人材の活用 各学校が地域の人材を活用し，農業体験，職業人の出前授業等の取組をしやすくするよう「社会人活用事業」を立ち上げ，予算化して学校を支援している。 （２）企業等との連携 市内の企業に呼びかけ，先端技術を有する事業所の協力の下に，小・中学生を対象とした「科学教室」を開催し，科学技術・理科教育の振興を図っている。また，教育委員会が仲介して市内の医療機関で行う職場体験として，「外科医体験教室（ブラックジャック・セミナー）」を実施している。 （３）小・中学校と高等学校の連携 地域の高校生（英語部）が小学校外国語活動の授業に参加し，英語での交流

			を通して相互のコミュニケーション能力を育成している。また，県主催の「科学甲子園ジュニア」に参加する市内の生徒を対象とした理科教育として，高校の教諭から直接指導を受ける機会を設定しており，中学生にとっては進路を考えるよい契機となっている。 **２　「佐倉学」を通したキャリア教育** 「佐倉学」を通したキャリア教育を市内全小・中学校の教育課程に位置づけて実施している。実施に当たっては，すべての教科・領域において系統的に学べるよう学習内容を工夫し，内容やテーマに偏りのない授業ができるよう各学校に指導している。 （１）教科や総合的な学習の時間における実践 市で作成した副読本「ふるさと佐倉の歴史」を小学校６年生全員に配布し，社会科や総合的な学習の時間等において，佐倉の歴史やそれに関わる人物について学べるよう活用している。また，中学校入学後も副読本として使用している。 （２）道徳教育との関連 市で作成した「佐倉学道徳副読本」を全児童・生徒が使用できるよう配布し，佐倉にゆかりのある先覚者の業績や生き方を通して，夢や希望をふくらませる学習を実施している。 （３）美術館・図書館との連携 市美術館において「佐倉学」関連美術展の開設や，学校連携プログラムによる出前講座や美術教材の貸出しなど，各学校への支援を行っている。また，市図書館では，小・中学校の児童生徒が「佐倉学」を学ぶ上で参考となる推薦図書を選び，市内８つの図書館に配架している。 **３　成果** 学校と地域社会等との連携や，１０年間に及ぶ「佐倉学」を通したキャリア教育の取組により，児童生徒の自尊感情を高めることにつながっている。また，教育委員会を通したこれらの取組により，企業や地域社会等と学校との連携をより一層深めることができたのは，大きな成果である。 今後も，市全体を包括したキャリア教育体制づくりを一層進めていきたいと考えている。 以上のことからキャリア教育優良教育委員会として推薦するものである。
	学校	成田市立公津の杜小学校	これまでに取り組んできた様々な活動をキャリア教育の視点でとらえ直し，組織的・系統的な取組となるよう再構築するとともに，ＥＳＤ（持続発展教育）の視点をもって地域・産業界等との連携・協力をより一層充実させながら取り組んでいる。 **１　地域，産業との連携・協力による系統的なキャリア教育の実践** （１）１年 ①昔の遊び交流：市生涯学習大学院と連携した交流活動を通して，コミュニケーションの大切さを体験する。 （２）１・２年 ①芋の苗植え・芋ほり体験：近所の農家と連携して芋の苗植えや収穫をよろこぶ農業体験をする。 （３）２年 ①お芋パーティー：お世話になった農家やＰＴＡで組織する実りサポーターを招待し，収穫を共に喜び合う。 ②町探検：町で働く人の様子を班ごとに見学するとともに，歩道の歩き方やあいさつの仕方などを学ぶなど，マナーや社会性を身につける。 （４）３年 ①スーパーマーケット見学：店内の様子や働く人々を見学する。消費者のために店が行っている様々な工夫や秘密を見つけさせたり，働く姿にじかに触れさせたりして，働くことの意味を考える。 ②敬老交流：遊びを通して交流を図り，老人を大切にすることなどについて考

			える。 （５）４年 ①校外学習：キッザニア東京にて働くことの大切さを体験する。また，自分自身の特性や職業への適性について考える。 ②１／２成人式：自分を振り返り，育ててくれた家族へ感謝の気持ちを伝えるとともに，これからの将来への生き方，夢，どんな大人になりたいかを考え，発表する。 ③消防署，浄水場等の社会科見学：様々な公共機関の見学を通して働く人々にじかに触れながら職業について考える。 （６）５年 ①新聞社見学：新聞社の見学を通して，報道の仕事にじかに触れながら職業について考える。 ②車いすテニスプレーヤーとの交流：車いすのスポーツ選手を講師として招へいし，交流を通して障害や生き方について考える。 （７）６年 ①キャリアトーク：市教育委員会及び市生涯学習大学院と連携し，職業のスペシャリストである講師を学校へ招へいしての「キャリアトーク」を実施する。講話を聞いたり質問したりすることを通して，職業や生き方について考える。 **２　ＥＳＤ（持続発展教育）の視点をもったキャリア教育の推進** ＥＳＤの視点をもち，様々な人々や地域社会等との「つながり」を図りながらキャリア教育を推進することにより，コミュニケーション能力やチームワークの向上など「人間関係・社会形成能力」をはぐくむ活動となっている。 **３　キャリア教育の成果** ＥＳＤの視点をもち，地域，産業界等と連携を図りながら組織的・系統的にキャリア教育を行うことは，学校教育目標具現化への重要な取組の一つとなった。特に，１～６年生まで系統的に取り組んだことにより人生経験の豊かな多くの人々と触れ合い，働くことのすばらしさや，働くために必要な資質などを発達の段階に応じて学ぶことができた。 また，キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」との関連としては，自分の将来のために大切な情報を得ようとしたり，夢の実現について真剣に考えたりする姿が見られ，「キャリアプランニング能力」「課題対応能力」の育成につながった。さらに，身近な人々とより良くコミュニケーションをとり，職業に対する自分の適性を考える機会となったことなどから，「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」の育成にもつながった。 以上のことからキャリア教育優良学校として推薦するものである。
東京都	教育委員会	多摩市教育委員会	多摩市教育委員会基本方針の教育目標にキャリア教育を位置付け，学校・家庭・地域と連携したキャリア教育の支援・充実に努めている。管下の全中学校で平成１８年度から５日間職場体験を実施し，望ましい勤労観や職業観を身に付け，生徒自身が確かな目的をもてるよう支援している。具体的には，教育委員会事務局と多摩商工会議所で中学生職場体験を推進するための連絡会議を定期的に開催するとともに，「多摩市職場体験受入れ事業所登録制度」を進めており，受入れ事業所の充実を図っている。 また，教育委員会においては，市民と学校が連携したキャリア教育を実践するため，地域教育力支援コーディネーターを活用し，学校外の人材の活用促進を図っている。平成２５年度は，東京都教育委員会が実施したキャリア教育に関する「外部人材活用モデル事業」に管下の全小・中学校が取り組み，外部人材を積極的に活用し，児童・生徒の基礎的・汎用的能力の育成に大きな成果をあげた。 以上のことから，推薦する。

	学校	東京都立秋留台高等学校	エンカレッジスクール（小・中学校で十分に能力を発揮できなかった生徒のやる気を育て，頑張りを励まし，応援する学校）である当該校は，学校経営計画の目指す学校像に「入学した生徒全員が進路を決めて卒業できる学校」を設定し，「①インターンシップを中核とした実践的，系統的なキャリア教育の指導計画の開発，②就労支援体制の充実，③進路実現のための生徒指導の徹底，④２年生の総合的な学習の時間でキャリアガイダンスを通年で実施」など，当該校独自のキャリア教育を推進した。この結果，進路決定率は平成２１年度に７６．２％であったのが，平成２４年度には９３．８１％，平成２５年度は９２．０７％と，９０％を超えるようになった。 **１　インターンシップを中核とした実践的，系統的なキャリア教育の指導計画の開発** （１）インターンシップは，あきる野市商工会議所，日の出町商工会議所の全面的協力を得２年生２４０名全員が，約６２か所の受入先で３日間実施している。学校がインターンシップの受入先を，ハローワークや商工会議所と連携して開拓し，また，事前指導，事後指導を充実せることで，確実な進路選択と進路定着に結び付けている。 （２）自信のない生徒のやる気を引き出し目標をもたせるため，１年生の早い時期から専門学校の出張授業での体験や，上級学校や企業の訪問を実施するなど，キャリア教育の指導計画「秋留台高等学校キャリア教育の流れ」で生徒を入学から卒業まで実践的，系統的に指導している。 **２　就労支援体制の充実** （１）エンカレッジスクールである当該校は，様々な特性の生徒が在籍しており，そのためキャリアカウンセラー２名を配置し，年間２３回合計１２０時間の生徒との面談を，特別支援コーディネーター，担任，学年団，総務保健部，進路指導部と連携しながら，組織的に実施している。このことで，進学や就職への不安などを聞き取り，生徒の進路選択に対する前向きな姿勢を引き出している。 （２）進路未決定者についても，立川の若者サポートステーションで，仕事体験を実施し，将来の就業に結び付くよう支援している。 （３）卒業した進路未決定者や早期離職者に随時追指導を行っている。 （４）都立多摩職業能力開発センターと連携して体験授業，講演会等を実施している。 **３　進路実現のための生徒指導を徹底** （１）進路実現に結び付けることを目的に，３６５日毎日あらゆる場面で身だしなみや挨拶の指導から就職の面接指導まで，学年，生徒指導部，進路指導部が三位一体となって，全教員が組織的に何回も繰り返し粘り強く指導している。 **４　２年生の総合的な学習の時間でキャリアガイダンスを通年で実施** （１）２年生の総合的な学習の時間の名称を「ジャンプ」とし，通年でキャリアガイダンスを実施し，特に，奨学金，フリーターの実態，保険・年金制度，Ｗｅｂ求人検索について理解させ，進学や正社員としての就職の意義を理解させている。
	学校	蒲田女子高等学校	**１　目的** （１）多様な生き方に触れることで視野を広げ進路選択の一助とする （２）「六次産業」から女性の社会進出の可能性を見いだす （３）農業という仕事内容を通して，課題解決能力の意識を高める **２　協力団体** （１）農林水産省経営局就農女性課 （２）一般社団法人　移住交流推進機構 （３）館山市経済観光部 （４）たてやま農都交流協議会 （５）ＮＰＯ法人館山農育プロジェクト （６）（株）ジェーティービー

			３　活動実績 （１）平成２５年１１月１８日　農業講演「職業としての農業」（農林水産省経営局就農女性課　勝又多喜子氏）（久松農園　伏見友季氏） （２）平成２６年４月１２日　農業講演「個性を活かせる仕事」（たてやま農都交流協議会神保佳代子氏）（館山パイオニアファーム　齊藤仁美氏） （３）平成２６年５月１６日　農業体験（千葉県館山市で田植及び若手就農者とのキャリアについての懇談会） （４）平成２６年６月２日　稲ブランド名・ロゴデザインを生徒公募決定 （５）平成２６年７月２３日　ブランド名及びロゴデザインの看板完成と設置 （６）平成２６年９月１４日　稲刈り体験（手作業と機械作業の両方を体験） （７）平成２６年９月２８日　文化祭にて一年間の総まとめを発表及び販売 **４　文化祭活動内容** （１）白米と玄米に分け，栄養素を区別しながら販売（健康食の学習） （２）看板のデザインをシール化し，商品に付加価値をつける （３）販売方法を模索させ，農作物販売の現状を実体験させる （４）館山市の若手就農者と共同販売（米以外の野菜や果実を販売） （５）一年間の活動を時系列でまとめ，文化祭で展示し発表した **５　今後の展開** （１）平成２６年１０月２８日　安倍晋三内閣総理大臣夫人の安倍昭恵氏が，女性のキャリアについての講演を本校で実施。その際に本校ファッションコースの生徒が製作した農業服、さらに本校が生産した米をプレゼントした （２）来年度は，現一年生が引き継ぎ，新たな稲のブランド名やロゴデザインを作成することで，継続的かつ発展的な教育プログラムを構築
		東京都立永福学園	東京都特別支援教育推進計画（第一次実施計画）に基づいて，平成１９年４月に開校した，新しいタイプの特別支援学校である。知的障害が軽い生徒全員の企業就労を目指す高等部就業技術科と，肢体不自由教育小学部・中学部・高等部普通科を併置している。 高等部就業技術科は，１学年１００人の定員制で，職業に関する技術や知識を身に付けるとともに，働くことの意義や働き続けるための態度や体力を着実に身に付けられるよう，職業教育に重点を置いた教育課程を編成している。 職業に関する専門教科では，「ビルクリーニング」「ロジスティクス」「食品」「福祉」の４つの職業コースを設置し，卒業後の雇用現場を模した実習室（ロジスティクス倉庫・作業場や厨房，カフェ等）で働くことの実際を学習している。生徒一人一人が社会人・職業人として必要とされるマナーや態度，コミュニケーション能力等が適切に習得できるように，職業コース別に企業等から市民講師と就労支援アドバイザーを招いている。 また，１年次にはトライアル実習（校内模擬現場実習）として全ての職業コースを体験的に学習するとともに，様々な職種の就業体験（インターンシップ）を年３回（１回につき３日程度）実施している。２，３年次には，産業現場等における実習（２週間を２回，３週間を２回程度）を行い，専門的な職業能力の育成を図るとともに，生徒の職業適性を的確に把握して，卒業後の企業就労に向けて計画的に指導を行っている。 このような指導の結果，第一期の卒業生以来，毎年９割を超える生徒が企業等への就職を果たし，平成２５年度の第五期卒業生は９６％の企業就労率を達成した。さらに，高等部卒業後も，職場に定着し社会人として豊かな生活を送ることができるよう，就労支援機関と連携し就職先の企業訪問を行ったり，卒業した同期生が集まる機会を設定したりするなどの支援も行っている。 本校の実践は，都内外の特別支援学校はもとより，中学校特別支援学級の教育課程改善の参考にされるなど，障害のある生徒に対するキャリア教育の推進に，大きな貢献を果たしている。

	PTA団体等	認定特定非営利活動法人府中ＰＦＳ	平成１７年に特定非営利活動法人府中ＰＦＳを設立し，平和，親睦，奉仕を基本理念として青少年に対する健全育成を行っている。主たる活動として「花を育てよう事業」，「ゴーヤ栽培による環境対策事業」，「職場体験支援事業」があり，府中市立の幼稚園，小学校，中学校の教育活動に積極的に関わるとともに，中学校における職場体験の充実に寄与している。 平成２１年度からは，府中市教育委員会が設置した職場体験推進協議会の構成員として，職場体験事業の円滑な推進に尽力している。 以上のことから推薦する。
神奈川県	学校	横須賀市立坂本中学校	「よこすかキャリア教育推進事業」を活用し，２年生での職場体験学習をキャリア教育の中核に据えながら，３年間を見通して生徒の育成に当たっている。 **１　学校全体としてのキャリア教育目標** 労働の意義について理解するとともに，勤労観や職業観を養い，自分自身を知り，将来について深く考え，よりよい進路を選択できる力を養う。 **２　各学年の目標** （１）１年生 地域社会の仕組みや働くことの意義を学習するとともに，自分を知り，自分を振り返り，日常生活の中での自らの役割を果たすことができる。 （２）２年生 職場体験などの実体験を通して，働くことの意義や価値に対する考えを深めながら，自分の将来や進路を積極的に考えることができる。（実際の職場体験は３日間） （３）３年生 職業について学習してきたことを生かし，自分の将来を見据え，自らの役割や経験を基にして，具体的なよりよい進路を考え選択することができる。 総合的な学習の時間だけではなく，各教科・道徳・特別活動との関連を図って実施している。
	学校	神奈川県立新城高等学校	神奈川県立新城高等学校は，昭和３７年に開設された全日制普通科高校であり，目指す人間像は「学び続け，グローバル社会で活躍する人間」「夢や目標を持ち困難を乗り越えていく人間」「多様性を認め，他者を思いやる人間」とし，日々教育活動に取り組んでいる。 本県では，平成２５年３月にかながわのキャリア教育のさらなる充実に向けて，「県立高校におけるキャリア教育の推進について（指針）」を策定し，各学校ではその趣旨を十分に踏まえ，これまでのキャリア教育に係る実践の検証を行い，「キャリア教育実践プログラム」の充実・改善を図り，自校のキャリア教育の更なる充実をめざし，取組を進めている。 新城高等学校の「キャリア教育実践プログラム」では，すべての教育活動をキャリア教育の視点から展開し，シチズンシップ教育の一層の充実を図り，外部機関等との連携をとおして，これからの政治参加教育や司法参加教育等を行い，その成果の普及を図ることを重点項目としている。具体的には，裁判の傍聴やハイスクール議会への参加等，外部機関との連携を最大限に活用する取組や，基礎的・汎用的能力の育成を図るための授業研究を行い，キャリア教育の視点からの各教科・科目の年間指導計画を作成する取組などが挙げられる。 模擬投票の準備講座として政治教育講演会を行い，３年生全員を対象とした模擬裁判を実施し，裁判の大切さ，司法参加の重要性について考える機会としている。シチズンシップ教育をキャリア教育の一環として教育課程上に位置づけ，取り組みを進めており，キャリア教育優良学校としてふさわしい高校であると判断し推薦する。

新潟県	学校	胎内市立黒川中学校	黒川中学校では，自分の将来に「夢・希望・あこがれ」を抱く生徒を育てることを目標に取り組んできたが，現時点での課題は次のとおりである。 平成２６年度全国学力・学習状況調査において，「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒の割合は，３１％であり，県や全国の平均を１０ポイント以上，下回っており，自分の将来を考えさせることが必要である。 この課題を解決するため，キャリア教育を学校経営の柱に位置付け，全教職員が目指す生徒の姿を共有し，全ての教育活動を通じてキャリア教育に取り組むこととした。 **１　取組の概要** （１）教職員の意識改革 ①グランドデザインへの位置付け（継続） キャリア教育を学校経営の柱とすることをグランドデザインに明示し，全教職員が同じ方向を向いて取り組む必要性を示した。 ②校務分掌の改善（継続） 進路指導からキャリア教育を独立させ，主任は複数年連続して担当することとした。 ③全体計画の見直し及び新潟っ子プランの自校化（継続） キャリア教育の全体計画を見直すとともに，新潟っ子プランの自校化を図ることにより，各学年が取り組む内容を明確にし，系統的に取り組む体制を整えた。 ④キャリア教育の視点を意識した授業改善（新規） キャリア教育と学習指導要領の関係を示した資料（平成２３年度文部科学省）を，自校で，小・中・高の系統性が見える形で再編成した。その結果，それぞれの校種の学習内容を把握し，各教科の授業の中でキャリア教育に取り組むことができた。 （２）生徒の意識の把握と効果検証 ①観点別・項目別比較シートの活用（新規） キャリア教育の視点に基づいたアンケート及び集計プログラムを活用し，生徒の意識の変容を捉えた。基準月の６月に比べて，全学年，全項目の数値が上昇しており，毎日の授業及び福祉体験・職場体験が，「郷土愛」「基礎的・汎用的能力」を育成することに有効な取組となっていることが検証された。 （３）関係機関との連携 ①地域事業所との連携（継続） 基礎的・汎用的能力の実践の場として，地域事業所と連携し，１年生の福祉体験学習，２年生の職場体験学習を実施した。職場体験学習では，一事業所で体験する生徒を一人としたことで，事業所の人との直接的なふれあいが多くなり，働くことや生きることについて深く考えることができた。体験学習後は，事業所から評価をしてもらい，その結果を学校や生徒にフィードバックし，事後指導及び日々の授業で活用した。 ②教育委員会との連携（継続・発展） 新潟県教育委員会では，キャリア教育を重点施策に位置付け，郷土愛を軸としたキャリア教育を推進している。胎内市教育委員会では，県から指導主事を招へいし，全市の小・中学校教員を対象として，県の取組について，小・中・高の連携について学ぶ研修会を開催した。また，キャリア教育推進協議会を設置し，小・中・高等学校及び地域，産業界からの参加を得て，キャリア教育に対する成果と課題について協議し，各学校でのキャリア教育の一層の充実のために取り組んでいる。 **２　考察** （１）成果 生徒へのアンケートの結果，「将来なりたい職業や夢に向けて，今しなければならないことを考え自分なりにしている。」という設問に対して肯定的な回答をしている生徒の割合は，６月の基準月は６３％，９月の職場体験学習前は

			８６％，職場体験学習後は９１％と大きく上昇している。他の学年，他の項目についても同様の結果が見られる。このことから，関係機関と連携して，体験活動の充実を図ったことが，夢や目標を抱かせるために有効であったと言える。同時に，キャリア教育を学校経営の柱に位置付け，全教職員が目指す生徒の姿を共有し，キャリア教育の視点をもった授業が日常的に展開されるようになったことが，生徒の変容につながったと考える。 （２）課題 人が生きること，生活することは，連続した営みであり，途切れることはない。キャリア教育も同様であり，校種間で断絶してはならない。黒川中学校区は１保・１小・１中であり，９年から１２年一貫して子供を育む教育が可能である。今後は，保・小・中に高等学校を加え，「連携」をキーワードに，キャリア教育に系統的に取り組んでいきたい。また，職場体験学習等を経験しても，自分の将来の夢や目標に向けて取り組むべきことを具体的に考えることが難しい生徒も存在する。そこで，事後指導に，キャリア･カウンセリングを位置付け，生徒一人一人が自分の将来設計を考えることができるようにするなど，活動の改善に取り組んでいく。 校長のリーダーシップの下，「郷土愛」「基礎的・汎用的能力」を育成するキャリア教育を全校体制で推進し，生徒の変容が見られるなど成果を上げていることから，優良学校に推薦する。
	PTA団体等	直江津東地域学園運営協議会（直東学園）	**１　継続的な活動と幅広い構成員** 平成２０年に学校地域支援本部の一環として青少年育成会議を立ち上げ，地域資源をいかしたキャリア教育の推進に着手した。その後，上越市における学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入を契機に，平成２３年に小・中学校６校の地域住民，保護者，学校からなる「直江津東地域学園運営協議会（直東学園）」を立ち上げ，キャリア教育を中核に学校支援活動や青少年育成活動に継続的に取り組んでいる。 **２　「職場体験受入れ事業所」の開拓** 平成２０年度から全ての上越市立中学校で取り組んでいる５日間の職場体験を主体的にとらえ，直江津東中学校区の職場体験受入れ事業所の開拓に継続的に協力している。また，職場体験に向けてのマナー講習会講師派遣支援を行っている。 **３　「ようこそ先輩」事業への講師の斡旋** ２０代の若い卒業生による「ようこそ先輩」を平成２４年度より企画した。講師を依頼した地元に勤務している若手１０名は，将来の地域リーダーとしての活躍も期待できる。また，職業講話会も「鉄人に学ぶ」「先人に学ぶ」という形で，生徒の学年進行に合わせて企画し，学園事務局スタッフの人的ネットワークを活用して講師の発掘を行っている。 **４　地域の外部講師の斡旋** 小・中学校の総合的な学習で，児童生徒が地域の人の生き方や考え方に触れることができるように地域の外部講師の斡旋をしている。 **５　「立志式」の企画運営** 職場体験の報告とともに，生徒が自分の成長と今後の進路を見つめ，目標を定める機会として「立志式」を企画運営している。 **６　「直東学園ニュース」の作成，配布** 広報活動により，各学校の活動や直東学園の取組を紹介することを通して，活動の継続・発展に努めている。
富山県	学校	富山県立砺波工業高等学校	**１　ものづくりをいかした地域貢献による社会性を伸ばすキャリア教育** 地域のイベント（砺波チューリップフェア）での自作ロボットの展示・実演や，中学生へのロボット製作の指導（中学生ロボットセミナー）を通して，専門学科での学びを地域に還元している。また，児童センターやイベント会場でのおもちゃの修理（おもちゃの病院）を長年継続して取り組んでおり，地域の期待に応え

			る活動として定着している。 **２　自主的体験的な活動による国際的視野の育成** 学校祭で，発展途上国にクレヨンやリコーダーを送る活動に取り組み，感謝の気持ちとしてカンボジアの子供たちが描いた文字の横断幕が贈られる交流に発展した。自主的体験的な活動を通して，国際的視野を深めるよう工夫している。 **３　３年間を見通した職業観・勤労観の形成** 就職希望者が約７５％と，就職率が高いことを見据え，年間を通して専門性をいかせる進路先を知る教育活動を位置づけている。 工場見学・大学見学を早期に行うとともに，様々な職業人から話を聞く就職懇談会をＰＴＡが主催し，保護者と一体となり具体的な企業を身近に知る機会にしている。 **４　２年生全員が取り組むインターンシップ** ２年生の全ての生徒が１１月に３日間，地元の企業を中心に就業体験を行っている。事後指導の報告会は，各学科の１年生にも聞きかせ，就職に対する意識付けと学習意欲の向上につなげている。 **５　学校独自の就職情報のデータ化による情報収集の環境整備** 求人票や生徒が書いた受験報告書をＰＤＦ化し，分類保存することにより，生徒が自主的に過年度の情報等を検索できる環境を整えている。 **６　進路意識や職業観を高める各種の取り組み** 進学希望者に対しては，２年次より進学補習を随時行っている。 就職希望者の応募前企業見学は２社以上を勧めて行っている。
石川県	学校	石川県立大聖寺実業高等学校	石川県立大聖寺実業高等学校は，今年で創立５０年目になる電子機械科，情報ビジネス科の２学科を設置する実業高校である。「ふるさとに誇りを持ち，地域に貢献する産業人の育成」を教育目標に掲げ，地元企業や関係団体との連携・協力を図りながら，社会的ニーズに沿った専門的知識や技能を習得することにより地域社会に貢献できる人材の育成を図っている。 **１　インターンシップ・デュアルシステムなど体験的な学習の充実** 地元企業を中心に４０社以上の協力を得て，生徒全員が２年生次に３日間のインターンシップを行っている。また，その内の電子機械科１８人，情報ビジネス科１０人（Ｈ２５年度実績）が１０日間のデュアルシステムを実施している。こうした取組により，知識とスキルの一体化を図るとともに，コミュニケーション能力や望ましい職業観・進路選択能力の育成に努めている。 **２　ものづくりによる地域貢献の取組** 小中学生を対象にしたロボット教室を開催している。講師を当該校生徒が務め，教材研究も含め参加者が楽しくもっと学びたくなるにはどうしたらよいかを考えながら，講義内容を決めている。日頃自分たちが学んでいる，ものづくりの楽しさやだいご味を小中学生に味わってもらう取組を行っている。 **３　高大連携を通してより高度な知識と本物を体験する取組** ３年生次を対象に高大連携事業に取り組んでいる。電子機械科では，「自動車工学」の授業で，大学の先生から指導を受けて自動車エンジンを使った分解・組み立て実習を行っている。また，情報ビジネス科では３Ｄ－ＣＡＤと３Ｄプリンターを組み合わせた造形方法について体験的な学習に取り組んでいる。 **４　地元企業や関係団体との積極的な連携** 地元企業や関係団体から講師を招いて，就職試験に向けた模擬面接会を実施している。緊張感ある状況の中で，生徒の対人関係能力や状況対応能力などの育成が図られている。また，社会人としての基本的マナーやモラール訓練，実際の職場見学を通じて実社会を身近に感じ自らの将来を展望する取組が行われている。 これらのことから，本県教育委員会は当該校をキャリア教育優良校として推薦する。
長野	教育委員	伊那市教育委員会	平成２２年度に伊那市キャリア教育推進委員会を組織，専任のキャリア教育コーディネーターを配置し，産学官連携の下，職場体験学習の拡充をはじめとするキャ

県	会		リア教育の推進に取り組んでいる。地域の事業所，経営者団体，商工会議所，ボランティア等の積極的な支援を得る中で，伊那市の教育理念「はじめに子供ありき」を基本に据え，「地域で子供を育てる」という思いの共有を図りながら，伊那市ならではのキャリア教育を模索し，その充実に努めている。 **１　事業概要** （１）中学生の職場体験学習支援 ①市内６校（約９００名）の職場体験学習受入先（約２００か所）のコーディネート（実施日数　５日間＝２校，４日間＝１校，３日間＝２校，２日間＝１校） ②事前事後学習充実のための支援：講座の企画・運営，社会人講師のコーディネート（平成２６年度実績　５校　延べ１０回　登録社会人講師約５０名） ③配慮が必要な生徒の職場体験支援（特別プログラムの提供） ④受入れ事業所への事後アンケート実施，分析，改善の取組 （２）職場体験学習，キャリア教育の質を高める取組 ①伊那市キャリア教育推進委員会全体会議　年２回（産学官他の委員で構成） ②職場体験学習受入れ事業所との情報交換会・ワークショップ実施（意見・情報交換，課題の共有：平成２５年度実績：参加３０事業所　参加人数４０名） ③産学官キャリア教育懇談会への参加（年８回程度） ④中学校キャリア教育担当者連絡会議開催（年２回）（学校間の情報交換，職場体験学習・キャリア教育の目的，課題の共有） （３）産学官協働事業 ①第１回キャリア教育産学官交流会（平成２６年５月） 内容：企業訪問（経営者から郷土愛・次世代育成への思いを学ぶ），パネルディスカッション，交流会　（参加者：産学官関係者約１００名） ②夢大学（平成２６年８月９月　計３回）中学３年生，部活単位等で実施 「ふるさと」「郷土愛」「夢」「はたらく」をキーワードに地域の事業所見学，経営者や先輩社会人から学び考えるプログラムを産学官チームが企画運営 ア　「様々な職種の５人の大人に出会う旅」 ８月７日　対象：中学３年生３０名 イ　「技術，ものづくり」８月８日　対象：技術部３０名 ウ　「組織の在り方」９月２９日　対象：野球部約４０名 ③上伊那教育会研究会キャリア教育分科会（社会人講師紹介等コーディネート） ④経営者協会上伊那支部　地域活性化委員会（年４回程度） ⑤市商工会議所　人材育成委員会（年４回程度） ⑥地元高校キャリア教育講座への社会人講師紹介（１校６名） **２　今後の取組予定等** 地域，事業所，教育関係機関がビジョンを共有し，更に連携して取り組んでいくために，キャリア教育憲章(仮称）について検討し策定する。
	学校	泰阜村立泰阜中学校	**１　泰阜中学校での取組** （１）「望ましい勤労観・職業観を育む」「コミュニケーション能力の向上を図る」「規範意識・マナー・協力・協調性など，社会の一員としての役割や責任を自覚する」「友達に依存しない自立心の必要性を感じ，養う」「地域や地元の事業所に対する理解を深め，地元への愛着や誇りを持つことができる」ことをねらいとして，また，学年ごとに段階的・発展的な職場体験となるように，８年前より全学年で３日間の職場体験学習を実施している。 ①１学年は「地域を知る」ことを目標に，村内事業所を中心に実施する。 ②２学年は「地域にかかわる」ことを目標に村内福祉・医療施設を中心に実施する。 ③３学年は「地域に発信する・貢献する」ことを目標に，自分の将来を見据え，自分が就きたい（興味のある）職種・職業を選んで村内外の事業所で実施す

			る。 （２）事前・事後学習の充実を図る ①事前学習の取組 ア　総合的な学習の時間を活用しての時間の確保 イ　キャリア学習オリエンテーションを実施（自己理解と職業理解）する。 ウ　キャリアアワー（キャリアコンサルタントによるガイダンス）を実施する。 エ　履歴書，打合せ資料の作成と，受入れ職場への依頼と打ち合せ訪問の実施 ②事後学習の取組 ア　日誌のまとめ報告書の作成をするとともに，礼状を作成し各職場にお礼に出向く。 イ　各職場に「勤務評価」を作成していただき，自己の学習の振り返りに生かす。 ウ　職場体験学習まとめ（１・２年は模造紙，３年は新聞形式）を作成し，文化祭で展示発表するとともに，ステージ発表し保護者や地域の方々に成果を示す。 （３）支援体制の充実を図る ①村教育長を座長としたキャリアデー（職場体験学習）支援員会を組織する。 ②支援員会による受入先事業所等の開拓や調整を実施する。 ③支援員会によるキャリアデー（職場体験学習）への援助・指導を行う。 **２ 成果** （１）全学年，学校体制で実施することにより，キャリアアワー（職場体験学習ガイダンス）等の事前，事後の学習の充実を図ることができる。 （２）全学年で３年間通して実施することにより，自らの課題や目的を明確に持ち，達成感のある体験学習になるとともに，段階的高まりと広がりのある成果を得ることができる。 （３）支援委員会を組織し，地域とのかかわり持つことで，受入れ職場の理解や体制が深まり，学校と職場の相互理解のもと，体験への支援の充実を図ることができる。
	学校	長野県飯田高等学校	同校は創立１１４年の歴史を持つ伝統校で，普通科・理数科を設置し，ほとんどの生徒が大学進学をする進学校である。 本県教育委員会の実施する「先導的カリキュラム支援事業」の指定を受け，従来からある進路学習等をキャリア教育の観点から更に発展させ，学年の発達段階や学習課題に対応する多くの実践を行うことで成果を上げ，今年度で２年目になる。 同校の全体計画によれば，取組は次のような概要である。 **１　「社会との接点を作り，知見を広げる」１年次** 「進路研修旅行」は，従来からの大学見学や模擬講義だけではなく，同窓会のネットワークを通じて，企業見学と最先端を行くＯＢ企業人との講話を実施し，１年次に履修する「現代社会」の実地研修的な意味合いを持たせると同時に，高校での学びが未来の自分にどうつながるのかを意識させている。また地域で活躍するＯＢや保護者を中心とした社会人講話は，地域に根差して活躍している方々を学校へ招き，１０程度の分野の小グループで講話やディスカッションをし，地域社会を支え地域に参画する喜び，充実感，苦労を実感する場としている。 また，学校主催，同窓会主催の映画鑑賞，著名人の大学教授の講演会など，従来からある機会をキャリア教育との継続性や関連性といった視点からとらえ直し，事前事後学習でもキャリア教育的な視点を補うことで成果を上げた。 **２　「学びを深め様々なチャレンジ」を求める２年次** 夏休み中に選択必修的に，ボランティア，インターンシップ，オープンキャンパスのいずれかに取り組ませる。連絡調整から実施，事前・事後のレポート作成までを基本的に各自が行うことを通じ，社会性を高め知識を深めて，勤労観や職業観を確固たるものとするように促している。更にその成果を教科「情報」と連

			携してプレゼンテーションソフトでまとめ「キャリア教育報告会」で発表させることで，１・２年生全員でその経験を共有し，一層の学習の深化を得ている。 　このほか，地元自治体等が実施する海外派遣研修やボランティア活動にも参加を奨励して学習機会を充実させており，どうしても希望進路の実現に向けた取組が主となる３年生にもアクセントをつける学びの機会が与えられている。 同校の取り組みは，奇をてらうものではないが，ＰＴＡ・同窓会・地域社会など，学校を取り巻く資源を有効に活用し，以前から行われている活動を系統的に再構築し，キャリア教育の効果を無理なく上げた実践である。このことから，他の参考となる点が多々あり，推薦に値するものと考える。
岐阜県	学校	各務原市立桜丘中学校	**１　取組の概要** 　各務原市立桜丘中学校では，「働くこと」の意義を理解し，自ら果たすべき様々な立場や役割と関わらせ，多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択しながら，自ら主体的に判断してキャリアを形成していくことを意図し，キャリア教育に取り組んでいる。中でも，第２学年では，総合的な学習の時間において，地域防災の視点を備えたキャリア教育「桜まちボラ隊～地域のため被災地のためにできることを実践しよう～」に取り組んでいる。 **２　取組の具体** 　東日本大震災以降，地域防災教育の重要性が改めて説かれるようになったことを踏まえ，第２学年全生徒が「桜まちボラ隊」として，自分たちの地域を防災の視点で見つめ，自分たちにできることを考えて実行する活動を位置付けている。主な活動の流れは，下記のとおりである。 （１）東日本大震災から課題の設定 （２）オリジナル防災マップ作成（土砂災害＆洪水，地震） 　①岐阜大学工学部地域システムデザイン研究チームとの連携 （３）模擬会社の設立 　①教育プログラム企画会社との連携 （４）防災関連商品の開発，製造，販売等 　①意識調査・市場調査 　②オリジナル防災袋づくりの計画・製造 　③防災袋の販売・防災マップ配布 **３　取組の効果** 　模擬会社を設立し商品の開発，製造，販売等を行う活動においては，社長や副社長を置き，商品デザインをプレゼンする商品評価会を行うなど，実社会に近い形で組織を構成し活動している。商品デザインについても，ＰＴＡの方等からなる審査委員の評価を受けて決定し，製造・宣伝等のチームに分かれて販売までの準備を行っている。地域へ出向いて行う市場調査は，知識基盤社会やグローバル化は本地域においても進んでおり，様々な情報や手段を適切に選択し活用していくことが必要であることを実感できるよう意図して位置づけている。地域防災という視点から，自分たちに何ができるかを考え行動することを通して，生徒は地域の多様な人々の考えや立場を理解し，自分の考えをもって多くの人々と協力しながら社会に参画することの大切さを学んでいる。
		可児市立広陵中学校	**１　取組の概要** 　可児市立広陵中学校では，「人間関係を築く力」「将来を設計する力」「働くことや仕事を理解する力」「意思決定する力」をキャリア教育でつけたい４つの力と位置付け，中学３年間を通じた系統的なキャリア教育を推進している。キャリア教育の中で実施している宿泊研修，職場体験，キャリア教育プログラム，オープンスクール等の体験活動については，単なる体験イベントではなく，事前，事後の学習活動や意味付けを大切にしている。中でも，２年生で行う「キャリア教育プログラム」は，生徒自らが主体的に考え決定していく探究的な取組であり，仲間との関わりの中で，自己実現に努力できる生徒の育成につながる活動となっている。

			２　取組の具体 勤労観や職業観を養うために開発されたキャリア教育プログラムは，模擬株式会社の設立から始まり，市場調査，商品開発，商品評価会，販売計画（色，個数，価格等の決定），資金募集（株式の発行），収益の使い道，広報活動，販売等と１６の活動から成っている。平成２５年度からは，下記に示すように，地域の方々の協力を得ることで，更に学びの幅を広げている。 （１）めぐみの農協，可児商工会議所と協同した商品開発 （２）地域の銀行職員を外部指導者として招いた「東濃信用金庫出前講座（お札の数え方講座）」 （３）地元の高校生を外部指導者とする「商品開発ワークショップ」 （４）学校評議員，ＰＴＡ役員，地元スーパーの店長，商工会議所所属の事業主，農協職員，可児市経済政策課職員，校区の小学校長など他業種にわたる方を評価委員として招き，生徒のプレゼンに対しそれぞれの立場から評価をいただいている商品評価会 （５）地元のケーブルテレビやコミュニティＦＭへの出演，可児市長表敬訪問，販売を広報するポスターの作成・掲示等の広報活動　　など **３　取組の効果** 地域の方々と広く触れ合い，様々な人の生き方や考え方に触れることは，生徒にとって，数年後自らが出ていく社会の仕組みや厳しさに向き合い，自己を見つめ自分自身の生き方を考える貴重な体験となっている。 教育プログラムの実施を通して，生徒は，望ましい勤労観・職業観を形成しているとともに，様々な課題に対し解決方法を探り，仲間や地域の方と協力して物事を成し遂げることを体験している。また，収益金を東日本大震災復興支援義援金として寄附することで，企業のもつ社会貢献活動についても学んでいる。変化し続ける社会の中で，生徒が主体的に自分の生き方を選択できるよう，１年間の活動を振り返り，改善を加えられているすばらしい実践である。
	学校	岐阜県立不破高等学校	当該校は，「地域に根ざし地域に貢献できる人材」を目指す人間像とし，「不破スピリットタイム（ＦＳＴ）」と名付けた総合的な学習の時間を中心に，計画的・組織的・系統的なキャリア教育に取り組んでいる。また，平成２５年度と平成２６年度に岐阜県教育委員会から外部リソース活用研究事業の研究指定を受け，外部の教育資源とのよりよい連携の在り方を研究している。 **１　地元企業との連携** （１）地元企業の高校内企業説明会 １，２年生のＦＳＴにおいて，採用実績のある地元企業７社を招き，業務内容の紹介やＰＲ，求める人材等に関する講話を聞く。 （２）インターンシップ ２年生希望生徒が夏季休業中に３日間程度のインターンシップを行っている。受入れ事業所は生徒の進路希望に合わせ，製造業を中心とした企業，介護施設，保育園，自衛隊等多岐にわたる。 （３）工場見学 １，２年生希望者を対象に平成２５年度から行っている。採用実績のある企業を中心に見学している。 高校内企業説明会・インターンシップ・工場見学は，事前・事後学習を通してそれぞれの進路行事を関連付けている。 **２　異校種との連携** （１）岐阜経済大学との高大連携 高大連携協定を締結した岐阜経済大学に２年生全員が訪問し，講義の受講・学生とのグループセッション・課題解決学習等を行っている。また，当該校と岐阜経済大学が中心となって「西濃圏域キャリア教育推進協議会」の設立に向けた準備を進めている。 （２）宮代保育園との連携 「家庭基礎」を履修する１年生全員と「子供の発達と保育」を履修する３年

			生が授業の一環として保育体験学習を行っている。この保育体験学習がきっかけとなり，保育園でのインターンシップを希望する生徒もいる。 **３　その他の連携** （１）公的団体との連携 日本年金機構大垣年金事務所・岐阜県司法書士会・岐阜県社会保険労務士会・岐阜県若者サポートステーション等と連携し，３年生ＦＳＴで「年金教室」「消費者教育講座」「就職内定者・進学合格者支援セミナー」２年生ＦＳＴで「フリーター・ニートについて考える講話」等を行っている。 （２）保護者との連携 ３年生の保護者を対象に，平成元年度から発行している『親の心』の原稿依頼を行っている。『親の心』は全校生徒に配布し，ＦＳＴでの進路学習に活用している。 http://school.gifu-net.ed.jp/fuwa-hs/index.html
	PTA団体等	瑞浪市進路学習推進委員会	**１　取組の概要** 本委員会は，長年にわたり瑞浪市内中学校第２学年生徒が参加する職場体験への助言と協力を行っている。 メンバーは，商工会議所会頭，ライオンズクラブ会長，桔梗ライオンズクラブ会長，ロータリークラブ会長，社会福祉協議会会長，青年会議所会長，瑞浪市ＰＴＡ連合会代表，校長会代表である。 **２　取組の具体** 本委員会は，平成１７年度に発足し，本年度まで１０年間にわたり，中学校の職場体験学習を支援してきた。 年２回，委員会を開催し，第１回委員会では，前年度の反省点を踏まえた計画についての助言及び職場体験学習の職場の確保への協力について協議し，第２回委員会では，職場体験学習後の成果や課題を検討し，次年度の方向性を検討している。主な活動は下記のとおりである。 （１）「地域ぐるみで行うキャリア教育」についての理解促進 （２）各事業所への職場体験協力の依頼（職場体験受入れ，職場体験期間の確保等） （３）新しい事業所の開拓 （４）事前指導等への講師の斡旋 （５）職場体験学習の保険（自賠責任保険）に対する市への予算要求 （６）校長会・教頭会への他校の職場体験情報の提供 （７）職場体験に向けての事前指導に対する助言 （８）必要に応じた各校実務者会の実施 （９）「職場にふれる体験の充実」についての小学校への周知　　など **３　取組の効果** 昨年度は，市内中学校第２学年生徒全員（３０５名）が１５３の事業所において，職場体験学習を行うことができた。進路学習推進委員会に所属する各団体の長の方からの助言や各事業所への協力依頼により，できる限り一人１事業所での体験ができるよう支援していただいている。また，各事業所の理解により，最大で２０５ある事業所には協力的な受入れだけでなく，実際の職場に近い状態での体験も可能にしていただいている。生徒が仕事のやりがいや苦労等を実感することにつながり，充実した体験となっている。
静岡県	学校	静岡県立稲取高等学校	静岡県立稲取高等学校は，「卒業後生徒は職業を通して社会との関わりを持つようになり，職業の選択は，人生の中で各人の「生き方・在り方」と結びついている」という観点から，全生徒を対象に職業理解を中心にしたキャリア教育を実践している。 「３年生の進路決定１００％」という学校全体としての具体的な目標を掲げ，進路ガイダンスを３年間で５回，体験型，グループ討論型，寸劇活用型，志望分野別型と体系的に実施する他，１年の１２月上旬に連続４日間のインターンシップを地元企業４０数社で実施するとともに，教科指導・総合的な学習の時間・ホームルーム活動・学校行事を補完的に行うことで効果が上がるよう工夫している。

			さらに，これらの取組を年間を通して「総合的な学習の時間」に組み入れ，１年次のインターシップの事前事後指導から，２年次の言語活動，３年次のソーシャルスキルトレーニングと，３年間通して実施している。 また，今年度は新たな取組として，３年次の面接指導を学校評議員，ＰＴＡ代表，管理職を面接官に連続５日間集中して実施，さらにはコミュニケーション能力向上のための講演会を開催するなど常にキャリア教育の改善と工夫を行っている。 これらの取組は広く地域へも周知されるようになり，直近３年間の就職内定率１００％維持につながっている。
愛知県	教育委員会	安城市教育委員会	**１　各中学校の特色を生かした長期にわたるキャリア教育構想と推進支援** 安城市では中学校が２０年以上前から２年生を中心に先進的に職業体験活動に取り組むとともに，達成感のある体験（長距離歩行等）や，自分の成長を振り返り将来を見据えて目標設定する機会（立志の会等）を中心に長期的な実践でキャリア教育を推進してきた風土がある。安城市教育委員会は早くから指導の重点に「キャリア教育・進路指導」を位置付けてその役割を重視し，指導に系統性をもたせ，教育活動全体を通したキャリア教育の実践を進めるとともに，校内組織と指導体制を充実し，学校と家庭・地域との信頼に基づく，個に応じた指導の充実を目指している。特に，以下のような点から積極的に支援するとともに，新たに技能五輪あいち大会への積極的な参加や愛知県・企業との協力体制の下でものづくりに特化したキャリア教育を推進するなど，進取の精神に富んだ先進的な取組も試みている。 （１）市内全中学校での５日間の職場体験活動の実施 開始当初より２～３日間で実施していた職業体験活動であるが，平成１７年度より愛知県による「あいち出会いと体験の道場」に他市に先がけて参加し，市内全中学校２年生が５日間の職場体験活動「キャリアスタートウイーク」を実施している。 （２）「キャリアスタートウイーク連絡会議」での活動確認と情報交換 市内全中学２年生２０８２名（平成２５年度）の職業体験活動実施のため，延べ１０２６か所（平成２５年度）の事業所を準備する必要があることから，毎年５月に連絡会議を開き，職場体験活動協力の依頼や連絡方法の確認，情報交換を行い，学校と地域の事業所と連携が円滑に進むよう支援している。 **２　安城市教育センターを中心としたキャリア教育に関する教員研修での支援** 教育活動全体を通したキャリア教育の実践が展開されるよう，市教育センターで毎年キャリア教育研修を実施している。また，機会あるごとに各研修（昨年度は教務主任研修）でキャリア教育推進について協議する機会をつくり，それぞれの果たす役割を明確にするよう努めている。 **３　技能五輪・アビリンピックあいち大会２０１４への市内小６・中２派遣と事前学習の支援** 愛知県で行われる技能五輪で，高いものづくりの技術力にじかに触れる機会として，市内全小学校６年生，中学校２年生に見学の機会を提供し，各学校の計画のもとで取り組む。また，企業（デンソー，アイシンAW）や愛知県と連携をしてものづくりに特化した事前学習を展開し，技術者の技や話に触れ，ものづくりに高い関心がもてるように多様なプログラムを準備している。 以上のことから推薦に値すると考える。
	学校	稲沢市立領内小学校	領内小学校では，未来に生きて働く力を身に付け，心豊かでたくましい「領内っ子」を育成しようと，平成２４年度からキャリア教育についての研究を推進している。 キャリア教育を「一人一人の児童が自己の夢や希望に向かって自信をもち，社会の中で自立して生きていくように支援すること」ととらえ，小学校段階からの自分自身の生き方の基盤づくりを目標としている。キャリア教育で身に付けさせたい能力を，「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の４つとし，総合的な学習の時間と各教科，道徳，

			学校行事等との関連を図りながら，小学校におけるキャリア教育の在り方を研究している。 **１　キャリア教育推進プログラムの作成** 　学年ごとに各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間で取り組む内容を，身に付けさせたい能力との関連を図りながら洗い出し，「キャリア教育推進プログラム」を作成した。指導に当たっては，児童が主体的に学習に取り組み，自ら課題を解決したりできるような探求型の学習となるよう単元構成を工夫し，さらに，授業の中では，振り返りの場を設定し，自分の成果や成長を見つめ，記録に残していけるようにした。 **２　モノづくり体験活動　ー和菓子づくりー** 　キャリア教育を推進するに当たって，学校が家庭や地域と積極的に連携・協力していくことが重要であると考え，５年生では総合的な学習の時間に，地域にある和菓子づくり職人から直接モノづくりの方法を学ぶとともに，仕事に対する心構えや努力してきたことなどの話を聞く機会を設けている。 **３　二分の一成人式　ードリームマップ製作と発表ー** 　４年生では，夢がかなった自分を思い描いて，ドリームマップを製作し，完成した作品を全体の場で発表する「二分の一成人式」を開催している。１０歳の節目のときに，これまでの自分やこれからの自分を考えるよい機会となっている。 **４　児童会活動　ー異学年交流体験　「遊ビバ！領内」ー** 　放課時に異学年との交流を深め，みんなで遊ぶことを児童会が企画した「遊ビバ！領内」を毎月１～２回行っている。この活動を通して，日常生活でも学年を越えて会話したり，楽しく遊んだりしている姿を多く見かけるようになってきた。また，低学年児童が楽しめるように高学年が工夫したりするなど，相手を思いやる行動が増えてきた。 　これら以外にも，子供たちが自己肯定感を高め，目標に向けて努力する意欲を育てたり，互いのよさを認め合い，高め合う授業を目指して授業研究に取り組んだりしている。このように領内小学校では，全校あげて組織的・系統的にキャリア教育に取り組んでおり，また，市内の教育実践研修会において発表したりするなど情報発信も行っており，推薦に値すると考える。
学校	田原市立田原中学校		推薦校は，平成９年度に文部科学省進路指導総合改善事業の指定を受けて以来，「生き方教育」を軸に教育活動を行ってきた。また，田原市菜の花エコプロジェクトをはじめとする環境学習や，田原市が教育の重点施策としている「ふるさと学習」にも積極的に取り組んでいる。 　平成２４年度に「田原中学校区キャリア教育推進協議会」が立ち上げられたのを機に，キャリア教育の視点からこれまでの教育活動を見直した。そして，「ふるさとキャリア教育」を推進し，「学びを自己の生き方に生かしたり夢や希望に向かって具体的に行動したりできる生徒」を育成することを目指し，研究主題を「自他を見つめ，よりよい生き方を求める生徒の育成」として，以下の教育実践を行っている。 【具体的な取組】 **１　小学校との連携を図り，子供たちが基礎的・汎用的能力を系統的に身に付けられるように，単元において身に付けさせたい知識，能力，態度を具体的にして学習を進める。また，小学校と合同で研修する場を設ける。** （１）「キャリア教育で育てたい四つの力」の系統表を小中学校合同で作成し，単元に応じて目標を具体的にした上で，指導・支援する。また，小中学校合同で授業研究を行い，授業改善について共通理解を図る。総合的な学習の時間において，小学校からの系統性を考慮して中学校各学年のテーマを設定する。 **２　学習材として「ふるさと田原」を生かし，職場体験学習や田原探訪などの地域と連携した体験学習を行ったり，働くことや生き方に対する思いを聞く機会を設けたりする。** （１）田原中学校区キャリア教育推進協議会の協力を得て，体験活動を生徒の学びに合わせて行う。また，地域の方や保護者，卒業生から講話をしていただく。

			〔体験活動や講話の例：福祉講話，福祉体験，福祉交流，夢 Worker リンク（職業講話），夢の教室，職場体験，ふるさと講話，田原探訪など〕 **３　自他を見つめる場を設け，子供の思考を深めるとともに，具体的に学習や生活に生かすことができるようにする。** （１）授業の中に「見つめるタイム」を設け，視点を明確にして振り返りを行わせる。そして，振り返りがその後の学習や生活に生きるよう支援する。 **４　道徳や学級活動の時間に，総合的な学習の時間における学習との関連を図り，人間関係づくりや自己理解にかかわる学習を計画的に行う。** **５　「生き方を見つめるアンケート」を行うことで，小学校からの子供の変容をとらえ，中学校での指導・支援に生かすとともに，追指導を工夫する。** 以上のことから推薦に値すると考える。
三重県	学校	三重県立いなべ総合学園高等学校	いなべ総合学園高等学校は，三重県北勢地区唯一の総合学科として平成１３年に開校し，約１０００名の生徒が在籍している。地域から信頼される学校，地域に貢献できる人材の育成を目標に教育を行っており，新規卒業者の約３分の２が大学等へ進学する一方，約３分の１が地域の担い手として地元企業へ就職している。 キャリア教育については，将来社会で必要とされる自主自律の精神の涵養と勤労観・職業観の育成を目指して，組織的・系統的に取り組んでいる。また，総合学科の特長を生かし，科目選択そのものをキャリア教育の機会と位置付け，生徒が自己の興味・関心や適性と進路とを結び付けて科目選択できるよう，キャリアガイダンスやカウンセリングの充実を図っている。 また，充実したキャリア教育に加え，チューター制によるきめ細やかな進路指導により，毎年高い就職内定率を上げている。特に，近年３年間は，フリーターを希望して卒業した生徒がいないなど，生徒の社会的・職業的自立に向けた指導が成果をあげている。 **１　組織的・系統的なキャリア教育の推進** （１）キャリア教育推進教育委員会 校長をはじめとする１０名の教職員で委員会を組織している。ほぼ毎月委員会を開催し，キャリア教育の指導計画の策定や教材の検討，指導・評価の改善等を行っている。 （２）教育課程への位置付け 「産業社会と人間」，「総合的な学習の時間（ＩＶＹタイム）」をキャリア教育の中核となる時間として位置付け，計画的・組織的に展開している。 （３）多様な選択科目をとおしたキャリア教育 生徒が自己の進路と結びつけた科目選択ができるよう，１７０を超える選択科目について，進路別（職業別）に選択モデルを作成している。 （４）教育活動全体をとおしたキャリア教育 学校行事の中で授業での学習成果を発表する機会をつくるなど，教科活動と特別活動をつなげたキャリア教育を展開している。 **２　職場見学・インターンシップの取組** （１）職業インタビュー １年次の「産業社会と人間」に，社会人インタビューを取り入れている。生徒が様々な職種や働くことについての理解を深める機会になっている。 （２）職場見学等 １年次後期の「産業社会と人間」では，工場・大学見学を取組の中心に据えている。事前・事後学習を含め，将来の在り方生き方を考える機会になっている。 （３）インターンシップ 希望する生徒のほか，情報・ビジネス科目群及び社会福祉科目群を選択している生徒が，デュアルシステムにより，学校での学習と就業体験を交互に行うことで学校での学習と社会とのつながりについての理解を深めている。 **３　保護者，地域・産業界，他校種との連携** （１）保護者との連携（地域公開講座「学びのプラザ」） ＰＴＡと共催して開講している地域開放講座「学びのプラザ」（年８回実施）に，生徒が講師やアシスタントとして参画している。 （２）地域・産業界との連携（社会人講師の活用）

			校外から様々な分野の専門家や卒業生などを招いた授業や講話を平素から多く行っている。生徒にとって，働くことへの理解を深める機会や近未来の自己の姿を考える機会になっている。 （３）他校種との連携 家庭に関する専門科目「発達と保育」において，授業で制作した紙芝居や玩具を近隣の保育園に持参して園児と交流することで生徒の自己有用感を高めている。 **４　プレゼンテーション能力育成に向けた取組** プレゼンテーション能力を生徒のキャリア発達に必要は能力と位置付け，１年次より計画的かつ継続的にプレゼンテーションを行う機会を設けている。 （１）職業別説明会に関するグループ発表（ホームルーム） （２）職業人インタビューの発表（ホームルーム） （３）ライフプランをテーマとした発表（ホームルーム，学年発表会） （４）学校設定テーマや自主設定テーマによる卒業研究の発表（講座） （５）代表生徒によるプレゼンテーション大会（対象：教職員，２年次生） （６）代表生徒の研究大会への参加（校外）
	PTA団体等	特定非営利活動法人 ａ　ｔｒｉｏ	特定非営利活動法人ａ　ｔｒｉｏは，「三重を幸せな仕事をしている人でいっぱいにする」を基本理念に，人と組織，社会の融合を目指して，企業や学校を対象とした「研修・セミナー事業」や高校生や大学生の県内企業への理解促進のための「ガイドブック作成事業」，地域の人材育成のためのキャリア教育コンテンツを提供する「キャリア教育コーディネート事業」を主要事業として活動している。 三重県教育委員会とは，地域社会の状況や地域産業の特性を踏まえた就業体験や就職支援セミナーの実施をとおして地域におけるキャリア教育実践モデルを構築するため，平成２４年度から業務委託契約を結んでいる。本県のキャリア教育の推進に向けて，学校や事業所，経済団体等をつなぐコーディネーターとしての役割を担い，児童生徒が働くことや職業についての理解を深め，将来自立した社会人として積極的に社会に参画できるようにするための仕組みづくりを進めている。 **１　三重県広域公募型「しごと密着体験」** 児童生徒が地域の事業所で働く人に密着し，「仕事に対する姿勢」や「職場の様子」などを観察することで，働くことについて深く考える「しごと密着体験」のプログラムを考案し，平成２４年度から４回実施した。これまでに小学生２１４人，中学生８９人，高校生６１人が体験し，将来の夢や進路，働くことを考える機会とした。なお，平成２６年１２月に５回目の実施を予定している。 **２　三重県広域公募型「高校生インターンシップ」** 将来の仕事に関連する活動を試行的に体験し，その体験を手掛かりに社会生活や職業生活への移行準備を行うことをねらいとして，当法人が受入れ開拓した事業所の中から県内の高校生が主体的に事業所を選び，就業体験を行う「広域公募型のインターンシップ事業」を企画・運営した。平成２４年度からこれまでに３回実施し，３２人の高校生が体験した。インターンシップの効果を高めるため，事前学習の機会をつくり，サポーターによるアドバイス制度を導入し，目標設定やビジネスマナーなどの研修を行った。また，事後の振り返りを充実するとともに，三重県教育委員会と連携し，キャリア教育フォーラムｉｎ三重において，体験生徒及び協力事業所によるインターンシップ報告会を企画・運営した。 **３　高等学校における就職支援セミナーの実施** 新規高等学校卒業予定者が円滑に社会生活や職業生活に移行し，就職した職場で生き生きと活躍できるよう，就労意欲や職業・企業選択能力，自己表現力の向上等を図るとともに，社会で必要とされる基礎的素養を身に付けるために，セミナーの開催を希望する高等学校において就職支援セミナーを開催した。セミナーでは，就職試験に向けての心構えや面接時のマナー等具体的な指導を行うことにより，実施校の就職内定率の向上に貢献した。 **４　キャリア教育支援協議会への参画** 文部科学省の「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」の委託を受けて平成２５年１１月に設置した「三重県キャリア教育支援協議会」に，当法人の代表が委員の一人として参加している。当協議会は，キャリア教育の推進に当たり，これまで本県が構築してきた関係機関のネットワークを活用して，学校が地域・

			産業界と連携・協働するための体制整備を行うことを目的としており，当法人は，しごと密着体験や広域公募型インターンシップ事業の成果や課題等を踏まえて，地域で持続可能なキャリア教育の在り方についての検証に協力するとともに，県教育委員会が作成した三重県版キャリア教育モデルプログラムの編集に協力した。
滋賀県	教育委員会	竜王町教育委員会	竜王町チャレンジウィーク実行委員会は，町立中学校のＰＴＡ会長を委員長として，委員は商工会，企業代表，農業関係者，町内小売店，産業振興課長，学校関係者で構成され，毎年６月と１１月の年間２回開催されている。 実行委員会においては，事前指導の指導内容や具体的な受入れ体制，受入れ企業の開拓，企業への要望，学校・保護者への要望など，積極的に意見が飛び交い，職場体験の在り方について毎年検討を積み重ねている。 職場体験について実施後の第２回会議において，事前指導や事後指導を含めた評価を行い，次年度以降の改善に向けた振り返りが実施されている。生徒が，働く大人の生きざまに触れ，自分の進路を選択できる力や将来社会人として自立できる力をしっかりと身に付けるための支援体制が整えられている。 域内の全ての中学校（１校のみ）において，事前事後指導を含め，充実した内容で，５日間以上の職場体験を実施している。具体的には，事前指導において，求人票の掲示と合同就職説明会が実施され，その後就職面接試験が開催されるなど，実際の社会の就職活動で味わう緊張感を生徒が感じることができ，働くことの厳しさや喜びがわかるようなプログラムが設定されている。 職場体験の発表会などにも，実行委員会が参加するなど，細部にわたり連携を深め，地域全体でキャリア教育を推進しようしている。 実行委員会の協議を受けて，事業所の開拓について，具体的に事業所の開拓が行われ，毎年新たな受入れ事業所を確保できている。
	学校	高島市立高島中学校	１年生には、卒業生を学校に招いて、「職業を知る」をテーマに集会をもち、仕事のやりがいや、夢を語ってもらうことで、職業について関心をもたせている。 ２年生の職場体験のマナー講座では、本年度は実際に社員研修を担当する専門家を講師として招いて、社会人のマナーについて学習をしている。 職場体験のワークブックづくりや名刺づくり、履歴書づくりなどの職場体験の事前指導を充実させている。特に、履歴書については、昨年度は保護者からコメントをもらう欄を設けることで、家族で生徒の未来についてともに考えるようなプログラム、本年度は自他の良いところを探すワークショップに取り組んだ後に作成に取り組み、自分の将来の姿を思い描けるようなプログラムを設定した。また、書き上げた履歴書については、実際に事業所に提出することで、職場体験活動へのつながりをもたせている。 職場体験活動は、高島市全域の事業所の協力を得て、一事業所２～３名の少人数で、５日間の職場体験を実施している。 高島中学校は、高島小学校とのつながりを大切にした教育活動を展開するために、小中一貫教育を展開している。その教育環境を活用して、職場体験の活動報告を中学校だけでなく、毎年小学生にも報告を行い、小中のつながりをつくりだしている。 中学校におけるつながりとしては、1年生では、「高島市について調べる調査活動」として、地元で有名な扇子づくりの作業所や老舗の酒屋など、市内の産業について学習し、また、２年生では、職場体験と並行して、他府県に校外学習に行き、「街づくり探訪」として、他府県の街づくりなどの調べ学習を通して、高島市のまちづくりを見直す学習をしている。3年生では、1・2年生の学習活動を土台にして、「高島市民としてのこれからのまちづくり」をテーマに、自分の考えをまとめるなどの活動を通して、学年ごとのキャリア発達に応じた系統的な学習を実践している。 生徒会を中心として、地域でのボランティア活動を行うことにより、地域社会の一員としての自らの役割や責任の自覚が芽生えるように指導している。
京都	学校	京都府立洛水高等学校	京都府立洛水高等学校は，平成２５年度の京都府教育委員会による「普通科における京都式キャリア教育開発指定校」の指定を契機として，従来のキャリア教育を

府			より発展させて，総合的な学習の時間等を活用した体系的・組織的なキャリア教育の研究及び実践を開始した。平成２６年度には京都府総合教育センターの指定研究連携校の指定を受けて更に充実した研究・実践を行っている。 研究の目的は，「総合的な学習の時間」を基軸に置いた体系的なキャリア教育カリキュラムとその指導内容・指導方法を開発することであり，また，そのようなキャリア教育を実践することで，生徒の学力とキャリア意識の向上を図ることである。研究・実践においては，積極的に関係機関等との連携を行っており（京都府総合教育センターと連携すること，地元地域や小・中学校，企業等と積極的につながること，学識経験者や企業関係者による研究アドバイザーの助言を受けることなど），開かれた組織的なキャリア教育を進めている。研究・実践の成果をまとめてリーフレット等を作成する予定でもあり，自校のみならず，他の普通科高校におけるキャリア教育の充実にもつながることが期待できる。 平成２５年度には，総合的な学習の時間に係るアンケートを実施するなどして，生徒の学力を含めて自校の状況を客観的に分析するとともに，校内にキャリア教育推進会議を設置して，府外先進校視察による優れた取組を共有し，研究アドバイザーや京都府総合教育センターからの助言も得ながら，自校におけるキャリア教育の理念，３年間のカリキュラム，年間指導計画等を構築するとともに，その中の幾つかの取組を実践した。また，洛水高校版のキャリア教育ルーブリック（ステップアップリスト）を作成している。 洛水高校では，キャリア教育の二つの基軸として，心を揺さぶり使命感や生きがいを持てるようにする「Life　Plan」と，基礎学力や自己管理能力を身につける「Ability　Plan」を設定し，双方を有機的に関連させて，健全な社会人として地に足のついた人物を育成することを目指している。更に職業人としてはもちろん,「(地域から信頼される）町内会長」を任せられるバランスのとれた人物の育成を目指して指導が行われている。 具体的取組は以下のとおりである。 **１　プロフェッショナルインタビュー**（Professional　Interview） 第１学年全生徒がグループ別に職業人にインタビューを行い，職業の内容に加えて，やりがいや社会的使命，業界の実情等について話を聞き，協議をまとめて発表を行う。生徒間で発表内容を共有して多様な職業世界についての理解を深める。 **２　インターンシップ**（Internship） 第１学年全生徒が５日間のインターンシップを経験する。各事業所においては代表的な業務にとどまらず，清掃等の日常業務等も体験する。プロフェッショナルインタビュー同様，内容をまとめて発表を行い，生徒間でそれらを共有する。 **３　プロフェッショナル講話**（Professional 講話） マナー講座や，ライフステージとお金についての講話，命と教育を受ける大切さ等の講話を実施する。「自己理解」や「職業理解」の取組と連動させ，より実践的かつ身近な課題として認識できるようにする。 **４　マナー講習**（Manner 講習） 社会に生きる人間としての素養を身に着けさせるべく，敬語や社会的振る舞い等について，講演や講義等を実施する。 **５　防災・命の学習及び地域社会を学ぶ** ハザードマップを用いた学習や地域防災訓練への参加，震災についての学習，ＡＥＤ講習会，地域行事への参加や自治会の仕組みについて学ぶなど，防災・減災の意識を高め，職業人としても地域住民としても来るべき災害に備え，行動できるようにする。あわせて，介護施設や保育体験等を通して人間が生きる意味を学び，命の大切さを認識できるようにする。 **６　洛水ステップアップリストの活用** 洛水ステップアップリストを作成し，「挨拶・マナー」，「服装・身だしなみ」，「授業準備・態度」，「健康・安全管理」，「環境・美化意識」，「情報・読書」について定期的に点検を行い，生徒が自己を振り返る機会を設けている。

			７　課題解決学習等の実施 　１年次の成果を受けて，２年次には「地域の活性化」や「防災教育」,「法教育」,「金融と暮らし」等を題材に課題解決学習を行う。また，研修旅行では現地企業等と連携し，体験活動を実施する。 ※　上記の各取組が，教科・科目の授業や特別活動とも連動しながら，バランスのとれた全人教育として配置されている。 以上のように，府立洛水高等学校は，総合的な学習の時間を基軸としたキャリア教育プログラムの研究開発や，京都府立高等学校全日制普通科としては初めての学年生徒全員を対象としたインターンシップの実施など，普通科高等学校におけるキャリア教育の在り方の研究・実践及びキャリア教育を通した学校改革に全校一丸となって取り組んでおり，その実践は全国の高等学校の模範として高く評価できることから，文部科学大臣表彰の対象校として推薦する。
大阪府	学校	大阪府和泉市立幸小学校	本府和泉市立幸小学校では，平成１７年度に経済産業省の「起業家教育促進事業」を受けた和泉市教育委員会の指定校の一つとして実施した，５年生での「起業家教育」の取り組みをきっかけに,『社会とつながる・人とつながる・未来とつながる』を目的としたキャリア教育を推進している。 指定校としての取り組みは平成１７，１８年度の２年間で終了したが，５年生の総合的な学習では『起業家教育』の取り組みを続け,「(有）マイトイ」（平成１８年度経済産業省，平成１９年度和泉市教育委員会より事業委託）の指導の下に，会社の立ち上げから製品開発，販売までの流れ等を学び，地域の企業と連携して，地場産業であるガラス細工，和泉木綿，人工真珠などを商品開発し，製品化して販売する実践に取り組んだ。 ここ数年では，市場調査から資金調達，商品の企画立案，商品評価会（プレゼンテーション），製造・販売，売上げ管理，役割分担の人事など一般企業とほぼ同じ活動を行うまでに至っている。 当該校では，５年生の「起業家教育」の取り組みを柱に，１年生で「家の人のお手伝い」，２年生で「家の人からの自分の小さいころの聞き取り」，３年生で「地域探検での聞き取り・自分たちの町を紹介」，４年生で「２分の１成人式」，６年生で「たてわり活動」など，キャリア教育の全体指導計画に基づき，児童の発達段階に応じて系統的・体系的にキャリア教育を推進している。 これらキャリア教育の取り組みの積み上げにより，文科省学力学習状況調査の「自分にはよいところがあると思う」,「将来の夢や目標を持っている」の「当てはまる」の割合が，平成２４・２５年とも府，国に比べて３～１０ポイント以上高くなっており，着実に児童の自己肯定感・自己有用感が育まれている。 このように学校と地域との連携に根ざしたキャリア教育の取り組みは，本府のキャリア教育をけん引するもので，幸小学校に学ぶ起業家教育の取り組みが和泉市内の小学校に広まってきている。一人一人のキャリア発達を促し，生きる力を育むためのキャリア教育を推進していることから，和泉市立幸小学校を推薦する。 【５年生『起業家教育』の取り組みについて】 具体的な流れ **１　市場調査** 　実際に販売する場所（３か所）に出向き，販売予定の時間に通る方に聞き取り調査を行う。『消費者になる方はどんな方（年齢，性別）か』,『どんなニーズ（値段，品物）があるのか』を自分たちで調べることで，課題対応能力の形成につながっている。 **２　分析** 　市場調査の情報を元に，どのような商品を作ればいいかを企画，立案する。 **３　商品開発・評価会（プレゼンテーション）**

			立案した商品のサンプル作成を地域企業に依頼。実際に販売する商品化のために，保護者，教職員，人造真珠の会社の方に向けて，班ごとに工夫を凝らした評価会（プレゼンテーション）を行い，採点・審査を経て販売商品が決定する。人間関係形成・社会形成能力の形成につながっている。 **４　会社設立** 商品開発部，製作部，宣伝部，営業部，会社部で構成し，それぞれが得意な分野で自ら積極的に活動する。互いを認め合うことができるようになっており，自己理解・自己管理能力，キャリアプランニング能力の形成につながっている。 **５　資金調達（出資金を募る）** 教職員や，保護者の方等に出資をお願いする。挨拶や，言葉遣い，態度に気をつけ誠意を持った応対を迫られるため，課題対応能力の形成につながっている。 **６　宣伝活動** 商品販売日の案内の手作りポスター掲示を地域に方にお願いしたり，校内でのチラシ配布を行う。 **７　販売活動（３か所で行う）** 事前に市場調査を行った地域の販売店や駅前にあるスーパー等にお願いし，場所を提供してもらい販売活動を行う。 **８　収支決算** 出資者に出資金返還と利益の配当を行い，協力いただいた方々に挨拶に回る。残りの収益は，子供たちが自分たちで考えた品物を学校に寄附する。平成２３年度からは東北の被災地の小学校に義援金として送っている。
兵庫県	学校	丹波市立西小学校	平成２４年度から４年生の３学期に総合的な学習の時間を活用し，３日間１０時～１２時までの２時間，職場体験学習「ミニトライやる」を実施している。小学校区の事業所に受入れを依頼した後，児童の希望をもとに事業所を決定し，４年生保護者の「見守りボランティア」の同行のもと，職場体験を行っている。昨年度は，駐在所，郵便局，保育園，福祉施設，自動車整備工場，店舗など，校区内の１２の事業所で実施した。 西小学校は，学校運営の中心に開かれた学校づくり，地域人材を含む地域資源の活用を位置付け，日頃から，ウォーキングパトロール，読み聞かせ，環境体験学習など，地域と連携した取組を重ねてきた。このため，地域の教育力を活かした教育活動の計画が可能であり，ゲストティーチャーや保護者ボランティアの協力が得られやすく，児童の活動体験や受入れにも理解がいただける地域である。 このような中，今年で３年目を迎える「ミニトライやる」は，校区である葛野地域を中心に地域に出て行き，自分たちの興味・関心のある職場体験をする中で，地域住民とのコミュニケーションを図ったり，地域のよさに気づいたり，自分自身を見直し，よい所を伸ばそうとする絶好の機会となっている。 中学校での地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」に比べ，１０歳の小学生が体験できる内容は限られているとはいえ，児童に実際の職場を体験させることは大変意義深い。児童は，「ミニトライやる」によって，働くことの大変さと合わせて，仕事の楽しさを学んでおり，受入れ事業所も児童を快く引き受けていただいている。地域とのつながりも，本取組により一層強固なものとなっており，学校関係者評価でも「地域とのつながりを深めるのに効果的な活動となっているので，今後も続けてほしい」との高い評価を受けている。そして，働く人の生き方や考え方など，本物に触れる貴重な体験を，中学校での「トライやる・ウィーク」につなげていくよう，小中連携の体制づくりを進めている。 このように，産業界を含めた地域との連携や協力を図り，社会人としての心構えをつくる事前指導に加え，働く人の生き方を自分の生活に生かす事後指導を含めた職場体験に地域が一体となって取り組んでいる。
	学校	兵庫県立武庫荘総合高等学校	**１　自主就業体験活動の実施** １年次の「産業社会と人間」において，生徒が自ら就業体験先を開拓する活動を実施している。活動は夏休みに実施し，９月にレポート提出，体験活動発表会を行う。生徒はこの活動によって将来の進路，勤労観・職業観についての意識を

			高め，その後の高校生活を前向きに取り組む意欲を高めている。なお，就業体験場所については，「武庫地区地域振興連携推進会議」を通じて依頼している。 **２　工業インターンシップの実施** ２年次の工業科目選択者を対象に１１月に３日間のインターンシップを実施している。実際の勤務を体験することで勤労観・職業観についての意識を高めるとともに，技能の習得など授業への取組意欲を高めるなど良い影響がみられる。活動後は活動報告会を実施し，協力いただいた事業所の方も招待して指導，助言を頂き，地域の事業所との連携も深めている。 **３　地域の幼児とのふれあい体験** ２年次，３年次の保育系科目選択者が近隣の保育園と連携し，本校・保育園・地域の公民館において人形劇等を演じることで，異年齢交流体験を実感し，自己理解・他者理解を深めている。また，地域との関わりを深める中で地域を創造する力を培っている。 **４　ジュニアティーチャーシップの実施** ２年次，３年次の「総合的な学習の時間」において希望者を対象に近隣の小学校へ出向き５，６年生を対象に授業を行う活動を行っている。２年次は２月，３年次は９月に実施し，生徒は４月から授業計画，授業案を作成し，模擬授業を繰り返した後に，授業を行う。教えることの楽しさ，難しさを体験することで日々の学習に対する姿勢にも変化がみられる。 **５　工業教育フェアへの出展** ３年次工業科目選択者の製作した作品を毎年出展している。また，作品の出店だけではなく，来場した方への接遇においても日頃から培っているコミュニケーション能力を発揮してフェアを盛り上げている。このような取組がキャリア形成の一助となっている。 **６　「武庫総ＳＡＭＤ（サンド）」の実施** 本校独自の校務分掌であるまなび支援部が企画し，毎年３月に卒業生を招いて２年次を対象に実施している。卒業生と生徒という「ナナメの関係」を軸にグループで議論を行い，高校生活やこれからの人生について自由な雰囲気で意見を述べ，また先輩の経験や意見を参考にすることで，生徒が将来の進路や生き方を考え，今の自分自身を見つめなおす機会となっている。 **７　「まなび合宿」の実施** 平成２２年度から実施している「まなび合宿」は，年次枠を越えて集まった仲間が励まし合いながら，各自が設定した学習課題をやり遂げ，また，卒業生と交流するグループワークや討議に積極的に参加し，将来の自己の在り方を考えている。この取組は，生徒個々の自尊感情を高め，学校の核を担う気概を持たせるとともに，自己の将来を考える契機となっている。
	学校	兵庫県立高等特別支援学校	**１　キャリア教育の目指す生徒像** 人間関係において周囲と協力することを大切にし，自己の将来に展望を持ち，将来につながる今を自律的に生活しようとする能力を育成する。 **２　生徒の社会的・職業的自立にむけて** 本校は卒業後の就労に向けて，生徒個々の障害を把握し，それぞれの個性を伸長させ，より良き社会人・職業人となる人間教育を基盤にした職業科の特別支援学校である。生徒の居住地のハローワーク・就労支援センターと連携し，生徒の就職先を開拓，斡旋している。最近の５年間の卒業生の就職率は８５%以上で推移し，昨年度は９５%だった。 また，学校評議員から授業や学校の就職指導の在り方について意見を聴取し，カリキュラムの工夫・改善に努めている。 １学年で５日，２学年で１０日，３学年で１０日（うち５日は結合実習）の現場実習に当たって，事前指導を行うとともに，事後に生徒，現場職員，本校職員による反省会を実施し，生徒の就労に当たって基礎的な心構えや勤労観を育成するよう指導している。

			３　現場実習等における指導の評価 　校内の職業実習は評価の観点を定め，適切に評価している。また，現場実習でも評価の観点を定め，現場職員による評価を実施している。いずれの評価も生徒の挨拶ややる気等で高い評価を得ている。 **４　他校種との連携** 　今年度，文科省のキャリア教育・就労支援等充実事業のモデル校の指定を受け兵庫県立有馬高等学校（定時制課程）と連携しながら就職支援を展開している。年３回のネットワーク会議を始め，本校に配置された就職支援コーディネーターによる他府県学校視察，新たな就職先の開拓等の情報交換は２校にとどまらず，県下全域に情報発信している。
奈良県	学校	奈良県立奈良情報商業高等学校	進路指導のみならず，生徒指導においても，規範意識の醸成と社会性の向上を目指し，社会人としての基本を身に付けさせる取組を行うなど学校における教育活動全般において，キャリア教育の視点に立った指導を推進している。 **１　チャレンジプログラム（起業精神育成プログラム）** 　今年度より県教育委員会から３年間の指定研究を受け，株式会社の設立，経営活動など実践的なビジネス活動を通じて課題発見・解決力，さらには，起業精神を育成する目的から，高校生による模擬株式会社設立等を行う予定で取組を開始している。 **２　資格取得の取組** 　大学進学や就職に生かすための商業分野，情報分野に関連する 資格取得に向けた取組を行っている。 **３　インターンシップの実施** 　社会人・職業人として自立していくため，生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観を育成するキャリア教育の一環として，２年生を対象に毎年１２月にインターンシップを実施している。 **４　高大（専門学校）連携事業の実施** 　全校生徒を対象に積極的な学習態度や知識の向上を目指している。 **５　奈良まなびや（インターネットショッピングモール）の取組** 　情報ビジネス科の３年生がインターネットショッピングモールを運営している。平成２３年１１月５日にオープンし，年中無休で営業している。この事業は，ショッピングモールに出店する企業を募るための説明会から，商品掲載や紹介のＷｅｂページの作成・更新・管理に至るまで，全てを生徒が自らの手で運営している。 今後，県内の高校におけるキャリア教育の指導的な役割を果たすことが期待される。
	PTA団体等	富雄中学校区地域教育協議会	富雄中学校区地域教育協議会は，平成２０年度に，３小学校，３幼稚園を含む奈良市立富雄中学校区において，子供たちの教育活動の充実を図るとともに，地域の教育力の再生と，地域コミュニティの活性化を進めることを目的として設立された。設立以来，富雄中学校を拠点として活動し，会議の運営や各種の連絡調整等を行う事務局をはじめとする組織が確立されている。また，中学校区にある学校・園ごとに，コーディネーターの役割と機能が明確に位置付けられている。活動内容としては，毎日の見守り活動や，通学路のクリーンアップ活動などがあり，それぞれの活動を地域のボランティアが積極的に支援し，地域ぐるみで子育てと教育活動の展開が図られている。 平成２４年度からは，富雄中学校における職場体験学習に伴う受入事業所の開拓をコーディネーターがもつネットワークにより行っている。 また，平成２２年度には，文部科学省の委託による「『社会教育による地域の教育力強化プロジェクト』における実証的共同研究」のモデル校区として，コーディネーターが中心となり，学習プログラム「学区ブランド産品開発プログラム」に取り組んだ。富雄中学校ボランティア部の生徒と協力して「富より団子」というオリジナルの菓子商品を開発し，更に企業との連携を図ることによって販売経路の開拓

			まで行っており，開発から４年が経過する現在もその商品を販売している。 　こうしたことから，推薦の観点「学校の教育活動に積極的に関わり，キャリア教育の充実に寄与しているＰＴＡ団体等」及び「学校がキャリア教育を円滑に推進するため，職場体験の受入先の確保等，２年以上継続的に学校に協力し，推進体制の整備に積極的な活動を行っているＰＴＡ団体等」に該当する当協議会を推薦する。
鳥取県	PTA団体等	鳥取市立西中学校教育振興会	鳥取市教育委員会及び鳥取市立西中学校がキャリア教育の一環として行っている職場体験を円滑に推進するため，教育振興会（ＰＴＡ）は受入先の確保を１６年にわたり協力し，キャリア教育推進体制の整備に積極的に関わってきた。 　平成１１年鳥取市教育委員会が取り組みを始めた“地域で学ぶ職場体験活動（「ワクワクとっとり」）”を本校で実施するに当たり，教育振興会役員と体験活動を行う中学校２年生の保護者を中心に校区内をまわり，職場体験の受入先の事業所確保を学校と協力して行った。 　その後も職場の受入先の継続と新規開拓に向け，「ワクワク西中推進協議会」（構成員：教育振興会より役員及び第２学年各学級代表１３名，学校職員６名）を毎年度の新役員選出後の５月に設置し，教育振興会の１３名が分担して前年度受入れの約５０の事業所へ足を運び，趣旨説明と継続受入れのお願いをしている。中学２年の約１００名の生徒ができるだけ希望に添った事業所で職場体験できるよう，新規事業所開拓にも自発的に取り組んでいる。結果，１事業所に対し生徒１～２名の受入れをお願いすることで，生徒へのきめ細やかな指導をしていただくことができている。 　生徒全員が徒歩通学という地域の実態もあり，徒歩で通うことのできる事業所に限定されるため，保護者自身もまた地域に目を向け地域を知る機会となり，子供の職場体験学習を通じて地域の方々に感謝をする良い機会となっている。
岡山県	学校	岡山県立岡山東商業高等学校	当該校は，創立１１６年の歴史と伝統をもち，ビジネス創造科と情報ビジネス科とを有する県下最大級の商業高校である。文武両道を実践し，心身ともに健康で豊かな人間性や生きる力を身に付けた地元企業を支える人材を育成するなど，ビジネス教育を基盤にした組織的・系統的なキャリア教育を推進している。 　主な取組としては，平成５年度から「開かれた東商，魅力ある学校づくり事業」の一環として「東商デパート」を継続的に開催している。この取組は，生徒一人一人が出資者になり，社員として全員が関わる模擬株式会社形態をとり，取締役の選出，テーマ・方針の立案，市場調査・店舗設計・商品陳列・ＰＯＰデザイン・商品知識等についての連携企業との打合せなど，仕入れから販売までを生徒自らが経営する総合的な体験学習を通して，コミュニケーション能力や問題解決能力を高めるものである。また，１年次から「目標シート」を作成し，それぞれが担当する係の取組についてＰＤＣＡサイクルを活用して振り返ることで，次年度以降の改善につなげ，確実にスパイラルアップできるよう工夫されており，３年間を通した組織的・系統的なキャリア教育となっている。 　さらに，生徒自身が将来職業人として，自らが主体となって構想し，実現していくことを促すために，１年次から「キャリア教育校外研修」を実施している。この研修では，企業と連携した商品開発などを通して，学ぶことの大切さや喜び，人と

			接することのすばらしさ，働くことの喜びや厳しさなどを学んでいる。平成２５年度には，この取組で企画した「とまかん（岡山県産の桃太郎トマトを使用した羊かん)」が「商業高校フードグランプリ２０１３」の「商品開発部門」で大賞を受賞した。他にも地元ホテルとの「スイーツコラボ企画」では，生徒の企画したスイーツがレストランのメニューとして採用され，人気商品となっている。この取組は３年次の「課題研究」につながっており，「起業実践」等を通して勤労感・職業感を育成している。 　また，異校種と連携したキャリア教育の推進では，平成２４年度の「第２２回全国産業教育フェア岡山大会」において，小学生の職業体験のために行った「キッズビジネスタウン」の活動を生かし，今年度から地元青年会議所と連携した「キッズビジネスパークｉｎ岡山」の企画運営に携わっており，小学生の職業理解を深めるとともに，高校生のコミュニケーション能力や課題解決能力を育成することにつながっている。
	学校	岡山県立倉敷鷲羽高等学校	**学校設定教科の授業を軸に，実社会とつながり，生きる力を育むキャリアの取組** 　当該校は，普通科・商業科の相互の利点を取り入れた日本初の「未来創造科」を設置した学校である。「未来創造科」においては，「キャリア教育」を重視し，未来を自らの力で切りひらく力，激しく変化する社会に適応する力，実社会で役立つ力を育成している。 **１　キャリア教育における教育課程上の工夫　～学校設定教科「未来創造」の取組～** 　１年次で実社会を“知る”，２年次で実社会を“体験する”，３年次でライフデザインを“創る”という３つのステップを踏んで，自分の未来を創造していく生徒の育成を目指している。そのために，全員が履修する学校設定教科「未来創造」を開設し，実社会との関わりを通してコミュニケーション力等の伸長を図っている。具体的には１年次には職業別体験講座等を活用して社会を知り，２年次では「未来創造学」でインターンシップを体験する。３年次では，個々の課題を設定して研究したり，講演を聞いたりする「未来創造学探究」を通して，将来の展望を創る，というものである。２年次の「未来創造学」では，地元企業の福祉，医療，製造，販売，教育，報道等の約９０事業所と連携し，全員が最低３日間のインターンシップに参加する。事前にインターシップにおける心構えや社会人としてのマナーを学ばせ，事後にはクラスでの報告会を経て，代表者による１・２年次生合同のプレゼン発表会を実施している。こうした取組を通して，生徒は働くことの意義や厳しさ，社会で求められている対応力について体験を通して実感するとともに，自己理解を深めている。また，２年次生の発表を聞くことにより，１年次生が１年後の活動についてイメージを持てるように工夫している。さらに，２年次の学習を踏まえ，３年次では「未来創造学探究」において，各自が課題を設定し，計画を立てて将来について研究し，研究報告書を作成している。このように，３年間を通して教育課程上に位置付けたキャリア教育の取組を推進している。事前事後の活動の充実を図ることで，インターンシップ自体の効果を高めるとともに，生徒のコミュニケーション能力や勤労観を育成し，社会人としての在り方・生き方についても身に付けさせたり，深く考察させたりすることができている。開校以来，こうした教科を開設し，年々改善を加えながら１０年間継続している点も優れた点である。 **２　地域との連携による社会性の育成　～「ボランティアメイト」と「全校ボランティアデー」等の取組～** 　「意欲と行動力をもって主体的・創造的に活躍する人材を育成する」・「豊かな知性と社会性を身につけ，積極的に社会に貢献する人材を育成する」という教育目標のもと，地域の方々と協働してボランティア活動を行うことにより，そこで出会った人たちから生き方を学び，地域貢献の心を養い，地域に感謝し，地域の一員であることの自覚を促している。また，生徒の意欲を高め，より効果を上げるために，全校ボランティアの実施に当たっては，事前事後学習を大切にしている。事前に生徒(整備委員長，ボランティアメイト会長等）が主体となって進める

			シンポジウムを実施し，地域のボランティア活動に関わる様々な立場の方々を招いて「なぜ鷲羽高校で全校ボランティアを行うのか」「協力してくれる方々はどのように見ておられるか」などをテーマに話し合い，意識を高めた上で実施している。さらに，平成２２年度からは「今からすぐできるボランティア」をテーマに，全校でエコキャップ運動に取り組み，約８６０個で一人分のワクチンと交換している。昨年度は，新聞やケーブルテレビに紹介されたことで地域にも浸透し，回収箱を地元の店が設置してくれたり地域の方がキャップを学校に届けてくれたりするなど広がりを見せ，４０万個超を回収した。その他，開校当初から生徒が自発的に「ボランティアメイト」という組織を結成し，地域に貢献できる活動を展開している。その取組の様子がよく新聞やテレビで報道され，現在では「ボランティアの鷲羽」という認識が地元に定着している。こうした活動は，地域の方との協働意識を高めるとともに，社会の一員として行動する態度と実践力を高め，社会への参画方法を学ぶことになり，社会における自己の役割や自らの進路を見出す力につながっている。
広島県	学校	安芸太田町立殿賀小学校	安芸太田町では，平成２２年度から東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（ＣｏＲＥＦ）と全国の約２０の市町教育委員会等が連携して研究を進めている「新しい学びプロジェクト」に加わり，「協調学習」の理論を取り入れた授業づくりを実践している。 この「協調学習」は，まず自分の考えを出し合い，他者の少しずつ「違う考え」を自分なりにまとめて「今の私の考え」を作り出す学習であり，殿賀小学校において積極的に取り組まれている学習手法である。 殿賀小学校は，児童数１８名の小規模校である。児童実態から基礎的・汎用的能力のうち人間関係形成・社会形成能力（特にコミュニケーション能力）の向上に重点を置き，地域や他校との連携により，できるだけ多様な考えに触れ，学び合い，深め合って伸びる児童の育成を目指している。その中心となるキャリア教育においては，目指す資質・能力を「アイデンティティ」，「自律」，「挑戦」の３項目で整理して取組を進めている。 まず「アイデンティティ」にかかわっては，多様な考えや生き方に触れる取組として，様々な仕事のプロの方を招いて話を聞いたり，家族など身近な人から仕事や地域への思いなどを聞いたりすることを通して，児童に将来へのあこがれや希望（志）を持たせている。 そして「自律」にかかわっては，キャリア講演会等を通して感じたことや思ったこと，考えたことを他者と話し合ったり，発表会等で表現したりすることにより，少しずつ「違う考え」を自分なりにまとめて「今の私の考え」を作り出させている。 更に「挑戦」にかかわっては，キャリアノートを活用し，将来の自分の姿を想い描きながらその実現のため，これからどのように学習や生活をしていくのか自分で考えさせ，実行させようとしている。 「協調学習」をベースにしたキャリア教育での「他者とかかわりながら将来に向けて自分の考えを構成していく活動」は，自分の考えをより明確にさせ，学ぶ意欲の向上につながる取組であるとともに，２１世紀を生きる児童に必要な思考力・判断力・表現力をつけることができるものである。 以上のことから，安芸太田町立殿賀小学校を推薦する。 http://www.akiota.jp/tonogasho/
	学校	竹原市立吉名中学校	竹原市立吉名中学校は，平成１１年度頃から総合的な学習の時間において，地域の特産品であるじゃがいもを中心に据えた「ふるさと学習」を行ってきた。平成２４年度からは校区内の小学校と連携した実践を行い，平成２５年度には，竹原市の事業「竹原っこ夢プロジェクト」に参画し，地域に密着したキャリア教育を展開してきた。 この事業は，子供たちに夢をもつことの大切さを学ばせることにより，キャリア教育の重要な役割である，生徒のキャリア発達を促すことを目的に実施している事業である。本事業を活用し，「じゃがいもを使って自分たちの住んでいる町を活性

			化させる」という夢の実現を目指して，体験活動を効果的に取り入れ，生徒が協同して問題を解決する学習を行った。 　具体的には，収穫したじゃがいもを販売するために，修学旅行先で東京の百貨店の方から指導を受け，販売のノウハウを学び，目標をしっかり考えさせながら準備を進めるなど，計画的かつ組織的に取り組んだ。また，マスコットキャラクターの作成，販売に使うチラシの作成等，販売促進のための課題解決学習を実践した。このような活動を通して，自分たちに必要なことは何か，今自分は何をしなければならないかなどの状況を受け止め，役割を果たしつつ他者と協同しながら学習を進めることができた。その結果，生徒自らの力によって夢を達成させる取組を進め，最後までやりきることの大切さを実感させることができた。また，体験活動を効果的に取り入れることにより充実感等を味わわせ，社会人・職業人として必要な基礎的・基本的な資質や能力を育成することができた。 　さらに，一つの取組で終わるのではなく，「じゃがいもを使って地域を活性化させる」ことを目指して次の目標へと移行させ，じゃがいもを使ったスイーツを作成し販売することにも取り組んだ。実現に当たっては地元の菓子店の協力によるじゃがいもを使った「じゃがマフィン」を製作し，東京での販売で培った力を活かして地元イベントで販売し，成功を収めた。 　また，小学校との連携により，計画的，継続的な学習指導や生徒指導を展開するとともに，異年齢の児童生徒も含めたよりよい人間関係の育成を目指している。 　これらの取組は，地域社会や小学校との連携による義務教育９年間を見通したキャリア教育の実践であり，本県のキャリア教育を牽引するものである。また，県内外のいろいろな産業界と連携・協力を主体的に図り，組織的・系統的にキャリア教育に取り組み，かつ体験的な学習を積極的に取り入れた実践は，全国に発信普及できると判断し，竹原市立吉名中学校を推薦する。
	学校	広島県立福山北特別支援学校	福山北特別支援学校は知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校である。小学部から高等部までを設置し，平成２１年度には高等部普通科に職業コースを開設した。高等部生徒の卒業後の進路は，企業就労又は福祉サービス事業所等の利用が多くを占めている。学校経営計画には，児童生徒の自立と社会参加を目指し，キャリア教育の視点から「三力・四心・五行」を掲げ，学校で取り組む５つの行動を示すとともにキャリア教育の充実に向けて様々な取組を組織的に行っている。 **１　キャリア教育に視点を当てた授業研究** 　平成２４年度から３年計画で「キャリア教育の視点に立った教育実践」をテーマに掲げ，教育研究を推進している。平成２４年度は，「人間関係形成能力を育てる授業づくり」をサブテーマに，①小学部から高等部までの系統的なキャリア教育の実施，②体験活動の中でキャリア発達に係る諸能力を育むという観点から年間指導計画を整理。平成２５年度は，「意思決定能力を育てる授業づくり」をサブテーマに，児童生徒が自ら考えて行動する場面を増やすとともに，選択・決定の場面を設定する授業を実施。平成２６年度は，「自己肯定感をもち主体的に活動できる力を育てる授業づくり」をサブテーマに，「自己肯定感」と「主体的に活動できる力」を意識した授業の実施を評価指標に掲げている。 **２　関係機関との連携（進路指導に係る取組）** 　府中・福山公共職業安定所との就職面談会，平成２６年度校内就職ガイダンス，平成２６年度福祉事業所合同説明会，福山北特別支援学校就労支援会議（略称：福北ネット）等，関係機関と連携し，高等部生徒及び保護者を対象に進路指導を実施。また，企業参観日を実施し，企業関係者に対して特別支援教育についての理解啓発を行うとともに，児童生徒が挨拶や身に付けたマナーを実践する場としている。 **３　校内カフェを活用した取組** 　校内カフェ（名称「フッキーカフェ」）を設置し，高等部生徒が作業学習での接客の実習の成果を披露するほか，作業学習生産品の販売活動を行う場，社会でのマナーを学習する場として活用し，生徒の職業的自立を図っている。また，小

			学部，中学部の児童生徒，地域住民等の参加により，異年齢の者とのコミュニケーション体験の場にもなっている。カフェには保護者や地域の人が来店し，福山北特別支援学校の教育内容の周知や，開かれた学校づくりの場となっている。 **４　特別支援学校技能検定への取組** 高等部では，広島県教育委員会が実施している特別支援学校就職支援プロジェクト事業に係る特別支援学校技能検定を教育内容に取り入れ，５分野の技能検定に積極的に取り組んでいる。技能検定を通して就職に必要な技能や知識を身に付けるだけでなく，粘り強く取り組む姿勢や挨拶，身だしなみ等，働く意欲や態度の育成を図っている。また，認定資格指導員の派遣により，関係企業から専門的な知識，技能をもった指導員を活用し，専門的な知識技能の向上を図っている。同事業により本校に配置されたジョブサポートティーチャーは，福山市内を中心に積極的に企業訪問を行い，職場実習先及び就職先の企業開拓を行っている。同時に，卒業生の就職後の状況を把握し，必要に応じて企業に対し，助言を行っている。 以上の取組を通して，教職員は児童生徒の自立と社会参加を目指し，卒業後に必要な力を育てることをより意識し指導を行うようになった。また，児童生徒は見通しをもち，主体的に活動する等，積極的な姿がみられるようになった。また，フッキーカフェでの接客や技能検定への挑戦によって，初対面の緊張した場面でも力を発揮するなど，就業につながる力を付けてきている。保護者は，これらの児童生徒の好ましい成長変化を肯定的に評価しており，ＰＴＡ組織の進路研修会の開催，フッキーカフェの積極的な利用など，学校の取組を支援している。 以上のことから，福山北特別支援学校をキャリア教育優良学校文部科学大臣表彰に強く推薦する。
	PTA団体等	日本ホテル・レストランサービス技能協会中四国地区事務局	日本ホテル・レストランサービス技能協会中四国地区事務局は，ホテル・レストランにおける接客サービス技能の向上及び技能者の社会的地位，経済的地位の確立を図るとともに，国民に対するテーブルマナーの普及指導及び国際観光及び社会文化の発展に寄与している。 また，広島県教育委員会が広島県内の知的障害特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加に向けて，生徒の就職意欲を高め，企業等に雇用を促すため平成２３年度から企業団体等と連携して本県独自の認定資格を開発，授与する特別支援学校技能検定を実施しており，本協会中四国事務局には，当初から特別支援学校認定資格研究協議会の委員として参画していただき，認定資格の開発から，技能検定の実施に当たって，特別支援学校への指導及び審査等の全面的な協力をいただいている。 **１　平成２５年度，平成２６年度の日本ホテル・レストランサービス技能協会中四国事務局の主な取組** （１）特別支援学校認定資格研究協議会（実施要項等作成） 平成２５年４月，平成２６年４月 （２）特別支援学校認定資格研究協議会接客部会（運営検討） 平成２５年度５月，１０月，２月，平成２６年度５月 （３）技能検定接客分野（審査） 平成２５年６月２２日，１１月３０日，平成２６年６月２８日，２９日 （４）教員実技研修（指導員派遣） 平成２６年８月１８日 （５）特別支援学校生徒実技指導（認定資格指導員派遣） 平成２５年度９校延べ１７回，平成２６年度８校延べ１１回 **２　成果** 知的障害特別支援学校高等部生徒は，技能検定を通じて知識や技能を身に付けるとともに，働くことの意義を理解し，就労に対する意欲を高めている。また，目標に向かって粘り強く取り組む態度が培われる等，特別支援学校において協会と連携した取り組みの効果は計り知れない。

			接客サービス関係の業種は，特別支援学校高等部生徒の就職先に占める割合は多くはないが，同じくサービス業であるスーパーマーケット等の流通物流関係の職種に就きたいと希望する生徒が増え，就職者数も増加している。生徒は，接客の基本である挨拶や身だしなみ等，客の立場に立った接客の知識や技能，態度等を身に付けている。 また，各学校での指導では，接客業への就職に役立てるだけではなく，家庭生活においても家族の一員としての役割を意識させるよう指導していただいている。 このように，広島県のキャリア教育推進において多大な成果を上げている日本ホテル・レストランサービス技能協会中四国地区事務局を「キャリア教育優良団体」として強く推薦する。
山口県	学校	周南市立岐山小学校	周南市立岐山小学校では，子供たちの生活態度に「活力」が感じられるようになってほしいという教員の願いから，「一人立つ」というテーマを掲げ，夢や希望をもって，自分のやるべきことを着実にやり遂げることができる子供の育成に，すべての教育活動の中で取り組んでいる。キャリア教育の視点では，体験活動を通して生き方や働くことのすばらしさを実感させる取組や，キャリア教育年間指導計画に基づいた，総合的な学習の時間等における体験活動までの事前・事後指導の充実，地域と連携した指導がなされている。さらに，子供たちの実態について評価を行い，重点目標や具体的な取組について改善を図りながら，教育活動を推進している。 【主な取組】 **１　ＰＤＣＡサイクルによる推進** 学校教育目標の具現化に向け，様々な取組や児童の実態に対する児童及び教員による評価を行っている。その中に，キャリア教育に関する項目も設定し，これまでの取組の成果について検証し，今年度は「自己理解・自己管理能力」を重点目標に設定し，年間計画についても重点目標に応じて取組の見直しを行っている。 **２　夢や希望をはぐくむ取組** （１）第４学年「１／２成人式」 「自分の成長を振り返り，今の自分に自信をもち，喜びを感じることができる。」「家族や自分に関わってくれた人に感謝することができる。」「今後の自分の目標を明確にすることができる。」の三つを目標にし，これまでの自分の成長を振り返り，できるようになったことをまとめたり，自分の夢や決意を短い言葉で書き，体育館に掲示したり，保護者や世話になった人への感謝の手紙を書き，式の場で家族に手渡したりしている。 （２）第６学年「命と向き合う」 山口県総合医療センターへき地医療支援部の２名の医師から，医師への夢を追い続けた生き方や命の大切さ，医師としての仕事への職業観，震災ボランティアとしての経験等を毎年語っていただく。児童は，健康の大切さ，家族や地域の方々への感謝，夢や人と人とのきずなのすばらしさを学ぶことができる。 **３　地域と連携し，様々な人と交流する取組** （１）第３学年「岐山ふしぎ大発見」 １学期に，校区内を４コースに分けて希望のコース（周南市文化会館・ＫＲＹ山口放送局等の施設，「まどみちお」さんの石碑等の地域の文化財を含む）を散策。活動には，担任，見守り隊という地域の方，保護者が同行。ともに清掃活動も行う。活動後には，活動を支援してくれた方々へ礼状を書くことで安全に活動できたことへの感謝の気持ちをもつことや人とのふれあいの温かさを感じるきっかけとする。 （２）第５学年「岐山再発見！！」 １学期に，校区内を２コースに分けて，全児童が２コースとも歩いて史跡巡りをする。３年生同様，活動中に清掃活動も同時に行うことで，地域への貢献とともに地域への理解を深めることもねらう。清掃活動は，見守り隊の方や保

			護者にも協力を得ることで安全面についても配慮している。地域の方や保護者とのふれあいだけでなく，観光ボランティアの方にも協力してもらうことで，この方の思いを聞くことも取り入れる。 いずれの取組においても，「ひとつの出会い」から得た学びを点で終わらせるのでなく，「生活」「人生」という線や面として児童が学びを自分の生き方につないでいくことを大切に考えている。また，児童は学習の振り返りをすることで，自分の成長に気付き，よさを発見していくことができる。 以上のように，全校体制で，地域と連携しながらキャリア教育を推進していることから，推薦の観点２の（１）及び（２）に該当すると考え，周南市立岐山小学校を推薦する。
	学校	山口市立二島中学校	山口市立二島中学校では，魅力と活力ある学校づくりに向けて，平成２２年度から４年間にわたり，キャリア教育を校内研修の核として，「価値ある人生を切り拓く力の育成－キャリア教育実践プログラムの開発－」を主題に掲げて研究実践を積み重ねてきた。その成果として，生徒が将来社会人として必要とされる基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力，自己理解・自己管理能力，課題対応能力，キャリアプランニング能力）を段階的・継続的にバランス良く育むためのプログラムを開発した。 具体的な取組は，以下の５点である。 **１　生徒の課題の明確化** 「日頃の生徒の様子から気がかりに思うこと」を質問事項とした，教職員の意識調査から，基礎的・汎用的能力に関する生徒の課題を明確にした。 **２　従来の教育課程の見直し** 生徒の課題として挙げられた点を踏まえて，教育課程の見直しを行った。その結果，特に自己理解・自己管理能力，課題対応能力に重点を置いた指導が，組織的に行うことの重要性が明らかになった。 **３　新単元の開発によるキャリア教育プログラムの作成** 教育課程見直しの結果を受けて，自己理解・自己管理能力と課題対応能力を高めることを目標とし，総合的な学習の時間や特別活動において，新しい単元を全教職員で開発し，指導の場を増やした。具体的には，１年生対象の「ふるさと探訪・やまぐち探訪」(総合)，１，２年生対象の「ディベートマッチ」(特別活動)，２，３年生対象の「学校プロデュース」(総合)，「統計グラフコンクール」(総合)，３年生対象の「社会参画ボランティア」(総合)，「卒業スピーチ」等である。平成２２年度からの４年間で計１１の新単元を提案・実施した。さらに，それらを系統的に配置したキャリア教育プログラムを作成した。 **４　ＰＤＣＡサイクルによるプログラム改善** 年度末には，新しく開発した単元を取扱う教科・領域，配当時間等について見直しを行い，改善を図った。平成２５年度末には，このプログラムの全てを経験した生徒を対象に，卒業前に「単元の評価アンケート」を実施し，基礎的・汎用的能力の視点からプログラムの効果を検証し，成果と課題を明らかにして改善につなげている。 **５　地域と一体になった推進** 年間を通じて，生徒が地域行事に参加したり，地域の方が学校行事に参加したりすることが多くある。これらの交流を通して，生徒は，自分が地域に役立っていることや，地域の方に見守られ成長していることを実感しつつある。また，地域の方との交流を通して，自分の考えを相手に的確に伝える力も育ってきている。 これらの取組を中心となって進めている担当教員は，平成２５年度キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）を受講し，今年度は，山口県主催のキャリア教育実践セミナーにおいて実践発表を行っている。

			以上のように，リーダーとなる教員を中心として，全校体制でキャリア教育推進のモデルとなる取組を継続していることから，推薦の観点２の（２）に該当すると考え，山口市立二島中学校を推薦する。
	学校	山口県立大津緑洋高等学校	**１　大津緑洋高校の概要** 当該校は，現在，山口県長門市内唯一の公立高校である。長門市には平成２２年度まで，大津高校，日置農業高校，水産高校の３つの県立高校が所在し，地域一の進学実績をもつ普通科，地域の主幹産業である農業に関する学科，県内唯一の水産に関する学科として，普通教育，農業教育，水産教育の３つの教育機能を有していた。平成２３年度，山口県教育委員会は，３校を再編統合し，３つの校地にある施設を活用し，これらの教育機能を充実・発展させるため，全国でも類を見ない，大津，日置，水産の３校舎からなる３キャンパス制の県立高校として開校し，平成２５年度には完全統合となった。 ３つの校舎において，生徒の実態や進路等を踏まえ，それぞれ特色ある教育機能を充実・発展させるとともに，各校舎の教育活動を共有し，多様な体験を重視した教育を推進して，地域に学び，地域に貢献する人材の育成に努めている。 特に，キャリア教育においては，校訓「自主・創造・飛躍」のもと，学校教育方針に「組織的・系統的なキャリア教育を推進し，社会に貢献できる人材育成に努める」を掲げ，各校舎が連携・協働して，普通科を含め，２学年全員によるインターンシップ，インターンシップの体験や農業・水産の研究発表等を行う３校舎合同学習発表会，１学年全員による水産実習船の体験航海や農業体験，地域の伝統・歴史等を学ぶ「長門学」など，夢や希望，志を持ち，その実現に向けて主体的に取り組み，自らの進路をたくましく切りひらく生徒の育成を目指している。 さらに，校舎ごとに独自のキャリア教育全体計画及び年間指導計画を策定し，計画に基づき，多様な体験学習や大学等の出前講義，地域美化活動等のボランティア活動，校内農産物直売所「農高夢市場」開催，「地域産業連携型カリキュラム」事業などに取り組んでいる。 **２　具体的取組** （１）３校舎の特色を生かした連携による学校全体の取組 ①３校舎合同学習発表会 ３校舎の全生徒が一堂に会して，各校舎のインターンシップや国際交流等の体験や地域と連携した専門教育等の研究内容などを発表し，主体的な進路選択に向けた意識の向上を図るとともに，本校の教育活動に対する保護者や中学校・商工会議所を始め地域関係者等の理解を促進している。平成２６年度の発表内容は次のとおりである。 ア　大津校舎 韓国中馬高校訪問，インターンシップ等体験学習を踏まえた「ふるさと長門の街づくり」提言 イ　日置校舎 ニュージーランド農業研修，地域農産物「長門ゆずきち」を活用した地域産業連携型カリキュラム，校内農産物直売所「農高夢市場」の取組 ウ　水産校舎 水産科学部研究「ブリ類結節症原因菌の抗原性の変化」，インターンシップ体験 各校舎の特色を生かし，しっかりとした調査研究のもとに，地域を見据え，全国や世界，未来に発信する優れた取組であるとの好評を得ている。 ②日置校舎農業体験 大津校舎・水産校舎の１年生全員が，年１回，日置校舎生活科学科２年生の「総合実習」に合わせて，稲刈り，牛等の飼育，米粉パンづくり，野菜苗の定植，花苗の鉢上げ移植，果樹手入れ等のグループに分かれて，農業体験を行っている。多くの生徒が地域の主要産業である農業に対する関心や理解を深め，現在の多様な農業の姿を理解することができている。

③水産実習船体験航海

水産校舎の１年生全員が，山口，福岡，長崎の３県共同運航実習船「海友丸」に乗船して２泊３日の長崎への体験航海を実施している。加えて大津校舎・日置校舎の１年生全員も，実習船「海友丸」に乗船し，仙崎湾内を航海しながら，指導員や専攻科生徒の説明や指導を受け，船内デッキやエンジンルーム等を見学して，優れた操縦機器に触れるとともに，操船を体験している。生徒の多くが海洋技術の高さに驚き，理解の促進や関心の喚起を図ることができている。

④「長門学」

総合的な学習の時間又はＬＨＲにおいて，長門の伝統芸能「俵山歌舞伎」や長門出身の画家香月泰男の「シベリアシリーズ」等，地域の歴史や伝統文化，自然等について，地域の人材や施設，史跡等を活用して学習し，地域の理解と愛着を深めている。

また，日置校舎，水産校舎では，それぞれ授業において，地域の伝統野菜の研究や普及活動，捕鯨の歴史や地域の水産業の特徴などを学んでいる。

（２）各校舎の取組

①大津校舎

ア　総合的な学習の時間におけるインターンシップ等体験学習

２年生全員を対象に，インターンシップ（ジョブシャドウイングを含む）の目的等の理解などのガイダンスを行った後，一人一人の進路希望等に応じた，主に長門市や近隣の事業所等において，インターンシップを３日間実施し，体験内容等をレポートにまとめ，発表を行ってきた。その中の優れたものは３校舎合同学習発表会において発表を行ってきた。学校評価アンケートでは，生徒の８０％，保護者の７３％が進路選択に役立っていると回答している。また，取組を進める中で，長門市中高連絡協議会において，キャリア教育についても協議し，情報交換して連携を図ってきた。

そうした中，平成２６年度は中学校の職場体験を踏まえ，取組の改善と充実を図り，県教委の「地域活性型インターンシップ推進事業」として実施した。ガイダンスの後，長門市内や近隣の事業所等のインターンシップを２日間実施し，その翌日に，山口市・宇部市内の事業所等と山口大学・山口県立大学を訪問した。生徒のアンケート結果からは，自己の進路選択や自己の在り方生き方等に有意義な体験であったとの感想が多く見られた。次に，生徒一人一人がこの３日間の体験をレポートにまとめ，そのレポートを持ち寄って，医療保健，産業，官公庁，教育の４グループに分かれ，発表し合い，話し合って，「ふるさと長門の街づくり」の提言をまとめ，２年生全員を対象にポスターセッションを行った。生徒が作成したレポートやポスター等は，文化祭において展示し，保護者や地域住民に公開した。その後，長門商工会議所や長門市の教育委員等の支援も得ながら，「ふるさと長門の街づくり」の提言を完成させ，最後に３校舎合同学習発表会において発表を行った。

イ　大学等の出前講義等

１，２年生全員を対象に，九州大学芸術工学部の准教授による出前講義を行っている。また，全学年の希望者を対象に，山口県立大学や九州工業大学等についても，同様の出前講義を実施し，生徒の進路意識や意欲・態度の向上を図っている。生徒の意欲は高く，どの出前講義にも，３０人程度の参加があり，大学の講義内容や大学・学部・学科等の特色，大学生活などについて理解を深め，自己の進路選択に役立っているとの感想が多かった。

さらに，１，２年生全員を対象にした卒業生による講話のほか，教育実習生による講話，大学や予備校等の説明会や講演会等を実施するとともに，１年生全員の大学等のオープンキャンパス参加，２，３年生への大学等オープンキャンパス参加促進等を行うなど，積極的に大学等に触れる機

会を設けている。

ウ　ボランティア活動

各種ボランティア活動の紹介を積極的に行い，参加を奨励している。ながとジュニアリーダーズクラブ等の地域のボランティア活動に自主的に取り組み，延べ１００人を超える生徒が参加している。サイクルスクールリーダーの活動に対しては，本年５月に山口県警察から感謝状を授与された。また，世界スカウトジャンボリーの様々な取組における語学ボランティアにも積極的に参加している。

②日置校舎

ア　総合的な学習の時間におけるインターンシップ

１年生全員を対象に，外部講師による仕事理解の講座を７回程度開催し，一人一人の進路に応じたライフプランを作成，発表させている。こうした取組を踏まえて，２年生全員を対象に，一人一人の進路希望等に応じた，長門市内や近隣の事業所等において，インターンシップを５日間実施している。その事前学習として，マナー講話等のガイダンスや生徒自身による事業所等との打合せ等を実施し，コミュニケーション能力の育成等を図っている。インターンシップの実施後は，反省会を行い，報告書にまとめさせている。事後アンケートには，ほぼ全員がインターンシップを体験して良かったと回答し，仕事の内容や厳しさが理解できたなどと答え，約半数が進路決定に有効であるとしている。また，取組を進める中で，長門市中高連絡協議会において，キャリア教育についても協議し，情報交換して連携を図ってきた。

イ　地域と連携した活動

５月から翌年１月まで毎週１回，生活科学科２年生が「総合実習」において校内農産物直売所「農高夢市場」を開催し，校内で生産した農産物や加工品を地域住民等に販売している。また，学校設定科目「地域農業」を開設し，地域農業の理解と実践力を育成している。平成２５年度には，県教委「専門高校等教育カリキュラム充実事業」における「地域産業連携型カリキュラム」の取組の一つとして，年１０回程度，地域の農家や関係機関に出向き，農業の意義や役割の理解と農業の生産技術の向上等に主体的に取り組む態度の育成を進めている。その他に，外部講師によるフラワーアレンジメント講習や料理教室等，数多くの地域に根差した取組を行っている。事前・事後のアンケート結果では，農業に関する知識・技能・態度を始めすべての評価項目について，「自信がある」という回答が増加しており，地元就職率も９５％を超えるようになっている。さらに，山口県ひとづくり財団「夢・志応援プロジェクト事業」等を活用して，専門家による講演会やパンづくりの研修を行い，商品開発等の取組を進めながら，これらの経験を生かし，地域の小学生の親子を対象にした，生徒によるパンづくり教室などを実施している。

ウ　ボランティア活動

５月に，全生徒が校舎近くの二位の浜において清掃奉仕活動を行っており，国土交通大臣賞を受賞している。また，毎月１回，日置校舎からＪＲ長門古市駅までの通学路及び駅舎の清掃活動に取り組んでいる。長門サイエンスフェスティバル等の地域行事等にスタッフとして参加したり，馬クラブによる障害者乗馬を主催するなど，日置校舎の特色ある教育活動を生かした取組を積極的に進めている。サイクルスクールリーダーの活動にも取り組んでいる。

③水産校舎

ア　総合的な学習の時間等における企業見学・インターンシップ

１年生全員が，専門科目「水産海洋基礎」において，５月に海洋研修の寄港地での企業を，１１月に長門市内又は県内の水産・海洋関係の事業所等を見学している。３月には，ＬＨＲにて業者による進路セミナーと卒業

生講話を聴講している。こうした取組を踏まえて，２年生全員を対象に，総合的な学習の時間において，マナー指導等のガイダンスを行った後，６月に長門市内又は県内外で，生徒の希望も踏まえ，主に水産・海洋関係の事業所等において，インターンシップを４日間実施している。実施後，１，２年生全員を対象にその成果等の報告会を行っている。そのうち最も優れたものを３校舎合同学習発表会において発表を行った。報告内容から，水産・海洋関係の仕事等について理解が進むとともに，実際に職場の雰囲気を体験したことで職業観や勤労観の育成に役立っていることがうかがえた。ほぼ全員が水産・海洋関係に就職・進学する進路実績につながっている。また，取組を進める中で，長門市中高連絡協議会において，キャリア教育についても協議し，情報交換して連携を図ってきた。

イ　地域と連携した活動

県教委「専門高校等教育カリキュラム充実事業」における「地域産業連携型カリキュラム」等の取組として，地場産業と連携協働して，海産物の増養殖や加工品の開発，漁業技術の向上等に取り組んでいる。また，長門市内の「お魚まつり」や「ふるさとまつり」等の地域行事等において，スキューバーダイビングやちくわづくり等，水産校舎の水産・海洋に関する教育活動を生かした取組を行っている。さらに，長門市内の小学生を対象に，海洋科学科の生徒によるちくわ等の食品製造体験を行ったり，総合支援学校と連携し，海洋技術科の生徒による小型実習船の体験乗船や施設見学を行うなど，地域の他校種との交流学習を進めている。

ウ　大学や熟練技術者等による講義・実習

海洋技術科機関コースの２，３年生及び専攻科機関科２年生を対象に，水産大学校海洋機械工学科の施設・設備を活用した高度な内容の実習を体験している。また，山口県職業能力開発協会のマイスター活用事業により，溶接の熟練技術者を招へいし，実技指導を受けることで資格取得等に対する意欲の向上につなげている。

エ　関係団体と連携した漁業後継者育成

平成２０年度から水産高校（水産校舎）と山口県農林水産部水産振興課，山口県漁業協同組合の三者が連携し漁業後継者育成に取り組んでいる。「水産高校生就業促進事業」として取り組み，実際に漁業従事者となり，活躍している卒業生も多い。漁業従事者を目指して入学してきた生徒を対象に，１・２年生は日帰りの短期漁業体験，３年生は３泊４日の長期漁業体験を行っている。さらに，漁業従事者となることを決定した生徒は，卒業後の２年間ベテラン漁師による指導等の支援を受けることができる。

３　成果と課題

（１）成果

①インターンシップやボランティア活動等の多様な体験を積み重ね，人や社会とのかかわりを通して，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする意欲や態度が向上してきている。

②勤労や職業に対する理解が進み，主体的な進路選択につながる意識や学校生活・学習に対する意欲や態度が高まり，地域の愛着，地域からの学び，地域の貢献等，ふるさと長門との関わりの中で自己の在り方生き方の考察も深まってきている。

③地域との連携を強化していく中で，キャリア教育の一つ一つの取組内容が改善・充実され，３校舎の教育機能の充実・発展につながっている。

④３校舎の連携した取組を進める中で，３校舎の特色を生かした連携による新たな教育活動の充実が図られ，併せて他校舎の教育機能の充実につながっている。

（２）課題

①取組が教員個人の力量等に支えられているところがあることから，生徒の多様なニーズ等に対応し取組を更に充実させていくために，今後一層，教職員

			間の連携協働を進めるとともに，人材の育成が必要である。 ②各校舎の充実・発展した取組を３校舎で共有したり，相互に活用することにより，３校舎の独自の教育活動の充実・発展を図るとともに，地域との連携と多様な体験の視点から３校舎の取組を学校の取組として体系化することを検討していくことが必要である。 **４　今後に向けての取組** （１）各校舎の分掌内や分掌間において，一層の共通理解を図り，役割や責任等を明確にした上で，協働実践を促進するとともに，地域関係者等の意見等の聴取や連携協力の強化，先行事例等の研究などを進める。 （２）学校全体で３校舎の取組の情報交換・共有と協議を行う機会を増やすとともに，各校舎の教育活動の成果の共有や活用を一層図っていく取組を検討する。
徳島県	学校	徳島県立海部高等学校	徳島県立海部高等学校は徳島県の南部に位置し，徳島県立宍喰商業高等学校，徳島県立海南高等学校，徳島県立日和佐高等学校の３校を再編統合し，平成１６年度開校した普通科，理数科，商業科の併設校である。進路状況については大学等への進学希望者ばかりでなく就職希望者も多く，多様な進路実現に向けてキャリア教育を推進している。 平成１８年度から地元海陽町出身の方からの支援を頂き，「海部高等学校支援プロジェクト」に取り組み，その一環として商業科においては，「アントレプレナー（起業体験活動）」に，普通科，理数科においては，「グローバル人材の育成」に取り組んでいる。 **１　アントレプレナー（起業体験活動）** （１）目的 ①それぞれの業界の第一線で活躍されている方々を招き，社会の実情やビジネスの世界で生きていくために必要な考え方や姿勢を学ぶ。 ②会社経営の基礎知識や運営していくためのノウハウを学び，しっかりとした職業観・勤労観を身に付ける。 ③課題について解決策を見いだし，課題解決能力を養う。 （２）取組内容等 模擬株式会社を設立し，ベンチャーキャピタリストや公認会計士，銀行員，商工会などによるサポートのもと，「設立登記」として会社の仕組みや投資家の役割等を学び，「ビジネスプランの作成」として市場調査の実施，事業計画書の作成，「資本調達」の方法を学び，「販売活動」を実施し，「決算書作成」として財務諸表を作成し，「株主総会」を経て「利益配当」を実施するなど起業・経営に関する一連の流れを体験している。また，「販売活動」については地元の商工産業祭等において実施し，広く地域との連携も図っている。 「アントレプレナー（起業体験活動）」をとおして，生徒は実社会での厳しさを感じることができ，綿密な計画の重要性や社員であっても経営感覚を持って業務に取り組むこと，経営者としての責任感の重さ，社会的信用の大切さ，コミュニケーションの重要性や難しさ，更にはふだん接することのない大人の方と接することにより言葉遣いの難しさや大切さ，更には自分たちの知識の少なさを感じ，今後学校生活に取り組んだり将来の進路に対して意欲的な姿勢を育成できた。 **２　グローバル人材の育成** （１）目的 ①「未来は，自ら拓くもの」の精神のもと，この留学において，自ら学び，自分の未来の可能性を広げ，国際的に活躍する人間を育成する。 ②ホームステイ等をすることにより，異国の風俗習慣・伝統・文化に触れ，生きた言語を学び国際感覚を養う。 （２）取組内容等 毎年，１，２年生の希望者から４名程度を選出し，イギリス，アメリカ合衆国，フィリピン共和国に２週間程度の短期留学を実施している。 留学をとおして，英語を聞き取る力が行く前と比べて格段に向上するとともに，実際に街中でストリートチルドレンに出会うなど，日本と外国との社会状況の違い

			や現実を再認識することにより，更に多くの事柄を学ぶことの必要性を感じ，様々な国の人と接することにより異文化への関心を更に深めることができている。 　帰国後，参加者は全校生徒への報告会を持ち，異文化に接することやコミュニケーションの楽しさ等を伝え，生徒たちは視野を広く持ち自分自身の生き方を考えるようになっている。 このような取組を通して，生徒は自分の考えを自分の言葉で表現するなどコミュニケーション能力の向上を図るとともに，他の生徒，一般の方々，さらには外国の方との交流を通して「人間関係形成・社会形成能力」を養うとともに，各自に与えられた役割や目的を果たすことを通して「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」等を養い，社会的・職業的自立に向けた能力を身に付けている。
香川県	学校	香川県立三豊工業高等学校	当該校は，「確かな学力の育成」，「健全な心身の育成」，「社会貢献力の育成」の三本柱を教育方針に掲げ，工業高校の特色を生かした職業教育の充実を図るため，様々な活動を通して職業意識，職業観をはぐくむ取組を実施し，キャリア意識の向上に努めている。 **１　就職内定率６年連続１００％達成** 　地域の産業を支える専門技術者を育成や地域に貢献する人材の育成に努め，平成２０年度から６年連続就職内定率１００％を実現している。 〈過去６年間合計〉 　卒業者数：５８９名，就職者数：４１４名，平均就職率：７０．３％ **２　インターンシップの取組** 　望ましい勤労観や職業観の育成が図れるよう，毎年２年生全員実施し，社会人としての心構えや働くことの意義を理解させている。 〈平成２５年度〉 　地元地域の工場（３９事業所）での作業等 **３　職場見学会に参加** 　自己の職業適性や職業選択について深く考える契機となるよう，就職応募前に職場見学会を実施している。 〈平成２６年度〉 　６事業所に１５名参加 **４　社会人講師の招聘** 　地域社会や産業を担う人材を育成するため，必要な教科の学習を行うだけでなく，専門教科の実習等の時間に，優れた知識・技術・経験を持つ社会人等を講師に招き，その指導を受けることにより，卒業後，企業等で即戦力となる技術や技能を身に付けさせるとともに，勤労観・職業観を育んでいる。 〈平成２５年度の講師〉製造業役員・管理職，通信会社役員他 **５　ものづくりを活かした地域貢献** 　学校の所在地である三豊・観音寺地域における，ものづくり支援窓口として「三豊工ものづくりセンター」を開設し，これまで地域から数多くの要望に応えてきた。 〈平成２５年度の取組〉 　一宮公園のドリームタワーのベル修理・ちょうさ会館向けの綿繰り機製作，観音寺市大野原町五郷地区の水車（直径４ｍ：水車小屋に設置）など，地域の要望に応えた。また，香川西部養護学校や近隣の中学校から依頼を受けたものづくりを通して異校種連携にも取り組んだ。この取組は，工業高校ならではの強みを生かしたものであり，地域連携の柱として今年度も継続されている。 　さらに，周辺地域に在住する子供たちに科学技術や工業への興味・関心を持ってもらうために，サイエンスフェスタ（ものづくり体験教室）や保育所・幼稚園・小学校への出前授業を実施し，積極的な地域貢献を果たしている。 **６　産業教育に関する全国レベルの大会に出場** 　近年では，ロボット相撲やロボットアメリカンフットボールで全国優勝しており，「ものづくり，ロボットの三豊工」として，地域の方々に認識され，全国的

			にも名前が知られている。 〈平成２５年度の全国大会成績〉 第２１回高校生ロボット相撲全国大会（ラジコン型）　優勝 第９回高校生ロボットアメリカンフットボール全国大会　優勝
	PTA団体等	香川県ＰＴＡ連絡協議会	香川県ＰＴＡ連絡協議会では，キャリア教育が保護者に身近なものであるという認識の下，講演会の開催等，啓発に取り組んでいる。本年２月に開催した講演会では，キャリア教育は子供が小さいうちから家庭の中で始まっていること，子供が社会に出てから，逆境にもくじけないように育てていくために家庭でのキャリア教育が重要であることへの理解が深まり，大きな反響につながっている。１市，６単位ＰＴＡがキャリア教育についての講演会を開催するなど，香川県ＰＴＡ連絡協議会の発信をきっかけに，郡市ＰＴＡや単位ＰＴＡが情報を得て実践へと広がっていった取り組みとなっている。
愛媛県	学校	松山市立雄新中学校	**１　「雄新夢プロジェクト」の取組** 全校生徒を対象に，４１種類の職業従事者を講師とする講演会「雄新夢プロジェクト」を実施している。４１の講座の中から，各自関心のあるものを二つ選択して受講させ，講話や実習を通して，働くことの意義や職業に対する理解を深めている。 本プロジェクトは平成２４年度から，地域の協力を得て，年々規模を拡大しながら継続実施している。生徒の感想から，自分の将来について真剣に考えようとする意欲が高まっていることが分かる。 **２　「総合的な学習の時間」の取組** 総合的な学習の時間では，計画的に体験活動に取り組み，キャリア教育の推進・充実を図っている。 第１学年では「地域とつながる」というテーマで，地域の調査活動を通して地域に関心をもち，よさを発信する活動に取り組んでいる。第２学年では「社会とつながる」というテーマで，職場体験や自分史の作成を通して働くことの意義や生き方を考え，実行する力を育んでいる。第３学年では「未来とつながる」というテーマで，自ら情報を収集し，将来を見据えて進路選択を行おうとする態度の育成に取り組んでいる。 **３　「命と向き合う」学習の取組** 「かけがえのない『命』と向き合う」を主題とし，全学年で命と向き合う仕事に就いている方による講演や実習，「命」をテーマとした調べ学習を実施している。雄新中学校の教育理念の一つである「命の教育」を基盤としながら，自己を理解するとともに，望ましい職業観や勤労観を育成する教育実践となっている。
	学校	愛媛県立小松高等学校	小松高校は，長期にわたり学科の特性や生徒の発達段階に応じたキャリア教育を実践するとともに，キャリア教育に係る体験活動を通して，職業人としての資質・能力の育成に努めている。 **１　地域企業との連携** 地域企業，保護者を含む就職対策委員会を年３回実施し，企業ニーズを明確にするとともに，企業ニーズを踏まえたキャリア教育の在り方について検討し，地域で活躍できる人材の育成に努めている。 **２　充実したインターンシップ，職場見学，企業説明会の実施** １年次から職場見学（３事業所）や企業説明会（４事業所）を実施しているほか，ライフデザイン科では，５日間のインターンシップを地元企業等２３事業所で行うとともに，普通科では，生徒が受け入れ事業所を自ら探してインターンシップを行うなど，学校では味わうことのできない貴重な体験をし，働くことの厳しさや楽しさを感じるなど，望ましい勤労観・職業観の育成に努めている。 **３　職業人による講演会の実施** 地域企業の協力の下，職業人による講演会を実施するなど，生徒自身が自己の生き方を見つめ，目標をもって進路実現に向けて取り組めるよう努めている。また，卒業生を招いた生活関連産業説明会を実施し，社会人となった先輩の「生の声」を聞くなど，社会人としての在り方を学ぶ機会を積極的に作っている。

			４　ビジネスマナー講座の実施 　職場でのコミュニケーション能力を高めるためのビジネスマナー講座を実施するなど，社会的・職業的自立に向けた実践的な取組を行っている。 **５　キャリア教育に係る情報発信** 　学校のホームページにキャリア教育に関する実施状況を掲載するとともに，毎月発行されている「ライフデザインだより」に，講演会やインターンシップの実施状況を掲載するなど，キャリア教育の普及・啓発に尽力している。
	学校	愛媛県立みなら特別支援学校	**１　関係機関と連携したキャリア教育の推進** 　労働・福祉等関係機関，企業，福祉サービス事業所，保護者，教職員で構成する「キャリア教育推進連絡協議会」を設置し，「キャリア教育全体計画」や就労・生活支援の在り方，企業への理解啓発の方策等について検討を行うとともに，企業関係者等を対象とした学校公開セミナーを実施し，外部評価を授業改善につなげるなど，関係機関と連携・協力を図りながらキャリア教育の推進に取り組んでいる。 **２　外部講師（就労支援アドバイザー）の活用** 　障害者を雇用している企業関係者等を年間１５～１６回，就労支援アドバイザーとして学校に招へいし，特に，清掃や接客など，社会情勢や雇用側のニーズ等を踏まえた新しい作業種の開発や指導方法の研究に積極的に取り組んでいる。 　高等部においては，就労支援アドバイザーが実技指導を行う作業学習や働くために必要な事柄について学ぶ「働く人講座」，進路に関する相談を行う「はたらコーチの相談室」，生徒の疑問に対し，企業関係者からの助言を得る座談会の実施など，生徒の幅広い進路選択につながる職業教育や進路指導の充実・改善を図っている。 　また，小学部においては，保護者や教職員を対象に，高等部卒業生の就労現場の紹介や早期から身に付ける必要のある力についての理解を深める研修会を，中学部においては，３年生を対象に高等部卒業生との座談会を実施し，将来の生活についてイメージし，「働くこと」について考えるなど，小・中学部・高等部の特性やニーズに応じた活用を図っている。 **３　現場実習への積極的な取組** 　生徒が実際に働く経験をする中で，働くことの意味を理解し，自分の適性や進路を考える機会となるよう，段階的・計画的に現場実習を計画し実施している。２～３週間の実習を年２回実施し，校内実習や集団実習，個別実習と段階を踏んで実習の形態を変えている。さらに，企業関係者等の意見を取り入れた実習評価票を作成し，現場実習の成果や課題を学校における教育活動に生かす取組を行っている。
福岡県	学校	朝倉市立十文字中学校	教育活動全体における位置づけを明確にしたキャリア教育の年間指導計画を作成し，啓発的体験活動を体系化し，事前・事後指導を工夫した教育プログラムを具体化するとともに，各教科及び道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図っている。 　また，校内の指導体制・組織を充実させるために，ＰＤＣＡサイクルによる教育プログラムの評価・改善を行っている。 　さらに，地域連携による組織を立ち上げ，地域や保護者の教育力を活用した取組を行っている。 **１　基礎的・汎用的能力を育成する教育プログラムの実施** ＜ディスカバー十文字構想＞ （１）文中寺子屋塾（学ぶ意欲を高め，個性の伸張を図る取組） 　①夏講座・冬講座 　　夏休みや冬休み期間中に，知・徳・体・スペシャリストの４つの分野で約５０講座を開設する。長期休業中にしか味わえない貴重な体験を通して，個性や可能性を伸ばす。 　②ブリリアントスチューデント表彰 　　英検，数検，漢検など生徒が取得した検定の級をポイント化して，優秀な

生徒を表彰する。各種検定の積極的な受検を推奨し，学ぶ意欲を高める。

③文中式ノート検定

日頃の授業で使用するノート指導を通して，学ぶ意欲を高めるとともに基礎学力の定着を図る。ノート作りの基準を定めて，定期的に全校集会でノート検定を実施する。

④勉強合宿

少年自然の家に２泊３日で宿泊し，中学校のＯＢやＯＧを中心に，大学生ボランティアのサポートで２０時間の学習にチャレンジする。生徒は，学習目標や計画を立て，集中して学習する経験を通して，達成感を味わい，自尊感情を高める。

（２）文中未来塾（社会的・職業的自立の基盤となる能力を育成する取組）

①この人に学ぶ

高い専門性を持つ社会人を教室に招いて，仕事の内容や働くことの意義などを学ぶ。生徒は，毎年２名ずつ，３年間で６名の各分野で活躍する講師の話を聞く。将来の夢や生き方を考えるキャリアモデルとの出会いの機会である。

②大学キャンパス訪問

関東方面への修学旅行の機会に，大学キャンパスを大学生ボランティアの案内でグループごとに訪問し，講義の模擬体験や施設見学，現役の大学生へのインタビューを行い，進路選択に役立つ情報を収集する。その後，１０年後の自分のキャリアデザインを設計する学習を行う。

③十文字しぐさ検定

挨拶や言葉づかい，礼儀やマナーなどの基準を定め，管理職による集団面接を行う。規範意識を高め，社会生活に必要な社会的スキルを習得する。

④立志会（平成２５年度より，「立志式」（第２学年））

第２学年の３学期に，武士社会で行われていた元服の儀にちなんで，受験生となる決意を表明する式である。生徒は，将来の夢や目標を明確にし，それを実現させるためのキャリアデザインを，夢実現シートに作成する。生徒一人一人が，決意を四字熟語の書で表し，地域・保護者の前で発表する。

⑤アントレプレナー（起業家精神涵養教育）

起業家精神に学び，自由な発想と積極的な実行力，コミュニケーション能力を育てる教育である。農業体験では，２年生がもち米を生産し，生産，加工，販売のプロセスを体験的に学習する。商品開発では，１年生が技術科木材加工において，生活便利グッズの開発を行い，設計，プレゼンテーション，製作，品評会を行う。

２　組織的推進を図る教育プログラムの評価・改善

＜経営システムの構築＞

（１）組織マネジメント（キャリア教育を組織的・継続的に推進するシステム）

①ＳＷＯＴ分析

各学期ごとに，教職員の参画意識を高め，新しいアイディアを創造するためのボトムアップ型のワークショップを全職員で行っており，キャリア教育の中・長期の評価・改善の場としている。

②学年・学級バリアフリー

学年セクトという中学校特有の学年の壁を取り除き，学習指導，生徒指導，キャリア教育について，全職員で協議する場である。３週間を１サイクルとして，ＰＤＣＡサイクルで推進し，キャリア教育の短期の評価・改善の場としている。

（２）地域連携（地域の教育資源を活用し，信頼される学校づくりを推進するシステム）

①マイスクール委員会

地域や保護者・関係機関を巻き込み，キャリア教育の推進を図るために設定した組織である。構成メンバーは，学校の近未来のリピーターで，学校の

			スポークスマン，アドバイザーとして支援・協力が期待できる人材である。定期的に会議を開催し，キャリア教育を含む様々な教育活動について協議する。 ②心の教育ステーション 毎年２学期に，キャリア教育の取組の発信の場として，研究発表会を開催している。キャリア教育の一環として，道徳，学級活動，総合的な学習の時間の公開授業，キャリア教育の在り方をテーマとしたパネルディスカッションを行い，取組の成果と課題を発表するとともに，外部評価としても位置づけている。
	学校	福岡県立福岡魁誠高等学校	**１　福岡魁誠高等学校の取組** 総合学科の特色を生かしながら，生徒一人一人の社会的・職業的自立を目指したキャリア教育を実践している。生徒自らが考えて意見を述べる力，他人とうまく意思を伝え合う力，物事を多面的に分析して判断する力などの育成を特に重視し，同窓生や保護者，地元企業等と緊密に連携した体験的学習活動を積極的に取り入れている。 総合学科への改編以来１０年間，事前・事後学習を重視した体系的・組織的なキャリア教育への改善を続け，生徒に学びや勤労の意義についての理解を深めさせ，学習意欲を向上させることにつなげている。 **２　キャリア教育充実に向けての具体的取組** （１）魁誠お仕事スタジアム 社会の第一線で活躍している様々な社会人に直接話を聞くことによって，自己の将来像を明確に描かせる。また，様々な職業の仕事内容や専門性を知ることにより，自己の職業観，勤労観を涵養させるプログラムである。 （２）ＭＥＳＥ（ミース）プログラム 「意思決定」がテーマの経営シミュレーション。少人数のチームに分かれて経営に必要な項目を決めるための議論を繰り返す，コンピュータを活用したプログラムである。 （３）ジョブシャドウ 仕事に打ち込む人の姿を身近で観察することにより，生徒自身の将来設計や職業選択に資するプログラムである。 （４）ＳＣＰ（スチューデント・カンパニー・プログラム） 疑似株式会社を設立し，生徒自らが商品の開発・生産・販売を行い，その成果を株主総会で発表する実技体験型の経済教育プログラムである。
	PTA団体等	福岡県立大川樟風高等学校PTA	大川樟風高等学校ＰＴＡは，「大川市内中学校・高校 PTA 交流会」，「ＰＴＡ視察研修会」，「樟風生未来への一日」，「インターンシップ」，「『大川組子』製作」等で，学校と十分な連携がとれており，生徒のキャリア形成に成果を上げている。ＰＴＡ理事会を定期的に開催し，キャリア教育はもとより，学校教育活動の充実に向けてどのような取組を行うべきか審議し実行している。以下の５つを特筆する。 **１　大川市内中学校・高校交流会** 市内唯一の県立高等学校として，本校ＰＴＡと大川市内４中学校ＰＴＡとの交流により，校種を越えて，相互の理解と連携を深めることを目的として，大川市内中学校・高校交流会を実施している。交流会では互いの学校紹介や班別討議を通して，生徒の進路選択を始め，子供たちが抱えている問題の解決に取り組んだ。また，本校の説明では，タブレットを用い，様々な教育活動を分かりやすく紹介した。この活動を通して，大川市の将来を担う人材を大川市内で育成するという意義をＰＴＡ相互で確認するとともに，生徒を取り巻く課題の解決に向けた情報交流ができた。 **２　ＰＴＡ視察研修会** 当該校キャリア教育課と協力して，毎年１０月に実施している。ＰＴＡとして大学を視察し，見聞を広め，進路決定に関する知識を高めることや，大学等上級学校教育に触れ，高校での学びの意味を確認することを通じて，学校・家庭が一体となった進路選択の推進に資するものとなっている。

			３　樟風生未来への一日 　生徒・保護者向け進路説明会を毎年５月にＰＴＡの支援を受け，１日を使い開催する。この目的は，生徒の進路決定の参考にし，親子で人としての「在り方・生き方」を考える機会とするものである。内容は，ＰＴＡ役員を中心として，講師の掘り起こし，ＰＴＡ役員ＯＢによる講演等を行った。 **４　インターンシップ** 　ＰＴＡの協力を得て，地域の企業を中心にインターンシップ先を掘り起こし，決定している。 **５　「大川組子」製作** 　生徒のキャリア教育の一環として，大川市の伝統工芸である『大川組子』の製作の講師をＰＴＡに紹介していただいた。全国でも有名な組子職人（ＪＲ九州ななつ星の『大川組子』作製者）を招き，郷土の伝統工芸の継承についてＰＴＡの協力を得て実施している。
佐賀県	学校	大町町立大町小学校	平成２３年度，大町町立大町小中学校が小中一貫「大町ひじり学園」として開校した。この年から，小学部，中学部の全職員が一つの校内研究組織で『キャリア教育』をテーマに研究に取り組み，キャリア教育を基軸とした９年間を見据えた小中一貫教育を推進している。本年度で４年目となる。 **１　平成２３～２５年度校内研究主題** 『人や社会とつながり，学びをいかす児童生徒の育成』 ～ブロック部会での実践を充実させる「キャリア教育」の展開～ **２　平成２６年度校内研究主題** 『「キャリア教育」の考え方に根ざした学力向上』 ～児童生徒の学習意欲を高めるための指導方法改善研究～ **３　取組の実際と成果** 　大町小学校では，キャリア教育を児童の生きる基盤を育成する教育と捉え，自分らしさを発揮しながら，自立して生きていくために必要な能力（基礎的・汎用的能力）や態度を育成することと位置付けている。特に，以下の３つの研究に取り組み，成果をあげた。 （１）前・中期ブロック段階における具体的活動計画の作成・実践 　各ブロック段階において，「大町ひじり学園で考えるキャリア教育における目指す児童生徒の姿」「児童生徒の実態」を意識するために，ブロック部会で発達段階に応じた具体的な手立てを共通理解しながら，実践を積み重ねた。「キャリアの教育アンケート」の平成２４年度と平成２５年度を比較すると，小学部の段階における児童の「基礎的・汎用的能力」が，伸びていた。 （２）日常授業における指導方法改善 　各教科等の授業において，児童に自分の思いや願いをめあてとしてしっかり意識させ，それに対する「学習のまとめの活動・ふりかえりの活動」を充実し，学んだことを次時（若しくは次単元・他教科等の題材）にいかす展開を導入した。そうすることにより，計画をたてることの大切さ，見通しをもって活動することの良さを感じさせるとともに，一つ一つの目標達成が自分の力を伸ばしていることを実感させることもできている。 （３）協働意識と創造力を高める研究授業・授業研究会 　児童のキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」や望ましい態度の定着を図るため，研究授業・授業研究会を計画的に実施し，全教職員の協働意識と創造力を高めた。 　平成２６年度は教科を算数に絞り，授業研究を深めている。 キャリア教育について，大町中学校と合同で研究を実践しているが，特に大町小学校では，１時間の授業の学習過程のひな型である「大町型学習」を設定し，職員全員が実践して学力，「基礎的・汎用的能力」の向上を図っている。また，小学生として各学年の基本的学力を設定し，全職員が到達目標を共有して定着に向けて取り組んでいる点は評価できる。

			大町ひじり学園の取組については、大町町教育委員会 HP で紹介しています。 http://cms.saga-ed.jp/hp/omachi-t/home/homeMain.do
	学校	伊万里市立波多津小学校	伊万里市立波多津小学校は，平成２３年度から２４年度に「佐賀県魅力ある学校づくり推進事業」，平成２５年度から２６年度は「佐賀県“進”魅力ある学校づくり推進事業」の指定を受け，キャリア教育に取り組んでいる。学校教育全般にわたって，キャリア教育の視点で，様々な活動を見直し体系づけていくとともに，体験学習や地域学習が多く含まれている生活科や総合的な学習の時間に焦点を当て，キャリア教育の視点を取り入れた授業実践を行っている。平成２４年度には，研究の一端を，全学年の公開授業として，研究発表会で発信した。伊万里市内だけでなく，広く県内に研究成果を公開しキャリア教育の推進に貢献していることから，キャリア教育優良学校として推薦する。 **１　具体的な取組** （１）キャリア教育の理論研究と職員の共通理解 文部科学省作成のパンフレットや『小学校キャリア教育の手引き』を用いて研修を行い，共通理解を深めた。講師を招へいして校内研究会を実施したり，各種研修会へ参加したりして研修を深めた。また，波多津の人・もの・ことについて老人会からの説明会を開催し，職員間の共通理解を図った。 （２）キャリア教育の全体計画の作成及び見直し・修正 ①研究で目指す児童像に迫るため，児童の実態把握や発達段階を考慮し目指す児童像を設定 ②「キャリア教育で身につけさせる能力・態度一覧」の作成 ③各教科，道徳，特別活動，学校行事におけるキャリア関連活動の年間計画の作成 ④児童の意識調査に基づく，全体計画の見直し・修正 （３）生活科，総合的な学習の時間におけるキャリア教育を視点とした年間指導計画の作成及び授業実践 （４）学校の特色をいかしたキャリア教育の推進 ①「ぐんぐん便り」の発行や地域を題材とした教材開発 ②学校テーマ「大好きなふるさと波多津から」の探究活動 ③キャリア教育を意図した環境整備 **２　成果** （１）これまで実践してきた教育活動を，キャリア教育の視点から見直し・体系づけたことで，児童の発達段階に応じた活動のねらいや意味づけが明確になった。 （２）「キャリア教育で身につけさせる能力・態度一覧」を作成する中で，育てたい力の明確化・体系化ができた。「キャリアの視点」をあらゆる活動の中で持てることがわかり，児童への言葉かけも変わってきた。また，日々の学習や活動の様々な場面で，児童の将来を見据えた指導を心がけるようになった。 （３）生活科や総合的な学習の時間において，各学年間の系統性を持った単元計画と，キャリア教育を視点とした学習指導の在り方についての共通理解ができたことで，見通しを持った指導ができるようになった。 （４）地域の人材を学校行事や授業等に活用することで，家庭，地域との連携を深めた。 （５）地域の教材化によって，地域のことをより深く知ることができ，教職員の指導力の向上に資することができた。 **３　今後の取組** 研究発表会後も，中学校区で幼保連携や小中連携の見直しを深めたり，中学校でキャリア教育を推進する学校へ研究成果を提供したり，他地区の小学校「進路部会」において「小学校キャリア教育」の実践について発表したりと，自校だけでなく，地域や県全体のキャリア教育の充実に向けて研究を続けている。

	学校	大町町立大町中学校	平成２３年度，大町町立大町小中学校が小中一貫「大町ひじり学園」として開校した。この年から，小学部，中学部の全職員が一つの校内研究組織で『キャリア教育』をテーマに研究に取り組み，キャリア教育を基軸とした９年間を見据えた小中一貫教育を推進している。本年度で４年目となる。 **１　平成２３～２５年度校内研究主題** 『人や社会とつながり，学びをいかす児童生徒の育成』 ～ブロック部会での実践を充実させる「キャリア教育」の展開～ **２　平成２６年度校内研究主題** 『「キャリア教育」の考え方に根ざした学力向上』 ～児童生徒の学習意欲を高めるための指導方法改善研究～ **３　取組の実際と成果** 大町中学校では，キャリア教育を生徒の生きる基盤を育成する教育と捉え，自分らしさを発揮しながら，自立して生きていくために必要な能力（基礎的・汎用的能力）や態度を育成することと位置付けている。特に，以下の３つの研究方法に取り組み，成果をあげた。 （１）中・後期ブロック段階における具体的活動計画の作成・実践 中・後期ブロック段階において，「大町ひじり学園で考えるキャリア教育における目指す児童生徒の姿」「児童生徒の実態」を意識するために，ブロック部会で発達段階に応じた具体的な手立てを共通理解しながら，実践を積み重ねることができた。「キャリアの教育アンケート」の平成２４年度と平成２５年度を比較すると，生徒の「基礎的・汎用的能力」の数値は，減少していたが，これは，当該校の生徒が，自分の能力を的確に把握する力（自分自身を厳しい目で見つめる）が伸びているためと考えられる。 （２）日常授業における指導方法改善 各教科等の授業において，生徒に自分の思いや願いをめあてとしてしっかり意識させ，それに対する「学習のまとめの活動・ふりかえりの活動」を充実し，学んだことを次時（若しくは次単元・他教科等の題材）にいかす展開を取り入れた。そうすることにより，計画をたてることの大切さ，見通しをもって活動することの良さを感じさせるとともに，一つ一つの目標達成が自分の力を伸ばしていることを実感させることもできた。 （３）協働意識と創造力を高める研究授業・授業研究会 生徒のキャリア教育の「基礎的・汎用的能力」や望ましい態度の定着を図るため，各教科で研究授業・授業研究会を計画的に実施し，全教職員の協働意識と創造力を高めることができた。 キャリア教育について，大町小学校と合同で研究を実践しているが，特に大町中学校では，１，２年生を中心に総合的な学習で，キャリア講演会，職場訪問，職場体験を計画的に実施し職業観・勤労観を育んでいる。また、「若みどりプラン」を企画し，家庭学習「あすなろワーク」，朝の時間「聖タイム」，地域人材を活用した補充学習「若みどりセミナー」，「サマーセミナー」を実施し，学習習慣の定着を目指し，「基礎的・汎用的能力」の向上を図っている点が評価できる。 大町ひじり学園の取組については、大町町教育委員会 HP で紹介しています。 http://cms.saga-ed.jp/hp/omachi-t/home/homeMain.do
鹿児島県	教育委員会	曽於市教育委員会	曽於市教育委員会は，「覇気に満ち，常に夢実現にチャレンジする児童生徒の育成」を基本目標に定め，小学校段階から，児童に「夢」をもたせ，全教育活動の中で「夢実現の日常化」の取組を中学校まで一貫して進めている。児童生徒一人一人に明確な「夢」「目標」を設定させ，何事にも積極果敢にチャレンジする意欲や，生きる姿勢を身に付けるような施策を展開している点が，特徴的である。 各小・中学校においては，学校経営方針（グランドデザイン）に夢実現に向けた取組を明記し，全ての学校で夢実現チャレンジの教育活動を推進している。キャリア教育を「夢実現」という視点で行っている。

			【具体的取組】 **１　「夢」先生招へい事業** 　地域の方々や各界で活躍しているアスリート，著名人等を学校現場へ招へいし講話等をとおして，子供時代から現在に至るまでの夢のもち方や変容等について，生きた具体例を学ぶことで，将来の目標や夢を抱く機会を促す。 **２　「夢」実現チャレンジ担当者研修会** 　曽於市内の全ての小・中学校に「夢」実現担当者を置いている。児童生徒の夢や目標のもたせ方についての施策をリードするほか，家庭・地域との連携におけるコーディネーター的役割も果たす。今年度の研修会では，「学力向上」に関連付け，そおっ子の夢実現を支える土台は，「学力向上」であるとの認識を新たにした。 **３　「夢」実現チャレンジ実践報告集の刊行** 　平成２０年度から，各学校の取組を夢新聞にまとめた報告集を年に３回刊行している。社会教育関係の取組，夢実現支援者の集いとしての「教師力向上講座」の様子等も掲載している。今年度は，第１９号を発刊した。 **４　「夢」実現テーマソングの制定** 　平成２５年度に曽於市内の小・中学校の児童生徒から夢実現チャレンジに向けたテーマソングの歌詞の募集を行い，歌が完成した。作曲も，曽於市内の中学生によるもので，まさに「そおっ子」の手によるテーマソングが完成した。
	学校	垂水市立協和小学校	当校は，大隅地区研究指定校として，以下の実践に取り組み成果を上げ，大隅地区並びに垂水市におけるキャリア教育の充実・発展に貢献した。 （研究テーマ） 人とのかかわりをとおして，多様な価値に気付く子供の育成 ～キャリア発達をうながす活動の工夫・改善～ **１　キャリア教育の視点に基づいた教育課程の見直し** 　これまで行ってきた教育活動の中にある「キャリア発達にかかわる要素」の中から精選したものを，相互に関連付けることにより教育効果を高める。 【つなぐ】ことを意識した取組 （１）事前・事後指導を重視した特別活動の取組 （２）異年齢集団活動の推進 **２　「かかわり」を重視した学習過程の工夫・改善** 　授業基本モデルの問題解決的な学習過程において，キャリア教育における基礎的・汎用的能力の育成を図っている。 **３　「地域で，地域に，地域と学ぶ」総合的な学習の時間の取組** 　総合的な学習の時間の目標を構成している５つの要素をキャリア教育の目標及び育成したい諸能力と関連づけながら，キャリア教育の視点を明確にした指導計画を作成するとともに，以下の点に留意し実践を積み重ねている。 （１）地域・人との「かかわり」を重視した指導計画の作成 （２）体験活動を重視した取組の推進 （３）地域人材・地域素材の活用
	学校	鹿児島県立野田女子高等学校	野田女子高等学校は地域の医療センターを始めとする各種事業所と連携し，臨地実習や職業体験学習の推進を通して専門的知識・技能を習得させ，職業人としての資質を養い，併せて進路選択への主体的な態度の育成を図っている。また，平成２４・２５年度には鹿児島県の「かごしま専門高校パワーアッププロジェクト事業」の指定を受け，「こどもの森プロジェクト」と「食育大作戦～未来を担う子供たちへ～」に取り組み，地域の子育てに関する課題を捉え，支援活動を体験することで，職業への理解が深まり進路に対する意識の高揚が図られた。 **１　各学科の今年度のインターンシップ** （１）生活文化科の職業体験 （２）食物科の職場体験 （３）衛生看護科の臨地実習

			２　かごしま専門高校パワーアッププロジェクト事業 （１）平成２４年度「こどもの森プロジェクト」は生活文化科が中心となり，①幼児が安全に活動できる空間，あそびのスペース「森の保育園」の設置，②地域の子育て家族の課題を捉え，子育て家族向けの支援活動プログラムを企画し，専門教科における学習成果を還元する講座「森の講座」，③遊具や玩具等を製作する「森の工房」の三本柱で実施した。これらの活動を地域内の専門高校や社会福祉協議会と連携して行い，現在もこの活動を通して，生徒たちに地域の子育て家族の支援や子供の健全育成に貢献しているという実感をもたせ幼児教育のスペシャリストとしての基礎を培う学習を継続している。 （２）平成２５年度「食育大作戦～未来を担う子どもたちへ～」は本校食物科が厚生労働省認可の調理師養成施設であることをいかし，生活文化科と食物科が連携して取り組み，①地域の食育に関する実態調査の実施，②食育活動に必要な知識・技術の向上③「森の教室」における食育講座などを実施した。食育講座では「幼児のそしゃく」をテーマに，本校衛生看護科の生徒による講座も実施した。 以上，二つの取組により，次のような効果が現れている。 ①幼児を観察し，幼児・保護者と交流する活動を通して，保育に関する学習への意欲の高揚や技能の深化が図られている。 ②保育士という職業に対する理解が深まり，進路希望が明確になるとともに，保育に関する上級学校への受験目標が早期に定まるなど，進路学習の有効な手立てとなっている。 ③本校の特色をいかし，地域や行政機関との連携を図った事業の展開により，キャリア教育の深化・充実が図られた。 このように，野田女子高等学校がこれまで取り組んできた各学科のインターンシップや子育て支援，その環境についての実践的な学習活動は，生徒の職業観の醸成に効果を上げている。 なお，平成２６年度，文部科学省の指定を受けて実施する「中・高校生の社会参画に係る実践力育成のための調査研究」により，２か年間の「かごしま専門高校パワーアッププロジェクト事業」における子育て支援に関する学習の成果がさらに発展・深化し，生徒自らが諸課題を解決していこうとする行動力や実践力が高まり，社会参画の態度が育成され，更なるキャリア教育の推進が図られることが期待される。
沖縄県	教育委員会	沖縄県伊平屋村教育委員会	伊平屋村は沖縄県の最北端に位置し，人口１３００名余で，小学校１校，中学校１校，小中併置校１校（合計３校）の学校が点在し，幼児児童生徒の数は，１９０名程度である。 島には高校がなく，子供たちは１５歳で親元を離れて沖縄県や県外の高校に進学しなければならない現実がある。「島を誇りに思い，強い心で，困難を上手に乗り越えていく力」を育む教育が島の大きな課題であり使命であると考える。そのために，伊平屋村教育委員会ではキャリア教育の一環である「島発ち（しまだち）教育」として以下の点を推進している。 **１　５日間の職場体験学習** 中学校（２校）の要望を受けて，学校及び教育委員会，行政の三者が連携し，沖縄本島のコープおきなわをコーディネーターに，島の中学２年生全員を対象とした本島での職場体験を５日間実施し，島内にはない多様な職種に触れることで，早い段階からの就業意識の向上や「職業観」「勤労観」を身につけさせ，今後の進路や将来の目標を明確に描くことのできる人材を育むためのキャリア教育を推進している。（平成２４年度から継続実施中） **２　全教職員対象のキャリア教育研修会の実施** （１）キャリア教育講話（４月２５日実施） 演題：「社会で役に立つ人財とは～社員教育を通して～」 講師：琉球産経株式会社社長　新垣 勲 氏

			（２）ライフスキル教育セミナー&ＷＳ（５月１７日，８月１４日～１５日：平成２２年度～継続中） ＪＩＹＤ認定講師：篠田　康人氏 （３）ライフスキル教育の授業実践（三校） 教科等の年間指導計画の特別活動の中に各学年１０時間程度，ライフスキルの授業を位置づけ，実践している。 また，年３回三校合同研修会を実施し，そのうち２回はライフスキルの授業研究会を実施している。（小中ともに１回ずつ実施） **３　島発ち（しまだち）推進事業の実施** 平成２６年１１月３日～６日「東京ディズニーランドで～おもてなしの極意を学ぶセミナー～」対象は全小学６年～中学３年までの約８０名と引率者１０名（教育委員会２名含む）本年度立ち上げた新事業であるが，７年間継続する方向で進めている。
	学校	沖縄県南風原町立北丘小学校	沖縄県教育委員会研究指定校（キャリア教育・平成２４年度～２５年度）の指定をうけ，研究主題を「夢や希望を持って，他とかかわり合いながら，自分らしさをのばそうとする児童の育成」と設定し，日々の実践を行った。 課題となっている教職員の意識のばらつきや年間指導計画の確立，推進組織・体制を改善するため，学校支援地域本部事業を活用し，教科等の年間指導計画に地域教育資源の位置付けを行い，「学ぶ意欲」や「働く意義」を実感させる授業実践を行うことができた。 ２年目には，授業実践後の基礎的汎用的能力の実態調査を行い，考察と手立てを児童の発達段階に応じて確認し，その考察と手立てに従い，研究を進めてきた。全職員が学年の目指す児童像とキャリア教育の４つの能力（人間関係形成・社会形成能力，自己理解・自己管理能力，課題対応能力，キャリアプランニング能力）を意識した年間構想図をもとに実践を行った。 授業実践を主にした多くのワークショップ型研修を行い，キャリア教育を通して身につけさせたい能力や態度の共通理解，教育活動全体を通しての計画，推進体制の在り方について，更なる成果を上げることができた。 特に，キャリア教育の４つの能力を意識した年間構想図は各教科・領域との関連が見えるよう工夫を図った。また，どの学年でも地域人材を活用することで保護者，地域の方々の支援が充実し，発達段階に応じたキャリア教育の基礎的・汎用的能力を伸ばしつつある。 取組の特徴として，３学年：総合「南風原お宝発見隊」では，地域の各分野で活動している名人さんたちを招いて，学級ごとに４ブースに分かれてお話をうかがう。５学年：総合「進路学習会」では，いろいろな職業の方を招いて，コーナー（１４～１６ブース）に分かれて話をうかがう。６学年：総合「夢・仕事ぴったり体験」(ミッションプロジェクト)では，町内の企業４社から，会社説明会・ミッションを受け，希望の会社に入社しミッションプレゼンの取組をする等，学年発達段階に応じた，学校独自の特色ある取組を行っている。 取組実施に当たっては，各学年の体験学習における，学習支援者個々との連絡調整は，学校からの要請を受けて町地域コーディネーターが主になって行い，学習の事前・事後の話合いが計画的に実施される等，学校地域支援本部事業との連携が密に図られている。
	学校	沖縄県竹富町立西表小中学校	本校は，児童生徒一人一人に勤労の尊さや生産の喜びを体得させることを目的とした「稲作体験学習」と「和紙づくり体験学習」を昭和５４年度から３５年間，昭和５７年度から「海の体験学習」を３２年間継続して実践している。今年度もキャリア（生き方）教育の推進を学校経営方針に位置づけ，児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な人間関係形成能力等の育成を図っている。三大体験（勤労生産体験）学習は，今年度も努力事項として取り上げ，小中・家庭・地域・事業所との連携・協力を活動のポイントとし，組織的・計画的・継続的にキャリア（生き方）教育を推進している。

			【具体的取組】 **１　稲作体験学習（１月～１２月）** （１）目標 　地域の産業である稲作を体験的に学び，つくる人への感謝の気持ちや働くことへの意欲・関心を育てる。 （２）取組 　浸種－種籾の選別（１月），播種・育苗－播種種籾を育苗箱（１月） 　田植－学校水田で田植（２月），田草取り－水田の草取り（４月） 　稲刈り－収穫・脱穀・乾燥（６月），販売－精米して販売（７月） 　餅つき－もち米で餅づくり（１２月） （３）ポイント 　地域の稲作熟練者を講師として迎え，地域との交流や共同作業などを実践し，地域と連携して取り組む。 **２　海（サバニ：小漁船）の体験学習（４～５月）** （１）目標 　保護者や地域の方々と協力してサバニ漕ぎを体験し，地域の自然や海での仕事などについて理解する。 （２）取組 　サバニについての講話，３種類のサバニ体験，小中合同での体験 （３）ポイント 　サバニを活用した職業に就いている保護者や地域住民をゲストティーチャーとして迎え，保護者・地域住民と連携して取り組む。 **３　紙すき（和紙づくり）体験学習（１１月～２月）** （１）目標 　郷土の自然や文化に興味・関心をもち，つくる喜びを体感するとともに，自作の和紙で卒業証書ができることに誇りをもつ。 （２）取組 　原料取り，皮剥，煮熟・ちり取り，叩解，紙すき，圧搾・乾燥 （３）ポイント 　和紙づくりを専門とする地域の事業所から講師を迎え，地域・事業所と連携して取り組む。 **４　成果と課題** （１）働くことの意義について理解し，体験学習など学校の学習と自分の将来をつなげて考えることができた。 （２）小・中の仲間，保護者や地域住民と関わる喜びやものづくりの楽しさを実感できた。 （３）児童生徒の学習意欲が高まり，全国学力調査等での結果が向上した。（全国平均超） （４）地域の教育資源を効果的に活用するために，地域コーディネーターの育成と人数確保が必要となる。
	学校	沖縄県立普天間高等学校	平成２４年度より沖縄県教育庁県立学校教育課による「キャリア教育マネジメント事業」の指定校として，キャリア教育コーディネーターを配置し，高校における教科の授業，ホームルーム活動等の教育活動全体を通して，生徒一人一人の主体的な進路選択，自己実現に資する取組を行っている。 キャリア教育コーディネーターの活用としては，主に以下の通りである。 ①教師と協働した授業の開発，地域素材や企業開拓を行い，授業実施に向けての調整 ②アクティブラーニング等の授業手法の紹介やキャリア教育の情報を提供 ③地域や保護者へのキャリア教育の啓発活動 ④キャリア教育的視点を取り入れた学校行事の提案

１　新しいインターンシップの取り組み

「インターンシップＡ」・・・既存の就業体験型

「インターンシップＢ」・・・問題発見プロトタイピング型

新たな試みであるインターンシップＢでは，自立・創造する起業家精神や，企業に限らずとも組織の中で自ら動ける人材の育成につながるインターンシップである。

琉球大学産学官連携推進機構の協力・助言を得て，起業家による講義の実施と協力企業５社からの課題に対して，学習した様々なフレームワークを活用し，アイディア思考を広げていった。

＜インターンシップＢ型参加後の生徒の変容＞

志願者２５名，その後の生徒の活躍が目覚ましい。地域や産学官主催のビジネスコンテストで優勝を果たし，「日本の次世代リーダー養成塾」に自主的に参加する生徒が出ている。

自分の地域課題に関心が向き，自分たちの力で社会を変えることができるという手応えを感じている。実際に宜野湾市の商工会議所と第３セクターの共同で，高校生の企画が実際に採用され「地域商店街活性化事業計画書」で実施に向けて動いている。

２　外部人材活用型の行事と授業の実施

（１）普天間塾

創立５０周年事業の一環として実施された普天間塾は，本校の同窓生，賛同者の外部人材を各ホームルームで選定し，生徒が直接交渉するという学校行事であり今年で 18 年目を迎える。普天間塾の充実・発展として，人材リストを職種でカテゴリー分けし，顔写真とプロフィールを掲載する工夫を行ったり，同窓生を中心に外部人材の開拓を積極的に行っている。

（２）外部人材活用型のキャリア教育授業実施

キャリア教育コーディネーターが携わり，外部人材を活用し学校活動全体で，キャリア教育を実施している。

（３）キャリア教育に関する自主研鑽と校内研修の取り組み

本校では，「共に学び共に招く」精神が教職員にも息づいており，キャリア教育の県外先進校の視察を行い（都立雪谷高等学校，都立芦花高等学校他），校内研修にも積極的に県外講師招聘を行いながら，アクティブラーニングに必用なスキルであるファシリテーションの講習や，探求学習の研修を実施している。

PTA団体等　沖縄県立那覇国際高等学校ＰＴＡ

那覇国際高等学校ＰＴＡは，保護者が率先して様々な活動を企画・実施している。

本校は，県下有数の進学校ということもあり，進路・キャリア教育に関して保護者の意識が高く，ＰＴＡに設けられた『進路対策部』と１～３年の各『学年委員会』を中心に様々な行事や講演会等を年間通して行っている。

平成２５年度に実施したキャリア教育に関する主な取組を時系列に記す。

取組名	期日	対象	内容
ＰＴＡ進路講演会	7/22（月）	全学年保護者	演題「～夏休みをミカタにつける～親にもできる簡単キャリア教育」 琉球大学　教育学部　福田 英昭 先生
ＰＴＡ進路学習会	9/26（木）	全学年生徒・保護者	「高校生が考えている大学とは？先輩方はどのように大学を選んだのか」 講師：琉球大学教職員，現役大学生
教育講演会及びシンポジウム	11/23（土）	全学年保護者	演題「学校で伸ばせる学力と家庭で伸ばせる学力」 シンポジウムテーマ「進路実現に向けた学校と家庭の役割」 講師：木村 達哉 先生（灘高校教諭）

<table>
<tr><td></td><td></td><td></td><td>
<table>
<tr><td>１学年ＰＴＡ
ワークショップ
「やりたいこと
見つけまシート」</td><td>2/15
（土）</td><td>１学年
生徒・
保護者</td><td>ゲーム感覚のワークショップを通して，親子で「将来やりたい事，就きたい仕事」と「目標実現のために何が必要かについて考える」</td></tr>
<tr><td>ＰＴＡ進路講演会
「お弁当講座」</td><td>3/14
（金）</td><td>全学年
保護者</td><td>演題「親は誰でもトップサポーター
～受験を楽しく支える幸せご飯～」
講師：ﾗｲﾌｽﾀｲﾙｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ
崎浜 千春 先生
※講演後，お弁当づくりの調理実習を実施</td></tr>
</table>
平成２６年度９月末現在計４回の学習会・講演会・ワークショップ等を実施している。なお，これらのキャリア教育等に関する実践については，平成２６年度全国高等学校ＰＴＡ連合会福井大会の分科会において発表を行った。</td></tr>
<tr><td>仙台市</td><td>学校</td><td>仙台市立木町通小学校</td><td>平成１３年度から弟子入り体験（職場体験）を実施するとともに，地域の方々を社会人講師として招く職業講話，市内の社会施設等を訪ねてインタビュー活動を行う自主研修活動などを年間指導計画の中に位置付け，「学ぶこと」「働くこと」「生きること」を児童に実感させ，自主自立の精神を育む教育を実践している。
５年生で実施する弟子入り体験（職場体験）や６年生で実施する自主研修活動の前に，ふだん身近なところで働いている社会人講師を複数招き，仕事の中身だけではなく，「子供の頃にどんな夢を持っていて，今の仕事とどんな関係があるか」「働くことと仕事をすることの意義」「今の仕事を目指したきっかけや努力してきたこと」「やりがいや苦労していること」などの話を聴くとともに，今の自分が心掛けるべきことや生き方についてのアドバイスをしてもらっている。
この職業講話の特長は，学校が身近なところにいる社会人の方に，積極的に働きかけて講師を依頼していること，体験活動がより効果的になるように講話の内容を工夫し，指導計画の中に適切に位置付けていることである。そのことによって，体験活動に対する意欲を高め，子供たちがより多くのことを学びとれるような工夫がなされている。
また，弟子入り体験は平成１３年度から１０年以上継続して実施されており，地域の方々の協力のもとで，キャリア教育を充実させてきた。キャリア教育の年間指導計画は，教科や特別活動等との関連を丁寧に洗い出し，キャリア教育で育みたい力を意識して指導できるよう工夫されている。

このような継続的な取組によって，教育活動の中にキャリア教育がしっかりと根付き，子供たちが自ら学ぶ意欲を持って，自分を高めようとする力を育むことができる優れた実践であることから，キャリア教育優良学校として推薦する。</td></tr>
<tr><td></td><td>学校</td><td>仙台市立中山中学校</td><td>２年生で行う，５日間の職場体験活動を核に，３年間を見通した系統性のあるキャリア教育を地元商店街と連携して実施し，大きな成果を上げている。
平成２２年度から５日間の職場体験活動を地元商店街の全面的な協力の下で実施しており，その活動の中で，生徒たちは地域の一員として温かく迎えられ，多くの人との関わりを通して，コミュニケーションの大切さや地域の温かさ，勤労に対する心構え等について学んでいる。
事後の発表会では，他学年の生徒も一緒に発表を聞き，体験の中で学んだことを分かりやすく伝えるとともに，地域の一員としてどうあるべきか，東日本大震災の混乱の中で商店街の方々がどんな気持ちで手を差し伸べてくれたか等，体験を通して気付いたことや感じたことを共有する工夫を行っている。
また，３年生の総合的な学習の時間では，２年生での職場体験を基に，地域のために何ができるかを考え，提案する取組を行っている。
具体的には，東京への修学旅行の際に，地域活性化に取り組んでいる商店街を訪問し，自分たちが住んでいる地区の商店街の歴史や特徴，現在抱えている問題や取り組んでいることについてプレゼンテーションをし，その後，商店街活性化のため</td></tr>
</table>

			の取組についてインタビューを行う。そのインタビューをもとに，地元商店街の活性化に役立つことを話し合い，具体的な提案を商店街に対して行っている。その提案の一部は，地元商店街活性化策の一つとして実現されている。 これらの取組によって，自分たちが住んでいる地域の中で「働くこと」と「生きること」がどのようにつながっているかを感じさせるとともに，体験的な学習活動を発展させ，自ら主体的に働きかけたり，行動したりする力を育むことができる優れた実践となっていることから，キャリア教育優良学校として推薦する。
川崎市	学校	川崎市立平中学校	川崎市立平中学校は，平成２１年度より校内研究としてキャリア教育に積極的に取り組み，平成２４・２５年度には川崎市教育委員会のキャリア教育研究推進校として指定を受け，「『しなやかに生きる力を育むキャリア教育の研究』～生徒のキャリアを伸ばすクロスカリキュラムの推進～」をテーマに研究してきた。研究指定が終了した今年度も継続して，キャリア教育に取り組み，教育の成果を上げている。 キャリア教育を子供たちの将来の夢を形にするための手立てとして，総合的な学習の時間の中核に位置づけ，各教科等とリンクさせている。３年間の教育活動全体を見通し，計画的・系統的に各学年の内容を構成した。職場見学・職場体験等では，事前学習・事後学習にもていねいに取り組んでいる。 年間を通して，生徒一人一人の基礎的・汎用的能力の育成を図るため，キャリア教育推進委員会を核として，全教職員で共通理解することを大切にしている。 さらに，これまでの取組が，学校の理念や目的，教育目標を達成し，より効果的な活動になるために，成果と課題をていねいに振り返り，キャリア教育を活用した学校改革を進めている。 今年３月には，研究報告会において，これまでの取組の方法とその成果を広く市内の小中学校に発表した。 以上，川崎市のキャリア教育の充実，発展に多大な貢献をされていることから本表彰に推薦する。
横浜市	PTA団体等	特定非営利活動法人　A.S.C.C	横浜市立新井中学校の学校地域コーディネーターとして新井中学校地域職員室を拠点として平成１９年度より活動を開始する。平成２２年３月より現在の特定非営利活動法人「A・S・C・C」となる。 「A・S・C・C」は学校・地域コーディネーターとして，学校支援活動や総合型地域スポーツクラブの運営を行っている。キャリア教育への支援は，生徒が多くの人との出会いを演出したいとの思いから設立当初からかかわりを持っている。 **１　平成１９年度より** （１）職場体験活動（２年生）や職業インタビュー（１年生）の新規事業所の開拓の協力 （２）３年生の卒業前に”夢”応援プログラムとして職業体験講座の企画・運営 **２　平成２０年度より** （３）３年生の生徒，保護者の希望者に対して，面接マナー講座の企画・運営（平成２３年度より３年全生徒に実施） **３　平成２５年度より** （４）横浜市小・中学校交流日において小学６年生と中学１・２年生が合同で”夢”プロジェクトとして小中合同職業体験講座の企画・運営 （２）～（４）は，企画段階から教員との打合せを行い，講師選びから，当日までの講師との交渉，当日運営にかかわる協力者（サポーター）の募集，会場（教室）準備，運営までを行っている。教員は，「A.S.C.C」と連絡調整と生徒のコース決定までの作業等の仕事が中心になるので，（４）の新規事業をするに当たっても大きな負担なく行うことができた。また，講師等に関する費用も「A.S.C.C」の活動費より支援いただいている。 成果として，（４）の小中合同職業体験講座を実施することで４年間様々な職業を体験することができる。将来の希望や夢を持つ生徒が増加している。

京都市	学校	京都市立中京中学校	京都市立中京中学校では，これまでから学校の運営方針にキャリア教育の充実を掲げ，「基礎的・汎用的能力」の育成を目指し，全ての学校教育においてキャリア教育の視点に立った「学び」を，生活や自己の生き方に生かす力を育成する学校運営を推進している。学力向上施策においても，キャリア教育の視点を取りいれ，様々な教科においてグループ学習やポスターセッションを活用し，コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成に努めている。 特に今年度から，中学２年生で実施される「『生き方探究・チャレンジ体験』推進事業（職場体験活動）」の事前学習として「キャリア講座」事業を独自に展開している。 これは，職場体験活動による「仕事に対するやりがいや楽しさ」を学ばせることだけをキャリア教育と捉えるのではなく，子供たちに将来の夢を実現させるには中学校生活を始め高校，大学時をどのように生きていくか，どのように準備していくのかを考えさせることを目的に推進している。 具体的には，京都市中小企業家同友会と連携し，映画関連企業や弁護士事務所，京友禅に関わる商店など京都市内に事業所を置く企業の創業者や代表者などの複数名に，少人数グループによる講座の講師として御協力いただいている。 少人数グループでの実施のため，講師陣には「現在の仕事に就くまでどのような努力を重ねてきたのか」や「現在の仕事の苦しいところや，乗り越えるためにどのような努力が求められるのか」など様々な質問や意見が本音で交わされ，子供たちにとって将来に向けて何が必要なのかを考えさせる上で大きな契機となっている。 このことは，先述した職場体験活動においても，単に体験しその楽しさに気づくだけでなく，体験する仕事で求められる能力や資格など，どのような努力を重ねる必要があるのかまでを考えることを促すものである。 また，同校では進路保障に当たっても，自らの進むべき道を切りひらく力や自らの生き方を考える力を養うキャリア教育に視点を置いた進路指導に努めている。教員研修についても，子供たちのキャリア発達を９年間の連続した「育ち」や「学び」として意識し，校区の小学校教員との連携を重視した内容にて行っている。
	PTA団体等	京都こどもモノづくり事業推進委員会	「京都こどもモノづくり事業推進委員会」は，京都のモノづくりに関連する経済界，地元企業，大学，小中学校，工業高校，ＰＴＡ及び行政関係者等により構成され，平成１９年４月に設立された。 京都市教育委員会では，同委員会の指導・支援を受けながら「京都こどもモノづくり事業」を実施し，子供たちがモノづくりを学び・体験する機会を創出し，将来の生き方につながるキャリア教育を推進している。同委員会は，「京都こどもモノづくり事業」の企画・運営・評価を行い，京都市のキャリア教育活動を積極的に支援している。 「京都こどもモノづくり事業」は，①モノづくり企業創業者の生き方やモノづくりへの情熱等を学ぶとともに，モノづくり体験を行う「京都モノづくりの殿堂・工房学習」，②授業外で様々なモノづくりを体験する「京（みやこ）少年モノづくり倶楽部」，③創意工夫を凝らした車を製作し，速さや動きのユニークさ等を競う「至高の動くおもちゃづくり　トイ・コンテストグランプリ in Kyoto」の３事業を実施しているものである。 ①「京都モノづくりの殿堂・工房学習」は，京都市立小学校の約８５％に相当する１４３校・８，６６２名の児童が参加するまでに事業規模を拡大している。また，②「京（みやこ）少年モノづくり倶楽部」と③「トイ・コンテストグランプリ」は，小中学生がモノづくりへの興味・関心を高め，創造性・社会性を育む学びと体験の場を着実に創出している。このように事業開始以来，「京都こどもモノづくり事業」は，その質・量ともに充実し，京都市のキャリア教育の中で重要な位置を占めるに至っている。 モノづくりを通じたキャリア教育を推進する「京都こどもモノづくり事業」の充実発展に同委員会が果たした役割は極めて大きく，京都市のキャリア教育の推進に特筆すべき貢献をされていることから本表彰に推薦する。

大阪市	学校	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校は，高大７年間を見据えたプログラムのもと，ビジネススペシャリストの育成を目指し，大学や産業界と連携しながら次のような取組を通じたキャリア教育を推進している。 **１　監査法人等との産学連携教室** 同校では，専門教科「商業」における会計分野の学習において，実学として活用できる会計処理能力や社会人基礎力などの育成を目指し，監査法人との産学連携を図っている。 生徒は４名程度で編成したグループごとに，様々な業種から調査を行う企業を選択し，財務諸表分析を中心とした調査・研究を行っている。同講座ではディスカッションやプレゼンテーションなどの活動を重視し，監査法人の公認会計士からサポートを得て，現在の学びに基づくより専門的な視点に立った企業分析等を行っている。この取組は，学習内容と実社会とのつながりを意識させるとともに学習意欲の向上につながっている。 他にも様々な分野で活躍する職業人の方々から直接指導を受ける機会を数多く設定し，商業・ビジネスへの興味・関心を深めるとともに，目標へ向けて取り組むプロセスを体験することで，「自ら考え自ら行動できる力」を身につける産学連携教室を実施している。 **２　高大７年間を見据えた高大連携カリキュラム** 同校では複数の大学と連携し，高校・大学７年間を見据えたカリキュラムを実施している。その核となるのが「ビジネス・アイ」「ビジネス・マネジメント」の科目である。これらの科目では，連携大学の教授が同校の新たなビジネス教育のために執筆したテキストを用いて学習活動を行い，ビジネス分野において必須である経営リテラシーの基礎を身につける。更に連携大学では，同校の出身者を対象とした特別プログラム（ＡＬＳＰ（会計連携特別プログラム），ＢＬＳＰ（ビジネスリーダー特別プログラム）など）を用意し，同校での学習内容を更に深化させるとともに，より専門性を高めることができる高大連携カリキュラムを構築している。 また同校では，連携大学による指導のもとでＢＡＴＩＣ（国際会計検定）の取得を目指した講座を実施しており，連携大学への進学後は更に上位の資格やＵＳＣＰＡ（米国公認会計士）の取得も視野に入れている。他にも連携大学のサポートを得ながらＴＯＥＩＣの講座を実施するなど，高大７年間を見据えた系統的な取組を通じて，国際ビジネス社会において必要な基盤となる能力や態度の育成に努めている。 **３　グローバルビジネス教育** 同校では，国際的なビジネス社会で活躍する人材の育成を目指した全国で唯一の「グローバルビジネス科」を設置し，英語を活用した様々なビジネス体験学習に取り組んでいる。 「イングリッシュ・ビジネスプラン・コンテスト（ＥＢＣ）」では，生徒がグループを組み，海外市場をターゲットとするビジネスプランの策定に取り組み，英語によるプレゼンテーションを行っている。プラン策定の過程において，大手広告代理店のマーケティング部長を始め米国総領事館の副領事などの特別講師を招へいし，海外におけるビジネスプランの立て方や日本と海外の価値観の違い，英語でのプレゼンテーション技法の向上など，グローバルな視点に立った様々な教育活動を展開している。 また昨年度は，米国総領事館とグアム政府観光局の協力を得てグアムにおけるビジネス体験研修に取り組んだ。グアム大学での特別講義，地元企業での就業体験，観光客誘致策や商品開発のプレゼンテーションなど海外を舞台とする様々なビジネス体験を通じて，国際的な広い視野をもったビジネススペシャリストの育成に努めている。 同校は，大学や産業界との連携を図りながら高大７年間を見据えた系統的なキャリア教育を実践し，高等学校段階の学びを実社会に至る連続性・継続性のある

			学びへと接続することで，学習意欲の向上を図るとともに職業観・勤労観の育成に努めている。 教育委員会では，同校のビジネススペシャリスト育成に向けた組織的・系統的な取組を評価するとともに，本市が目指す新たな商業教育と位置付けている。 これらのことから，本市教育委員会は，同校をキャリア教育優良学校として推薦する。
神戸市	学校	神戸市立太山寺小学校	太山寺小学校は，校区の恵まれた自然と温かな人的環境の中で，児童が米・野菜づくりに継続して取り組み，農業の苦労や喜びを体験する活動に取り組んでいる。収穫した作物を感謝して共に味わい，更に近隣の保育所や老人施設・スポーツ施設等で食べてもらうことで，自分たちの労働が人とのつながりづくりや笑顔づくりに役立つこと実感させるとともに，その取り組みを通して，自分を価値ある存在としてとらえさせることで，将来に夢や目標をもって生きる態度や力を育んでいる。 【具体的な活動】 全学年の児童が地域の人の指導・協力を得て季節に応じた作物を育て収穫する活動に取り組んでいる。子供たちが植付けから収穫まで進んで行い，家に持ち帰って家族とともに食べる活動を通して，働く喜びを感じることができる活動となっている。１年生からの継続した活動となっており，来年度を見通して楽しみに待つ子供も多い。同じ場所で全校生が一緒に世話をする中で，高学年の子供が低学年の子供に教えたり手伝ったりする中で，子供たちは役割や責任感を自然に学び身に付けている。 ３年生では環境体験学習の一環として，ＪＡ野菜づくり青年部の方々の協力を得て，土づくりから植え付け・収穫，消費までを行っている。野菜づくりを通して雑草と虫の猛威に驚いたり，収穫した作物を袋詰めし，ラベルと生産者名のシールを貼ったりして生産したときの喜びを味わう。そして、野菜育成の苦労や，農家の工夫を知り，何物にも代え難い貴重な体験を通して，人と人がつながっていることを実感する活動となっている。また，身近な人々に収穫した野菜を届け，「おいしかったよ，ありがとう。」の感謝の言葉をもらうことで，子供たちが働く喜びや，人に喜んでもらえる喜びを強く感じる活動にもなっている。 太山寺地区の田を借り，近隣の東町小学校（４年生），小寺小学校（３・４年生）とともに田植・稲刈り・餅つきを体験し，稲作についての学習している。これらの活動は，老人会，各校の父母会・ＰＴＡの協力が不可欠であり，各学校と地域保護者が継続して連携できる体制づくりに中心となって取り組んでいる。 以上のように太山寺小学校は，本市において，地域の特色を生かしたキャリア教育の実践に先進的に取り組んでいる。
	学校	神戸市立青陽須磨支援学校	青陽須磨支援学校は平成２１年４月に開校し，市内特別支援学校の中で最も新しい特別支援学校である。開校当初より，キャリア教育の視点に立った指導を教育重点目標に据え，小・中・高等部一貫した系統的・継続的な指導を続けている。 小学部においては，集団生活に参加するに当たり，基本的な生活習慣の確立とコミュニケーション能力・意欲の向上を図った取り組みを続けている。例えば，登校後の朝の学習において，身支度や排せつ等自分のことは自分でできるようにゆったりとした時程のもと，一人一人のペースで進められるようにしている。また，校外での体験学習を毎週実施し，様々な体験をもとに伝えようとする意欲の伸長を図っている。中学部においては，リズムある生活を基盤とし，学ぶ意欲，集団参加の力の育成と職業に就こうとする態度・意欲を育む取り組みを続けている。例えば，作業学習の時間を時間割の中に多く取り入れた教育課程を編成し，作業を通して，将来の就労につながるような基本的な技能や勤労意欲を高める取り組みを行っている。高等部においては，生徒のニーズに合わせた４種類のコース制を設定し，生活習慣の充実を図る生徒から，企業就労を目指す生徒までそれぞれの生徒の障害特性やニーズを踏まえた教育課程を編成している。これにより，企業就労を目指す生徒においては，現場実習等就労に結び付く学習を中心にした時間割を設定し，外部講師を招きながらより専門的な作業能力の向上や企業が求める勤労態度の育成を図っている。

			青陽須磨支援学校では，将来を見据えた育成すべき能力ごとに，各学部段階で具体的な目標を示したキャリアプラン・マトリックスを作成し，全ての子供がキャリア教育の対象であることを再確認しながら，指導に当たっている。授業研究等でも，キャリアプラン・マトリックスをもとにキャリア教育の視点による評価をしながら，子供たちが主体的によりよく生きる力を育てる授業を目指している。
広島市	学校	広島市立湯来中学校	本校は，「確かな学力を身に付け，感性豊かな生徒の育成」を学校教育目標に掲げ，恵まれた自然を生かした体験活動を通して，豊かな人間性，自然を愛する心，他人を思いやる心などを養うとともに，生徒の発言をつなぎ小集団のかかわりをもたせる授業や保護者と連携した家庭学習の充実など，小規模校ならではのきめ細かな指導による基礎的・基本的な学力の定着を図っている。特に，保育園，小学校，高等学校と連携した行事や，地域人材を活用した体験活動など，他校種，地域と連携を図った組織的・系統的なキャリア教育に取り組んでいる。 **１　他校種との連携** 小学校と合同で運動会を実施し，小学生との相互援助的な交流の中で，頼られる体験やお世話をする体験，感謝される体験などを通して自己有用感や，自己理解能力，社会形成能力の育成を図っている。また，文化祭を地域の福祉会館で行い，町内の高等学校の生徒による和太鼓の演奏や，小・中学生による神楽の演舞など，異年齢との交流を通して人間関係形成能力の育成を図っている。さらに，３年生では商業高校と連携し，社会人として必要なマナーや心構えについて考える授業を展開している。 **２　地域との連携** 地域にある工房で，地域の山林から伐採した竹を使ってキャンドルライトを製作したり，地域にある水内川でカヌー体験や水質調査，鮎の放流をしたりする活動を通して，地域の自然の豊かさを再認識するとともに，環境保全の大切さについて学んでいる。また，毎年８月６日の慰霊祭で行う平和への思いを乗せた灯籠流しでは，地元の漁業組合の協力を得て，灯籠の回収を行い，自然を守る意識を高めている。さらに，川の水質調査のまとめや各教科等の作品を，公民館や福祉会館に展示することで，学校の取組を地域に発信している。 歯科検診や避難訓練を利用して，医師や消防士，警察官から，それぞれの仕事のやりがいや厳しさ等についての講話を聞く機会をもち，働くことの意義を考え，将来に対する夢やあこがれを抱くことができるようにしている。 このように地域と学校が一体となった取組を通して，課題対応能力やキャリアプランニング能力の育成を図っている。 **３　５日間の職場体験学習の実施** １年生で事前に職業調べと職場訪問を実施し，２年生で５日間の職場体験学習を実施している。体験後には，地域の方々を招いて報告発表会を行い，３年生での主体的な進路の選択・決定，将来設計の学習に結びつけている。